

会 議 録

会議の名称		令和 6 年度第 1 回つくば市生涯学習審議会		
開催日時		令和 6 年 8 月 21 日（水） 開会午前 9 時 30 分 閉会正午		
開催場所		つくば市役所 2 階 201 会議室		
事務局（担当課）		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	武田 直樹委員（会長）、小森谷 さやか委員（副会長）、石川 由美子委員、石塚 一夫委員、石原 亜矢子委員、黒崎 博委員、後藤 真紀委員、鈴木 朱里委員、田中 秀夫委員、田中 依子委員、中嶋 修委員、萩原 武久委員、福井 正人委員、溝上 智恵子委員、山崎 誠治委員 欠席：長橋 進也委員		
	その他	森田 充教育長		
	事務局	吉沼 正美教育局長、久保田 靖彦次長、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、山口 健次参事、瓜阪 恵理名課長補佐、渡辺 幹高係長、岩田 真樹子係長、大久保 竣介主事、小宅 剛主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	0 名
非公開の場合はその理由				
議題		1 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画令和 5 年度進捗状況について 2 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画令和 6 年度事業計画案について 3 （仮称）第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画策定の考え方について		

会 議 次 第	1 開会 2 任命書交付 3 副市長挨拶 4 自己紹介 5 会長及び副会長選出 6 諮問 「（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画」について 7 議事 (1) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和5年度進捗状況について (2) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和6年度事業計画案について (3) （仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画策定の考え方について 8 その他 9 閉会
------------------	---

1 開会 事務局（瓜阪）	定刻となりましたので、令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会を開会いたします。 つくば市教育局生涯学習推進課の瓜阪と申します。本日司会を務めます。よろしくお願いいたします。
2 任命書交付 事務局（瓜阪）	はじめに、任命書の交付をいたします。本日は五十嵐市長の代理として、松本副市長より任命書の交付、挨拶及び諮問をいたします。本日任命の16名の委員を代表し、石川由美子委員に任命書をお受け取りいただきたいと思います。 ＜任命書交付＞ ありがとうございました。なお、その他の皆様の任命書につきま

3 副市長挨拶 松本副市長	しては、机上に配布させていただいておりますのでよろしくお願いいたします。 続きまして、副市長より皆様に挨拶を申し上げます。 皆様、本日はお忙しい中つくば市生涯学習審議会に御参集いただき誠にありがとうございます。この審議会は、生涯学習を総合的に推進するための市の諮問機関となっています。皆様には委員就任の御快諾をいただきまして、今回新しい体制での会議となりました。今期も生涯学習に携わる団体の代表の皆様、市民委員の皆様、女性委員の皆様と多様で幅広い方々に御参加いただくことができましたので、多角的な視点での議論を展開していただけることを期待している所でございます。 つくば市教育大綱ですが、一人一人が幸せな人生を送ることを最上位の目標に掲げております。それに基づく第3次生涯学習推進基本計画の基本方針を同じくいたしまして、多様な学びの実現や「社会力」の育成など4つの施策の柱をかかげて進めているところです。皆様には本日から、来年の末に策定予定の（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画について御審議いただくこととなります。つくば市が今後どのような生涯学習施策に取り組んでいくべきか、様々なお立場やお考えの元に忌憚のない御意見を頂戴いたしまして、市民や地域にとって幸せにつながる計画にしていきたいと存じますので、どうぞ御協力をよろしくお願いいたします。
4 自己紹介 事務局（瓜阪）	続きまして、今回の会議より新しい審議会の体制になりましたので、机上に配布している名簿順に自己紹介をお願いいたします。氏名と任命区分について、石川委員より順に一言よろしくお願いいた

石川委員	します。 おはようございます。つくば市の南端から参りました石川由美子と申します。10 年ほど前に地域でものづくり会という活動を立ち上げました。これをどのように発展・充実させ、継承していくかを勉強をするために市民委員として応募いたしました。よろしくお願いいたします。
石塚委員	名簿番号 2 番の石塚です。つくば市シルバークラブ連合会の会長をしています。住まいは荃崎地区です。よろしくお願いいたします。
石原委員	おはようございます。3 番の石原亜矢子です。つくば市学校長会、つくば市立要小学校の校長でございます。よろしくお願いいたします。
黒崎委員	4 番、市民委員の黒崎博と申します。つくば市で教育学習支援事業を行っております。e ラーニングや CBT (Computer Based Testing) の配信・運用などを行っております。また、昨年度つくば市こども未来プラン懇話会の委員も務めさせていただきました。これらの経験を生涯学習推進基本計画の委員としても活かしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。
後藤委員	5 番のつくば市福祉団体等連絡協議会の後藤と申します。つくば市内の 16 の障害者団体が加盟する連絡協議会になります。小学 1 年生から旧筑波町に移り住み、今日まで在住をしております。よろしくお願いいたします。
小森谷委員	市議会を代表しての参加となります。6 番の小森谷さやかと申します。どうぞよろしくお願いいたします。
武田委員	8 番の NP0 法人フュージョン社会力創造パートナーズの武田と申します。原発避難者の支援や社会力ある人財の育成をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

田中（秀）委員	9番の田中秀夫です。つくば市文化協会の会長を務めさせていただいております。よろしくお願いします。
田中（依）委員	10番の田中依子と申します。私は前回も市民委員としていろいろ学ばせていただきまして、さらにこの生涯学習と地域への繋がりの部分でまた皆様にいろいろ教えていただきながら、一緒に考えさせていただきたいと思って応募いたしました。よろしくお願いします。
中嶋委員	11番の中嶋修です。青少年を育てるつくば市民の会の会長をしております。住まいは荃崎地区です。よろしくお願いします。
萩原委員	13番の萩原でございます。現在、つくば市スポーツ協会の会長と、つくば市スポーツ振興担当理事も併せて、拝命をいたしております。よろしくお願いいたします。
福井委員	14番の福井正人と申します。市民委員としてかかわらせていただきます。6年ほど前に単身赴任でこちらに赴任して参りました。リハビリテーションを専門にしております。生まれの兵庫県で生涯教育推進審議会委員に任命された経験があり、この審議会で経験を生かせればと思います。よろしくお願いします。
溝上委員	15番の溝上でございます。昨年筑波大学を定年退職し、今は国士舘大学に着任しておりますが、生涯学習政策を専門としています。よろしくお願いいたします。
山崎委員	社会福祉協議会の中につくば市ボランティア連絡協議会というものがあります。活動団体の方と非常によく接する機会があり、ボランティア活動も生涯学習の1つの大きな柱だと思います。そんな団体をまとめていこうと世話人代表をしております。16番の山崎です。よろしくお願いします。
事務局（瓜阪）	委員の皆様、ありがとうございました。続きまして、事務局であ

	ります、つくば市教育局の出席者を紹介させていただきます。 <出席者照会>
5 会長及び副 会長選出	
事務局（瓜阪）	続きまして、議事に入ります前に、会長と副会長の選出を行います。選出方法につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第五条第2項に、会長及び副会長は、委員の互選によって定めるとあります。委員の皆様、いかがでしょうか。
石塚委員	事務局案はありませんか。
事務局（瓜阪）	ありがとうございます。事務局案の提出について、石塚委員から御発言いただきました。事務局としましては、会長は武田委員。副会長は小森谷委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。
	<異議なし>
事務局（瓜阪）	ありがとうございます。それでは武田委員が会長、小森谷委員が副会長に決定いたしました。武田会長、小森谷副会長、どうぞよろしく願いいたします。武田会長は会長席へ、小森谷副会長は副会長席へ移動をお願いいたします。
	<会長、副会長席移動>
	それでは武田会長から一言ごあいさつをいただきたいと思います。武田会長お願いいたします。
武田会長	僭越ながら会長に選任いただきました武田でございます。つくば市の生涯学習の発展のために、微力ながらも貢献できればと思っております。どうぞよろしくお願いします。
事務局（瓜阪）	ありがとうございました。続きまして、小森谷副会長、一言ご挨拶をお願いいたします。

小森谷副会長	副会長を務めさせていただく小森谷でございます。今日は担当職員 of 皆さんもずらりといらっしゃっていますが、皆さんと活発な議論ができることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたしますします。
6 諮問	
事務局（瓜阪）	続きまして、議事6 諮問を行います。 令和7年度末に策定予定の「（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画」について、つくば市長からつくば市生涯学習審議会会長に対して諮問を行います。松本副市長、武田会長、前へおいでください。
松本副市長	諮問書、今後本市が生涯学習をより一層推進するため、「（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画」の策定について諮問いたします。
事務局（瓜阪）	＜松本副市長より諮問書交付＞ 松本副市長、武田会長ありがとうございました。松本副市長は公務により、ここで退席をいたします。 ＜松本副市長 退席＞
7 議事	
事務局（瓜阪）	それでは、次第の7 議事に進みます。 議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第六条第2項に、会長は会議の議長となると定められておりますので、武田会長に議事を進めていただきます。本日の出席委員は15名で、委員の過半数が出席しておりますことを申し添えます。また、本審議会は、つくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき、公開いたします。 それでは武田会長お願いいたします。

武田会長	(1) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 令和5年度進捗状況について 早速議事に入りたいと思います。つきましては議事7 (1) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画 令和5年度進捗状況について、事務局からご説明をお願いいたします。 <事務局説明>
武田会長	ありがとうございました。ではただいまの件につきまして、意見質問等ございますか。
黒崎委員	資料1-1の全体評価の項目のうち、「地域で学び続ける仕組み作り」と「実践できる人材の育成」が令和4年度と比べて点数が下がっていて、これだけ見ると後退してしまった印象を受けます。ただ、資料1-2の評価の方法を見ると平均を用いているとありますので、極端に良い評価や悪い評価がある場合はそれに影響を受けやすいのかなと思いました。実際、資料2-1を参照すると「実践できる人材の育成」の項目は3項目ありますが、事業番号32・34は総合評価Aなのに、事業番号33がCとなったことで全体評価が下がっています。なので、全体評価だけでなく各事務事業をきめ細やかに見ていく必要があるという印象をまず持ちました。
生涯学習推進課	平均を取ることで評価をしているので、事務事業の総数により平均の落差が大きいというのは事実であると考えております。 ただし、評価に関する全体のスタンスとしてはまさに黒崎委員におっしゃっていただいたとおりで、全体評価を軸に議論をしていたくというより、各事務事業の実績に皆様に御意見をいただき、個別の事業をより良くすることが全体の評価向上に繋がるという形でこれまでの審議会も議論をしていただいています。そうした観点で委員の皆様にご意見いただければと思っております。よろしくお

	願います。
小森谷副会長	資料 2－2 について質問して大丈夫ですか。
武田会長	はい。
小森谷副会長	資料 2－2 の事業番号 1 「図書館利便性向上事業」について、利用
	者数は増加しているけれども貸出冊数が増加していない課題に
	対する取り組みとして電子書籍の記載は組み込まなくていいのか
	気になりました。
	電子書籍の利用自体もあまりうまくいってないのかとか、その辺
	の実態を教えてください。
中央図書館	中央図書館館長の柴原でございます。ただいまの御質問の電子書
	籍につきましては、令和 4 年 10 月から導入を開始しています。令
	和 5 年度の一年間、導入により極端に貸出冊数が増えたという事実
	はなく、それを踏まえまして、令和 6 年度は新たに義務教育学校も
	含めた小中学校の全児童生徒へ ID パスワードを振り、GIGA 端末を
	使って電子書籍を利用させていただくという取組を進めています。
	令和 5 年度は前年度と比べて、特に踏み込んだ施策、サービス提
	供はできなかったのも、実績には電子書籍に関する実績は設けさせ
	ていただいております。以上です。
小森谷副会長	電子書籍の取り組みは令和 6 年度現在も進めていただいている
	というお話でしたけれど、電子書籍は要望が多かった項目なのでぜ
	ひ評価項目にも加えていただき、検証を進めていただければと思い
	ます。
	次に、事業番号 3 「民間企業での生涯学習事業」とても良い取組
	みだと思えますし、総合評価も S ということで興味があるのですが、
	7 回の出前講座では特にこういった内容にニーズがあったのでし
	ょうか。

生涯学習推進課	御質問ありがとうございます。例えば JAXA 筑波宇宙センター、国立研究開発法人産業技術総合研究所などの研究員や所属されている方への福利厚生研修の位置づけとして御好評いただいています。 昨年度だと防災に関する講座、高齢者の介護に関する講座にニーズがあるようで、オファーをいただいた担当課の職員が出前講座として赴きました。民間企業も時々、社員の研修の一部に良いということを利用していただいています。
小森谷副会長	ありがとうございます。有事の際の協力関係を築くためにも民間企業さんに向けて積極的に防災講座を開いたり、ゴミ分別の協力であったり、民間企業と連携できる場所はあると思います。積極的に講座の PR を進めていただきたいと思います。 もう一つよろしいでしょうか。事業番号 26「文化財サポーター事業」が総合評価 D ということであまり良い結果に結びつかなかったということですがもう少し詳細を教えてください。
文化財課	文化財課活用係係長の広瀬と申します。よろしくお願ひいたします。意見交換会開催回数が 4 回から 1 回に縮小した件については、まず前提として、文化財課が関係しているボランティアとして、文化財課で組織した文化財ボランティア団体と、民間の常陸小田城親衛隊の会の 2 つがあります。親衛隊は情報交換を兼ねて月 1 で会合を行っていたということで、それに倣い文化財サポーターも意見交換会を開催しようとした意図があり、季節ごとで 4 回という設定をしました。ただし、現実的に実施が難しく、実際に意見交換会を行えたのは 1 回でありました。目標の設定が多すぎたということで、今年度は 2 回を検討しております。以上です。
小森谷副会長	今のボランティア団体のニーズを受け止めるために意見交換会

文化財課	を開催しようという発想はよかったと思いますが、日程の調整が厳しかったということですね。新規のボランティア養成講座は、今年度も中止ですか。 昨年度は既に参加している方を対象に研修をしていましたが、令和6年度に関しましては新たに募集をかけて、ボランティア養成講座を予定しております。以上です。
小森谷副会長	やはりボランティアが活躍できる場所の見える化が大事かと思っていますので、文化財の解説ボランティアの育成だけではなくてその後の活躍の場についても取組を進めていただければと思います。
石塚委員	石塚です。5ページの事業番号12「男女共同参画啓発事業」、この事業について20年程前に盛んに話し合いをした記憶があります。にもかかわらず、まだまだ総合評価がBと低いのは、注力されていない印象を受けます。これだけ長期的に継続して行われている事業なのになぜ評価がBなのか、素朴な疑問がありますのでお話いただければと思います。
ダイバーシティ推進室	ダイバーシティ推進室室長の梅田と申します。令和6年度から男女共同参画室の名称がダイバーシティ推進室と変わりました。今回B評価がついた理由といたしまして、昨年度は全10回の男女共同参画セミナーを予定しておりましたが、講師の方の体調不良等により開催ができない回がございました。その結果が影響して、B評価となったことが理由だと考えております。
石塚委員	ありがとうございます。これからも男女共同参画は非常に大事な事業だと思いますので、引き続きしっかりと進めていきたいと思っています。 それから8ページの事業番号25「学校施設開放事業」、課題と今後の取組を今一度説明していただけないか。

教育施設課	教育施設課課長の大口と申します。御質問があった学校施設開放事業とは学校施設を学校教育に支障がない範囲において、市民に利用提供することによって、生涯学習及びスポーツの振興を図ることを目的としております。各利用者につきましては、少年団や地域に根差した団体、障害を持った方々が活動する団体など、子供から大人まで、様々な形態で活動されております。各団体で活動目的や活動状況等も異なることから、様々な御意見等を寄せられているという状況です。資料にもある通り、稼働率もほぼ 100%に近い稼働率となっておりますので、課題としましては、限りある施設をより皆さんに使いやすく利用いただけるように知恵を絞りながら活動しています。 そのため、1つの団体が複数施設を独占することがないように、例えば1曜日は、1団体につき、申請は1施設・体育館までとするなどの改善を含めた検討を進めています。
小森谷副会長	今の事業に関連して質問をさせていただきます。お話の通り、1団体の重複申請がないように調整を進めていただけているとは思いますが。まだ課題はあるとして、改善はしているのでしょうか。
教育施設課	教育施設課の大口です。一昨年は各団体さんの抽選という形式を取ったことで各団体が全曜日を選択してしまったような背景もあり、混乱した事情はございました。先ほどお話した通り、今年度は希望調査を行って1団体1曜日につき1ヶ所という条件を定めましたので、混乱もなく、スムーズに学校開放の調整会議を進めることができました。そのため、着実に皆さんが使いやすいような施設に改善していると考えております。
小森谷副会長	他の自治体の例ですと、そうした制限が1週間のうち何時間までと制限を設けるところもありますが、つくば市としてはそうしたル

教育施設課	ールは作らずに、なるべく会議で調整をしていきたいという考えでよろしいでしょうか。 教育施設課の大口です。ルールを作らないのではなく、より良いルール＋αを作っていきたいという思いがあります。一般団体の他に少年団や障害者団体など、各団体で利用目的が異なるという前提がありますので、一概にルールで縛るのではなくて、希望が重複した場合の話合いは継続していきたいと考えています。
石塚委員	私どものシルバークラブでも学校施設をお借りしたいと思いながら申請をしてもほぼ空きがなく、お借りできないと話を聞いております。荃崎地区には体育館が少ないので、シルバークラブの活動となると簡単なスポーツをするにしてもふれあいプラザや交流センターなどが主ですが、施設の狭さや騒音などがあります。室外で輪投げ大会をしようとしても天候が悪ければ中止になってしまうので、スポーツの機会が難しいです。谷田部の体育館を利用する話もありますが、全員高齢者なので移動手段が課題になってしまうのもっと気軽に利用出来ないかなと思っております。 それから、２ページ事業番号５「地域交流センター活用事業」に関することで、荃崎地区には荃崎交流センターに隣接してつくば市立市民ホールくきざきがあります。市民センターをどこかの団体が利用する時には、駐車場の問題などがあるのだと思いますが、交流センターを利用出来ません。ただ、交流センターの会議室を利用したい団体の中には駐車場が利用できなくても問題ないところもありますので、臨機応変に対応していただけないでしょうか。内規的にルールがあるのかもしれませんが、検討していただければありがたいと思います。
地域支援課	地域支援課課長の根本です。御意見どうもありがとうございます

後藤委員	す。そう言った御意見が何回か私たちのところにも伝わってきておりますので、貴重なご意見・要望として、我々の方で検討していきたいと考えております。 資料２－２、ページ数が分かりにくいので大きく記載をしていただきたいです。５ページの事業番号 11「障害者の生涯学習関連事業」と 13「障害者スポーツ推進事業」の予算と決算がかけ離れている理由をお伺いしたいと思います。
武田会長 生涯学習推進課	まず事業番号 11 についていかがですか。 生涯学習推進課社会教育係の岩田です。まず予算と決算額が大きく違う理由ですが、当初講師にお支払いする謝礼の他、ボランティアに来ていただく場合の有料駐車場を使う場合等の費用を見込んでいたところでしたが、実際は大穂の体育館を使用したことで駐車場に関する金額は掛からなかったため、こういう結果となりました。
武田会長 スポーツ振興課	続きまして、事業番号 13 についてスポーツ振興課の方からお願いいたします。 スポーツ振興課の中川と申します。こちらの障害者スポーツ、スポーツ施設を体験できる体験講座等、障害者スポーツサポーター養成研修を兼ねた講座を 2 回実施したとありますが、令和 5 年度初めての事業となりますので、参加者数からの費用想定が難しく、ある程度幅広い事業予算を取った次第です。結果としては、回数と参加人数が限られたこともありまして、こちらの事業決算の金額になったと理解しております。
黒崎委員	先ほど質問があった事業ですが、事業番号 26「文化財サポーター事業」は登録者のモチベーション意欲を向上させることが目標かと思いますが、このボランティアは無償でしょうか。

文化財課	文化財課活用係の広瀬と申します。費用弁償相当として1回千円をお支払いしております。
福井委員	5ページ、事業番号14「生涯学習関連事業（障害のある人や支援者対象）」のおひさまサンサン生き生きまつりの目標700人に対して、実績は299人で半数以下ということですが、想定よりも参加者が集まらなかった要因として考えられるものは、いわゆる移動手段などが挙げられるのでしょうか。
障害者地域支援室	障害者地域支援室の福田と申します。おひさまサンサン生き生きまつり自体が令和2年度から4年度にかけて新型コロナウイルスの感染症拡大の状況から中止をさせていただいていました。今年度、令和5年度実施のときには御心配の声がありながらも感染症対策を徹底しながらであれば参加したいというご意見を踏まえて、実施いたしました。開催に向けて各団体や施設へお声掛けさせていただくのですが、まだ御心配の声も少し多かった状況がございました。そのため、参加人数は想定よりも少なくなったと受け止めています。また、参考までに令和元年度には478名の障害者の方がご参加されていました。
田中（依）委員	11ページ、事業番号33「地区リーダー勉強会事業」にC評価がついておりまして、つくば市としても近年の自治会の加入率低下が課題で、住宅開発が進む中で自治会そのものがないところとかも増えている現状もありまして、もう少し詳しくお話を聞かせていただけたらと思います。
市民協働課	市民協働課課長の美野本と申します。御質問ありがとうございます。まず地区リーダー勉強会について、主に地域社会のリーダーである区長さん向けの勉強会ということで始まりまして、コロナ前までは対面方式で会議室に各区長さんが集まって講師の先生をお呼

	びする形で開催しておりました。令和２年度と３年度はコロナで中止になりまして、令和４年度はWeb配信を行いましたところ視聴数が700件を超えたため、令和５年度は視聴数目標を600に設定させていただきましたが、実績としては299でした。御質問の通り、今区会自体が設立されないケースや区会へ参加しないケースもある状況を我々も把握しております。ただ依然として地域コミュニティの核となり得るのが区会活動であると考えておりますので、リーダーとなるべき人財の育成・意識向上を図ればということで引き続き勉強会は行って行きたいと考えております。 なお、令和４年度に視聴数が700件を超えた際の勉強会テーマとしては“巨大地震と豪雨災害への備え”という講演でして、やはり防災関係には特に興味がおありなのかなと感じております。令和５年度には“令和・アフターコロナの自治会運営と共助コミュニティ活性化”という講演でしたので、自治会に関して興味関心がある方に御参加いただけたのだと捉えております。今年度も９月20日から10月10日まで配信を予定しておりまして、直近の様々な災害の話題がございますので、“防災は自助・互助・協働のまちづくり”というタイトルで講師へ講演依頼をしているところでございます。
田中（依）委員	ありがとうございます。本当に大事なことだと思いますし、新しくつくば市に転入された方々が不安に思いながらも、どんな風に人と繋がっていいかわからない部分もあると思いますので、こうした発信を広く発信していただいて、区長さんのみを対象にするのではなく、1人でも多くの方に届くように発信の工夫をしていただければと思います。
中嶋委員	生涯学習推進というあまりに幅広い分野ですので個々の事業についてお尋ねしたいことはないのですが、青少年や子ども達の居場

	所をどこに作るべきなのかということと、組織的でなく個人や少人数で気軽にできる生涯学習のことを考えております。資料２－１、“施設の利便性の向上”という項目を重要視しています。事業概要の”誰でも気軽に利用できるような施設づくり”とあると施設を新しく作る事業のようにも聞こえますが、規則づくりといった意味合いでしょうか。先ほどの学校施設開放事業についての課題もありましたが、気が向いた人や子どもが公園に行って遊びながら自由に何かを学習できるような機会ができていません。その為に何か事業や施策を取るという形になるとどこの課の担当になるか固定化されるので、オープンな居場所づくりをしてもらえる生涯学習にしていきたいと思っております。 (２) 第３次つくば市生涯学習推進基本計画 令和６年度事業計画案について
武田会長	時間が差し迫ってきておりますので、申し訳ありませんが議事(２)に進ませていただきます。同じく今年度の結果を踏まえてとなりますので、併せてご質問いただければと思います。
武田会長	＜事務局説明＞ ありがとうございます。11時15分頃に一度休憩を挟みたいと思いますので、目安にさせていただきながら質疑応答をお願いします。
黒崎委員	資料３を見ると一目瞭然ですが、生涯学習に携わる担当課が非常に多く複雑な印象を受けます。担当課を横断するような情報発信が必要ではないかと思えますけれど、現状、生涯学習に関する情報発信はどのようにされているのでしょうか。
生涯学習推進課	御質問ありがとうございます。事務事業としては３ページ、事業番号７「情報収集・発信事業」が該当するものです。まず、課や部

	を跨いだ生涯学習にスポットを当てた広報活動となるとまだ具体的にはたどり着いていないというのが現状ではあります。個別の講座がホームページ上でまとまって掲載されていない状態に課題と問題は感じております。今年度の広報つくば5月号には生涯学習推進課の分野が異なるものをまとめて、市民の皆様の目に留まりやすい広報活動の実施をいたしました。計画策定でもおそらく話題になるポイントだと思いますので、これを端緒に分野横断的な広報活動に取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。
黒崎委員	ありがとうございます。つくば市のホームページは各担当課のページに飛べば新着情報に各々の生涯学習の情報が載っていますが、日々つくば市の各担当課のページをチェックしている人はそうそういないと思います。私は先日つくば子育てサポーター研修を受講いたしました。そのきっかけというのはSNSのつくば市ハッシュタグでした。ですので、SNSの積極的な利用なども御検討いただきたく感じています。ぜひよろしくお願いいたします。
鈴木委員	1ページ、事業番号7「市民交流施設利便性向上事業」の“誰でも気軽に利用できるような施設づくり”ですけれども、こちらで市民センターや交流センターの達成状況と目標が挙げられています。令和6年度にはさらに利用者が見込まれる書き振りがかと思えます。先ほども他の委員が質問されていましたが、現状は施設を利用したいと思っても枠が空いていないといった状況がござい。つくば市の団体は非常に多いですから、場の用意さえできれば多くの活動が活発になるかと思えます。また新しく施設を作る検討はされているのか、お聞きしたいです。
地域支援課	地域支援課課長の根本です。ご質問どうもありがとうございます。

鈴木委員	す。新しい施設と申しますと、直近では荃崎地区の保健センターをコミュニティ施設へと改修を考えており、検討案を進めています。改修後は1階に会議室やキッズスペース、2階に会議室や調理室を設ける予定ですので、ボランティア団体の活動場所とはやや異なるとは思いますが、こうした施設も利用を推奨していきたいと思います。 ありがとうございます。未就園児は地域子育て支援拠点など遊ぶスペースがありますが、昨今増加傾向にある不登校児童が平日や夏休みの長期休暇に利用できる居場所がやはり少ないことに困っている声もあります。高学年の子どもでも利用できる施設を検討いただけたらと思います。
萩原委員	まずはたくさんの生涯学習事業を展開していただいて、それが実を上げてきていることへ敬意を表したいと思います。担当している皆さんには本当にお疲れ様ですと申し上げたいと思います。その上で2点お伝えします。1つは勿体ないと感じるのが、事業番号24「生涯学習指導者情報提供事業」にあるOB人材の活動支援です。ここについては行政として、OB人材として登録している方々が何を教えることができるのか分かるマーケットを開拓していただくことにかかっていると思います。もう1点は、事業番号33「地区リーダー勉強会事業」です。内容については問題なく、このとおりなのですが、勉強会という名前が固すぎるという印象を持ちますので、人の目にパッと飛び込んでくるような、興味を持ちやすい名称へ変更を検討していただければと思います。 せっかく教育長がいらっしゃるので質問なのですが、生涯学習というのは成人した人間のみ対象でしょうか。私は違うと思います。出来ることなら、義務教育時期から何かしらのイントロを用意する

森田教育長	ことが必要かと思うのですが、いかがでしょうか。 御意見大変ありがとうございます。萩原委員の応援の気持ちとして伺っておりました。生涯学習とは言葉のとおり「生涯」ですので、小さな子どもから高齢者の方、障害のある方まで皆さんが学べることが大事だと思います。私は、小中学校の子供たちにも社会での経験や地域の人と交流するといった、学校の中だけで収まらない学びをしていくべきであり、成人してもそうした繋がりを元に活動ができるような資質をしっかりと伸ばしてあげることが必要だと思っております。萩原先生のお気持ちをしっかりと受けとめて、また今後も頑張りたいと思います。ありがとうございます。
武田会長	では、次に OB 人材のマーケットの開拓ということで御示唆いただきましたがこちらはいかがでしょう。
企画経営課	はい。企画経営課の川原と申します。御質問、また励まし、的確な御指摘ありがとうございます。こちらの OB 人材の紹介事業につきましては、研究機関等で専門知識を持った方がリタイアした際にその専門知識を地域に還元して欲しいという目的から行っている事業です。データベースといいますか、その方々に教えていただける知識をまとめたものを冊子にして、お配りしています。マーケットのお話に繋がりますが、コロナ禍で利用実績が減少した前提があり、作成した冊子をどこに配布することが効果的に事業のてこ入れに繋がるかという検証を去年 1 年間取り組みました。そうした所、過去に多く利用があったのはつくばエキスポセンターを始めとした施設と分かりましたので、何件か営業をかけ、コロナ禍で実績が一桁だったところが 70 件を超えるところまで回復してきたところでございます。この過程でまだまだ過去に利用していただいた事業者が他にいることが分かりましたので、今年度はそうした場所へ冊

武田会長	子を持って働きかけを予定しており、それによってマーケット拡大を考えております。 では、次に事業番号 33「地区リーダー勉強会事業」の名称についてということでお願いします。
市民協働課	市民協働課課長の美野本でございます。御指摘ありがとうございます。市民協働課と区会連合会の代表の間でテーマなど決定をしているのですが、題名を含めて皆さんの興味をより引くようなものへ、という御指摘は最もですので、今後皆さんにさらに興味を持っていただける形になるよう検討を進めていきたいと考えて考えます。ありがとうございました。
溝上委員	来年度、結構野心的な目標を立てているプログラム等々がありまして、期待するところ大でございます。ただ、国の生涯学習施策の中では、障害を持った方の生涯学習をどうするかが大きな課題の一つだと思います。それに関連していいますと、5 ページの事業番号 11、13、14 あたりが、特につくば市として障害者を対象にした生涯学習事業かと思う所です。事業番号 11 ですと、先ほど資料 2－2 では福祉的要素が強くなるので庁内連携強化が必要だというコメントを出されていらっしゃったので、もしかしたらここに掲載していない取組もある可能性があるのでしょうか。もしあるのでしたら 1、2 例教えていただきたいというのが 1 点です。 2 点目、この 11 番の事業令和 5 年度の総合評価が S 評価でした。令和 5 年度の指標と比較すると、恐らく令和 6 年度も講座は 1 度の開催のみで、アンケートの満足度を取って終了することを想定しているのかと穿った見方をしてしまうのですが、せっかく事業概要にも障害者への支援体制の構築とあるわけですから何か想定している案があるのであれば教えていただきたいです。

生涯学習推進課	生涯学習推進課社会教育係の岩田と申します。ありがとうございます。事業番号 11 の質問についてお答えさせていただきます。こちらに記載のない事業は現在ありません。ただ、今年度の実施にあたって障害者団体の方と意見交換をした際に、障害者の方が就労をしてもお仕事を結局辞めてしまう子が多く、なぜかと言えば働く目的を見出せないことが理由だということでした。その中で生涯学習というのは、働くことで例えば何か趣味をしたいということにもつながる重要な役割を担っているという御意見を頂戴しており、今年度は例年の卓球バレー体験講座の規模拡大の実施を検討しております。また、今後はそうした意見も踏まえまして、充実を検討していきたいと考えております。
生涯学習推進課	回答の補足です。具体的には把握しかねているため、今この場で具体的にお答えすることはできませんが、現行計画策定からの 5 年間で他にも取り組んでいる事業はおそらくございます。この後の議事にも出てきますが、第 4 次計画の潮流としては“ウェルビーイング”が謳われていることから障害者の生涯学習というのも強く打ち出されるところと考えますので、委員の皆様からも次期計画内ではこの分野を分厚くしていこう、庁内のリサーチをかけて事業を考えていこうという御意見が出てくることも期待しながら我々も強化していくべきポイントであると考えておりますので、よろしくお願いいたします。
田中（依）委員	事業番号 24「生涯学習指導者情報提供事業」の指標で、今回ホームページの閲覧回数が 1 万回ということで意気込みを感じますし、指導者を探す方と指導者が直接やり取りをする環境の整備も実現すれば非常に素晴らしいことだと思うのですが、具体的なイメージなどがあればもう少し詳細に聞いてみたいと思います。

生涯学習推進課	生涯学習推進課の渡辺でございます。御質問ありがとうございます。まず事業番号 24 で令和 5 年度と 6 年度とで見比べていただくと指標の変更がございます。まず前提として、更に市民の方が利用しやすい取組みに向けて、これまでは非公開としていた講師の連絡先を公開いたしました。そのため、市役所を経由して講師の連絡先を依頼した方にお教えすることもなくなった結果として事業を図る指標として機能しないため、新しくホームページ閲覧数を設定いたしました。令和 5 年度だとおおよそ 7000 回だということが解析結果より出ておりまして、今年度はよりアクセスしていただけるように広報活動を手厚くしたり、市民の方に扱ってみようと考えていただけるような内容にしたりといった努力を加味して、この数値を設定しております。来年度には良いご報告を差し上げられるように頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
石川委員	私の地域で、お茶飲みとものづくりを行う団体を立ち上げる際に回覧にお知らせを折り込んだり、興味がありそうな人に声掛けをしたりして、9 年ほど活動が続いています。近年は他のこともしたいとなれば、市の方に提案いただいた体操なども取り入れております。ただ、生涯学習というのも地域によって活動の雰囲気が違うのではないかと思います。共通理解を持つことは大事ですが、仰々しく会議をするのは消極的なものですから、ニーズに合わせて臨機応変に遠足をしたり、メンバーの一人が講師となって草履を作ったり工夫をしています。昔からの友人をただ勧誘しても傍観しているだけで、日頃から大事にしていく活動をしないと、いきなりでは参加には繋がりません。こうした課題打破について皆さんのお知恵をお借りしたいところです。
生涯学習推進課	御質問ありがとうございます。現在の全 34 事業の中に石川委員

	の求める具体的な事業があるかという点と難しい所かと思うのですが、1つ紹介に近い形として事業番号32「〔社会力〕人材育成事業」を挙げさせていただきます。まさに石川委員がおっしゃるような身の回りで小規模でもいいから何かを始めてみたい、そのネットワークを作りたいという方を対象に参加を募り、繋がりづくりや実践的に学んでいただく体験学習講座を年に4、5回行っています。毎回30人ほどが御参加してくださるのですが、参加者は幅広くて、既に活動をしている人、個人で活動している方、例えばマンションの管理組合を更に良くしたいという分野で興味を持つ方も来ていただいています。この事業でしたら、多様なニーズを吸い上げて、一緒に何かをしたいというきっかけづくりにつなげる場になれるのではないかと思います。後程石川委員には個別でご紹介をさせていただきますながら、御意見いただいた部分に役立つ事業展開をしていますし、今後も育てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 田中（秀）委員 事業内容が豊富で内容を理解するのも難しいですけれども、例えば文化芸術という立場から最も問題になっていることを申し上げますと、定年を迎えた世代、特に男性の社会復帰です。20代から60代までの約40年間の長きに渡って縦社会で生きていた方が横社会の文化芸術に参加する時の課題として、例えば私は元大学の教師をしていた人間ですが、俳句と短歌に初めて参加した際に「大学の先生をしていたのにこんなに下手な俳句を作るのか」と言われました。それに耐えられるのかどうかです。文化芸術の分野で色々な方を見ますが、60代以降の女性は育児子育て等から離れて社会活動が活発化しますが、男性は見学に来た時にこのようなきつい物言いをされると多くの方が耐えられなく、すぐに止めてしまいます。そう
--	---

	いった定年後の男性の受け皿をどこが対応するのかが気になっております。 また、盆栽などの伝統芸術の団体が後継者不足で衰退しており、100年以上の素晴らしい樹齢の木々が枯れてしまう話もしばしば聞いており、定年後の人達が出来る選択肢は文化芸術部門でもまだたくさんあります。男性の定年後は長く、30年ほどありますし、それで社会復帰できないことは中々に辛いことだと思います。横社会で生きられるような学びの場の分野がもしあるのならば教えていただきたいですし、なければ縦社会から横社会へ馴れるための教育システムの構築を急いで検討する必要があると思います。
生涯学習推進課	ありがとうございます。この場で具体的に適切な事業の回答が難しい、大きな生涯学習全体に係る話だと承りましたので、ぜひこの後の議事で次期計画の内容を議論するところでもよろしければ御発言いただければと思います。御意見ありがとうございます。
武田会長	そろそろ時間となりますが、最後に御意見ございますか。
石原委員	1点お聞きしたいところがありまして、事業番号19「スポーツ教室事業」についてですが、資料2-2の課題としてスポーツ教室を継続することができる教室の選定が必要ということでしたけど、今年度取組予定の具体的な内容がもしあれば教えていただきたいなと思いました。
スポーツ振興課	スポーツ振興課の中川と申します。“民間で実施しているスポーツ教室等の差別化とスポーツを継続することができる教室の選定が必要と考える。”と書かせていただいて、今年度の事業に関しては、すでに教室の種目等の見直しをかけているところではございまして、ただ、今年度が去年と比較してどう選定を行ったか具体的な実績は今の段階ではございません。

石原委員	学校では子どもたちの体力低下が課題となっておりまして、例えば、鉄棒にぶら下がっても自分の体重を支えることができない、前転をすることがなかなかできない、お子さんが増えています。学校の体育の時間は週に3回であり、外遊びも一生懸命奨励していますが、体力を向上させるところまではなかなか難しく、市でも子どもの体力向上を推奨する事業の支援をいただけたらいいと思います。運動や体を動かすことは楽しいと体験できる機会を作っていただけたらいいと思います。学校でも頑張ります。よろしくお願いします。
石川委員	この事業は小学校の子ども対象の事業なのでしょうか。
スポーツ振興課事務局（渡辺）	質問内容の確認をさせていただいてよろしいですか。 石川委員、指標に書いてある教室とは誰を対象にしているものかというご質問でよろしいですか。
石川委員	はい。
スポーツ振興課	スポーツ振興課の中川です。教室の種類といたしましては、子供だけにとらわれず、大人も対象にしたランニング教室やスプリント教室等様々なものがありまして、特段限定した事業ではございません。もちろん子供向けに、主に桜体育館では色々な種目を体験してもらうスポーツ体験教室も開催しております。
石川委員	ありがとうございます。全地域で行うのではなくて特定の地域でそうした活動をされているということでしょうか。
スポーツ振興課	特定の地域で活動しているわけではなく、体育館のほかにも公園や、大学の陸上競技場など、スポーツ教室の種目に適した会場を教室の講師等と相談し決めております。
石川委員	わかりました。ありがとうございます。 それでは休憩に入りたいと思います。11時25分まで休憩とさせ

武田会長	ていただきます。各事務事業の担当の方はここで退席ということになります。ありがとうございました。 <休憩>
武田会長	時間になりましたので、ただいまから審議会を再開したいと思います。では続いて議事３番目に移ります。 先ほどつくば市から本審議会に諮問がありました、（仮称）第４次つくば市生涯学習推進基本計画について、本日はその考え方や方向性について、事務局からご説明いただきまして、審議をしていただくということになります。では事務局の方からお願いいたします。 <事務局説明>
武田会長	ありがとうございました。では、ただいまの件につきまして、意見質問などございますか。
小森谷副会長	前半の議論の中でも幾つか大事なポイントがあったと思います。事務局からもまとめていただきましたけれども、例えば中嶋委員がおっしゃった青少年の居場所をどうしていくのか、田中委員さんから御意見のあった定年退職した後の男性をどう社会参画していくのかといった問題は、大枠としては生涯学習推進課になってしまいますけれども、今のところ具体的に担当事業、担当課がないという課題があります。 それから区会の加入率がどんどん減少しており、特につくばエクスプレス沿線の地域には区会自体がない所もあるという中で、たとえばゴミ出しの問題があっても区会がないと話し合う場所自体がありません。PTA も新しい学校だともうないというケースも増えていて、これからの時代地域の繋がりをどう作っていくのだろうと勿論気にしている市民の方もいらっしゃいますが、だからといって代

	表として活動をするところまではいかない現状に対して、どう支援をしていくのが難しい課題であると、私も活動しながら感じております。先ほどの指標は区会連合会と連携していくという評価ポイントでされていますが、区会連合会は既に必要であると考えて集まっている市民の集まりなので、内部での話し合いは外には広がりませんからそれだけでは駄目ですよ。たとえば準区会のようなものをつくるとか新しい支援が必要です。第4次の計画でそういったポイントをどう入れ込むかは、私も一緒に考えていきたいと思いますが、方向性ということで例を挙げさせていただきました。
事務局（渡辺）	現計画で言うと、そういった部分をいわゆる「社会力」を育てていく、社会に出て行く人を増やすというその最初の種まきの部分として、注力をしていました。この「社会力」についても、今後発展させていくにあたっては、ただ地域で頑張ろうという心持ちから1歩先で、繋がって何か具体的にやってみようといった段階につなげていきたいという思いは持っています。また、新しい計画ですので、新しい取り組み等についても計画策定に合わせて検討していかなければならないなと感じたところであります。
小森谷副会長	そういった視点でいくと、生涯学習推進課で進めてらっしゃるコミュニティスクールの取り組みは地域の人をどれだけ掘り起こそうかという目的の取り組みの1つなので、そちらと絡めていく視点も必要なんじゃないかなという風に思います。
山崎委員	立場上、ボランティア団体の方と話す機会が多いのですが、繋がりが希薄なことが多いです。やはりボランティアといえは最初は気持ちの問題ですので、まず町を良くしようという気持ちがあると、たとえば身近な自宅の周りを綺麗にする、ゴミを拾うといった行動へ発展していった、そうした人達が集まる場所を作ろうとか、いろ

事務局（渡辺）	んな切り口で自分達の地域社会、社会活動というものが始まっています。でも次の段階として、他の団体と繋がるための機会が非常に少なく、各団体が壁にぶつくと活動をそのままやめてしまうケースが非常に多いです。 皆さんご存じのように、つくば市はほとんど転入してきた方が占めます。幼稚園からの友達がいないうというのがつくば市の1つの特徴だと思っています。近所付き合いが薄いために情報が入らず、色々な方がアイデアを持ってつくば市に来られてより良くしようとしてくださっても次ができません。ボランティア連絡協議会内でも一番の問題ではないかと話をしまして、ではどうすべきかというやはり繋がりになるのだと思います。繋がるためにどうすべきか非常に難しい問題で、私はイベントを開催しながら紹介の場を兼ねるという切り口できっかけづくりをしております。先ほど横の繋がりという話がございましたが、市役所はどんどん良くなってきていると思ってしまして、というのもあちこちから連絡をしてくれる機会があり、繋がりを感じています。 また、委員の皆さんによって全く違う切り口でポイントの課題が出てきておりますが、それをどうやってまとめるのだろうとも思っています。生涯学習という大きな枠組みだけでなく共通して皆が考えられるテーマ、たとえば子どもとか高齢者に論点を絞って議論をしながら話を広げていくようなものを決定したほうが話の流れとしてまとまりがあるのではないかと考えていましたが、いかがでしょうか。 議論するポイントを明確化していくというのはおっしゃられる通りでして、この計画を立てるにあたって、まず全体的な大きい方向性から具体的に章立てを検討していく中でテーマというものが
---------	--

山崎委員	出てくるものだと考えています。そうして各論に入って具体的な話がお話をできればと思いますし、先ほどご説明させていただいたようにワークショップも予定しております。次回の審議会でも内容にも触れる予定ですが、こちらは委員の皆様にご参加いただいても勿論問題ないと考えています。そうした市民参加も生かしながら、話しやすい計画の立案を考えていけたらと感じているところです。 こうした会議の場だと、皆で話し合うテーマがないと一人の意見へ事務局からの回答があって終了という流ればかりで議論に結び付かないと思うのですが、いかがでしょうか。
事務局（渡辺）	山崎委員に前任期でご参加いただいた時期は、内容が既に出来上がった計画で、進捗管理と全体的な評価を見ていくものでした。今回は次期計画を策定する上で、決定した事への疑問点をお話しただくというよりは、今後どうしていきたいかを主題としていく議事内容になっていくと思うため、議論が深まるやり方を考えていきたいと考えております。
武田会長	私も今色々と考えておりましたが、計画策定に向けて大きな枠組みとそれぞれの具体的なテーマや課題を積み上げて最終的にまとめていくアプローチ、両方向から必要ではないかと思っています。ですので、生涯学習という大きな枠組みだけでは散漫になってしまいますので、時折は子どもや高齢者、障害者といった具体的なテーマにも目を配らせながら進行するのが良いという風に思ったところです。
小森谷副会長	山崎委員のおっしゃる通りで、こういう計画策定の審議はこうなりがちで私もいつも課題として考えております。全てを網羅することは難しいのであえて力点をどこかに作り、事務局に向けて質疑応答をするだけでなく委員の中で共通テーマを持って話し合いをし

黒崎委員	ていくやり方が出来ないでしょうか。 先ほど山崎委員がお話されていた「他の団体や人とどうやってつながればいいか」のお話に繋がるのですが、先日私は救命講習を受講しました。参加者は高校生から社会人、高齢者まで幅広い世代が参加されていまして、共に講習を受けていると非常に距離が縮まりました。やはりそうすることで自然に繋がりは生まれるのではないかと期待をします。ですので、環境整備、気軽に参加しやすい生涯学習の企画を考える事が重要であると考えます。先ほど萩原委員より、生涯学習は子供たちにも触れてほしいというお話がありましたが、賛同します。多感な時期こそ生涯学習のマインドを見つけてもらい、取り組む姿勢を身に付けることで社会人になった時に活かしてもらいたいです。
鈴木委員	私も黒崎委員と同意見です。大人になってから急に繋がりを持ちましょう、社会力を身につけましょうと言われても、なかなかできないことだと思います。子供の頃から学び方の練習をしていけるように重点を置いていけるといいのかなと思います。また、親世代である我々も、共働き世帯が多いので多忙とは思いますが、どうやって関われるか課題の一つと考えます。コミュニティスクールは学校の子供たちを中心に地域に住む人や保護者も対象になるので繋がるためのキーではないでしょうか。
中嶋委員	中嶋です。今後に向けて、令和6年度アンケート実施の計画が出ているようなので、その質問です。どういったものを想定しているのかまだ分かりませんが、もしアンケートの実施時期イメージやアンケート案のようなものがあれば教えてください。また、ワークショップはどの程度の対象を集めて開催される想定か、我々委員が参加する場合どうなるのかについてもお尋ねしたいです。

事務局（渡辺）	多様な学びの実現・誰一人取り残さない生涯学習・地域で学び合う生涯学習・「社会力」を持った人材の育成の4つの施策の方向性ありますが、最後の施策の方向性が引っ掛かります。生涯学習をどう活かすかという話まで踏み込むとまた異なるというか、話がまとまらないのではという印象を受けます。区会などの話にまでは深入りはしない流れが良いのではないかと思います。 御質問ありがとうございます。アンケートの基本的な目的としては、経年の変化を見ていくということが挙げられます。設問を大きく変更してしまうと変化が分からない為、統計的に取ることが重要なポイントです。資料4の裏面にも記載がございますが、新たな生涯学習の潮流に関する項目も追加したものを次回の審議会でお示しして御意見いただければと考えております。ですので、個別のニーズを浮き彫りにする目的とは異なることを御了承ください。それに対し、ワークショップは具体的な話をする場としての設定を考えておりまして、カテゴリー分類などは現在検討中ですのでこちらも次回お示ししたいと考えております。 社会力に関する件については、現在国や県の生涯学習の考え方も個人だけでなく自分とその周囲も含めての幸福という定義付けになってきていますので、外して議論していくというのは現実的ではないと感じるところです。ただ、表現の仕方や位置づけは次期計画に向けて話していくポイントですので、より社会力という言葉を浸透するようにしていくことを踏まえてご議論重ねていただければと思います。
福井委員	自己紹介でも簡単にお話させていただきましたが、6年前につくば市へ単身赴任してくるまで、生涯学習ということを勘違いしていて、在住地域にある教会でハングル語講座を開講されていた時に、

武田会長	己のスキルアップのために教養の幅を広げるリベラルアーツだけではなくて人と繋がることも非常に重要な目的であると理解しました。なので、参加機会の拡充という話はその通りだと思っていました。行政として仕掛けづくりを是非していただきたいと経験的に思った所です。同じように単身赴任しているつくば市在住の方は相当数いらっしゃると思います。 ありがとうございます。そろそろ時間が近づいて参りましたが、これだけは発言したいという方がいらっしゃれば是非お願いします。
溝上委員	皆さんが「生涯学習という内容が幅広い」ということをおっしゃっていらっしゃるので、次回に議論するときにつくば市として生涯学習推進基本計画のときに議論する範囲のようなものを定めていただければと思います。学校教育との連携は欠かせませんが、学校教育について生涯学習推進基本計画の中で論じるのか否か、我々に明示していただかないと、それぞれの思いで生涯学習を語ってしまう可能性がございます。 もう1つが「地域」の定義についてです。カタカナでコミュニティとは必ずしも地理的な範囲を指すのではなくて、もう少し広いものを指すように思います。区会との連携を中心に議論していきたいのか、カナカナのコミュニティ＝繋がる方へ重点を置いた状態で議論をしていただきたいのか、いくつか問題点を挙げていただけると大変議論が集中しやすいのではないかと思います。いかがでしょうか。 事務局（渡辺） 御意見ありがとうございます。いただいた意見を参考に、次回の審議会の内容を考えていきたいと思っています。よろしく願いいたしますありがとうございます。

武田会長	長丁場となりましたが、本当にありがとうございました。以上をもちまして本日予定された議事はすべて審議が終了ということになります。御協力ありがとうございました。では進行を事務局にお返しいたします。
8 その他 事務局（瓜阪）	武田会長、議事進行ありがとうございました。次回審議会の開催時期についてですが、つくば市役所において9月30日を予定しております。皆様の机上に出席の確認に関する書類をクリアファイルに入れた状態で配付させていただいておりますので、こちらを御記入いただき、お帰りの際に、受け付けの職員にお渡しいただくか、机上に置いてお帰りくださいますようお願いいたします。正式な開催通知につきましては、追って送付させていただきます。最後に、委員の皆様から何かご質問等あるでしょうか。 <質問なし>
9 閉会 事務局（瓜阪）	以上をもちまして、令和6年度第1回生涯学習審議会を閉会いたします。なお、本会議の会議録については、事務局で作成の上、委員の皆様の確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくをお願いいたします。それでは皆様、本日はどうもありがとうございました。 以上

令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会 次 第

日時 令和6年（2024年）8月21日（水）

午前9時30分から正午まで

会場 つくば市役所 2階 会議室 201

1 開 会

2 任命書交付

3 副市長挨拶

4 自己紹介

5 会長及び副会長選出

6 諮問

「（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画」について

7 議事

(1) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和5年度進捗状況について

(2) 第3次つくば市生涯学習推進基本計画令和6年度事業計画案について

(3) （仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画策定の考え方について

8 その他

9 閉会

【配布資料】

- 資料 1－1 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画 令和 5 年度評価のまとめ
- 資料 1－2 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画 評価基準
- 資料 2－1 令和 5 年度（2023 年度）施策の方向性ごとの評価一覧
- 資料 2－2 令和 5 年度（2023 年度）事務事業進捗状況一覧表
- 資料 3 令和 6 年度（2024 年度）事務事業事業計画一覧表
- 資料 4 第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画策定の考え方
- 資料 5 つくば市生涯学習推進基本計画構成と策定スケジュールのイメージ
- 資料 6 第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画策定の重点となるポイント
- 参考資料 1 つくば市の生涯学習推進に関する沿革
- 参考資料 2 委員名簿
- 参考資料 3 つくば市生涯学習審議会条例
- 参考資料 4 第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画 冊子

【評価基準の変更について】

令和3年(2021年)3月に策定された第3次つくば市生涯学習推進基本計画の進捗管理については、事務事業評価(各担当課実施)及び施策の柱ごとの全体評価(生涯学習推進課実施)の2つの評価を実施しています。

令和4年度の外部委員によるつくば市生涯学習審議会において、評価手法についてより客観的な基準が求められ、令和4年度分の実績評価から評価方法の変更を行っています(資料1-2「評価基準」参照)。

①各事務事業に対する評価(担当課評価)

	S	A	B	C	D	E	—
令和4年度(※)	7	15	10	1	1	0	0
令和5年度	8	15	8	2	1	0	0

②施策の方向性毎の評価(全体評価)

施策の柱	施策の方向性	令和4年度	令和5年度
多様な学びの実現	施設の利便性向上	7点	8点
	参加機会の拡充	7点	9点
	生涯学習の相談・情報の提供	6点	8点
誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	9点	9点
	主体的に活動に参加できる取組	8点	8点
地域で学び合う生涯学習	地域で学ぶきっかけ作り	8点	8点
	地域で学び続ける仕組み作り	7点	6点
「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	8点	7点

① 事務事業評価

項目	内容																																							
評価者	各事務事業担当課																																							
【第1段階】実施状況評価及び指標評価	【①実施状況評価】 令和5年度事業の成果・達成状況の記載内容を踏まえ、事務事業の総合的な実施状況について、以下の評価を行う。 1 年度当初の計画を上回って事業を実施できた 2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた 3 年度当初の計画に遅れが生じた 4 年度当初の計画を全く実施できなかった — 特別な事情(※)により全く実施できなかった (※)特別な事情とは新型コロナウイルス感染症や自然災害等を指します。 特別な事情下でも工夫して事業が実施できた場合(例:会場開催を動画配信に切り替えた等)は「2 おおむね年度当初の計画通りに事業を実施できた」として扱う。 【②指標評価】 ○指標毎の評点 指標の目標値に対する実績値の割合に応じて、以下の点数を割り当て、複数指標がある場合はそれを平均する。 ※複数指標がある事業に「—」がある場合は、その指標を除いて平均する																																							
	<table><tr><td>100%以上</td><td>10点</td></tr><tr><td>70%以上</td><td>7点</td></tr><tr><td>50%以上</td><td>5点</td></tr><tr><td>50%未満</td><td>3点</td></tr><tr><td>0%</td><td>0点</td></tr><tr><td>特別な事情による未実施</td><td>—</td></tr></table>	100%以上	10点	70%以上	7点	50%以上	5点	50%未満	3点	0%	0点	特別な事情による未実施	—																											
	100%以上	10点																																						
	70%以上	7点																																						
	50%以上	5点																																						
	50%未満	3点																																						
	0%	0点																																						
	特別な事情による未実施	—																																						
	○指標の達成状況による評価 指標毎の評点の平均した数値(小数点以下を四捨五入)を以下の表に当てはめ、指標評価とする。																																							
	<table><tr><td>10～8.0点以上</td><td>a ※指標を(概ね)達成している</td></tr><tr><td>8.0未満～5.0点以上</td><td>b ※指標を達成できていない</td></tr><tr><td>5.0点未満</td><td>c ※指標を大幅に達成できていない</td></tr><tr><td>全ての指標が「—」</td><td>—</td></tr></table>	10～8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している	8.0未満～5.0点以上	b ※指標を達成できていない	5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない	全ての指標が「—」	—																															
10～8.0点以上	a ※指標を(概ね)達成している																																							
8.0未満～5.0点以上	b ※指標を達成できていない																																							
5.0点未満	c ※指標を大幅に達成できていない																																							
全ての指標が「—」	—																																							
【第2段階】総合評価	【総合評価】 ①、②の評価をクロスさせ、以下の評価とする。 <table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="5">①実施状況評価</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="4">②指標評価</td><td>a</td><td>S</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td></td></tr><tr><td>b</td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td></td></tr><tr><td>c</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td><td>E</td><td></td></tr><tr><td>—</td><td></td><td>C</td><td></td><td></td><td>—</td></tr></table>			①実施状況評価							1	2	3	4	—	②指標評価	a	S	A	B	C		b	A	B	C	D		c	B	C	D	E		—		C			—
		①実施状況評価																																						
		1	2	3	4	—																																		
②指標評価	a	S	A	B	C																																			
	b	A	B	C	D																																			
	c	B	C	D	E																																			
	—		C			—																																		

②施策の方向性ごとの評価(全体評価)

項目	内容															
評価者	生涯学習推進課															
施策の方向性ごとの評価	○各事務事業の総合評価を、それぞれ以下の表に基づいて点数化し、それを平均した値(小数点以下は四捨五入する)を評点とし、施策の方向性ごとの評価の進捗状況を図る目安とする。															
	<table><tr><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th></tr><tr><td>S</td><td>10点</td></tr><tr><td>A</td><td>8点</td></tr><tr><td>B</td><td>6点</td></tr><tr><td>C</td><td>4点</td></tr><tr><td>D</td><td>2点</td></tr><tr><td>E</td><td>0点</td></tr></table>	事務事業総合評価結果	点数	S	10点	A	8点	B	6点	C	4点	D	2点	E	0点	
	事務事業総合評価結果	点数														
	S	10点														
	A	8点														
	B	6点														
	C	4点														
	D	2点														
	E	0点														
	※施策の方向性に含まれる事務事業の中に、総合評価が「―」となっている事務事業が含まれる場合は、その事務事業を除いて平均する。															
○評点の決定方法の例																
<table><tr><th></th><th>事務事業総合評価結果</th><th>点数</th><th>計算</th><th>評点</th></tr><tr><td>事務事業A</td><td>S</td><td>10</td><td rowspan="3">(10+4+2)÷3=5.33…</td><td rowspan="3">5</td></tr><tr><td>事務事業B</td><td>C</td><td>4</td></tr><tr><td>事務事業C</td><td>D</td><td>2</td></tr></table>		事務事業総合評価結果	点数	計算	評点	事務事業A	S	10	(10+4+2)÷3=5.33…	5	事務事業B	C	4	事務事業C	D	2
	事務事業総合評価結果	点数	計算	評点												
事務事業A	S	10	(10+4+2)÷3=5.33…	5												
事務事業B	C	4														
事務事業C	D	2														

令和5年度(2023年度)第3次生涯学習推進基本計画 施策の方向性ごとの評価一覧										資料2-1		
No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R5年度 事務事業評価			
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価	
多様な学びの実現												
1-(1)-ア	施設の利便性の向上	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点が1点上がった。新型コロナウイルス感染症の5類移行等による地域交流センター利用者数の増加、自動車図書館利用者数の増加等が要因として挙げられる。 また、新設された小学校での図書館サービスの展開などサービスを利用しやすくなる取組も見られ、利用者数の増加と併せて、生涯学習のための施設の利便性は向上していると評価できる。	8	1	1	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	図書館利便性向上事業	2	a	A	
1-(1)-ア				1	2	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課 （令和6年度から地域支援課、つくば市民センター所管）	市民交流施設利便性向上事業	2	a	A	
1-(1)-イ	参加機会の拡充	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点が2点上がった。民間企業での生涯学習事業において、筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地といった今まで情報周知ができていなかったチャンネルへの情報提供等、参加機会の拡充に向けた取組が増えている。 また、生涯学習に関する動画の満足度も向上しており幅広い学習機会の提供ができていると評価できる。今後もアンケート等の手法を通して積極的な参加機会の拡充策が展開されることが期待される。	9	2	3	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業での生涯学習事業	1	a	S	
1-(1)-イ				2	4	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	オンラインによる生涯学習講座事業	1	a	S	
1-(1)-イ				2	5	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課 （令和6年度から地域支援課、つくば市民センター所管）	地域交流センター活用事業	2	b	B	
1-(1)-ウ	生涯学習の相談・情報の提供	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点が2点上がった。情報収集・発信の成果として、生涯学習に関する関係団体からの相談を受ける回数が増加した。これを更に増やしていくよう広報活動等を通して取組を進めていくことが期待される。 情報の一元発信については、新たな取組として市広報紙を活用し複数の事業を同時に周知することが決定した。生涯学習の相談・情報の提供事業として引き続きこれらを推進していきたい。	8	3	6	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	生涯学習相談事業	2	a	A	
1-(1)-ウ				3	7	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	情報収集・発信事業	2	a	A	

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R5年度 事務事業評価		
	実施 状況 評価								指標 評価	総合 評価	
誰一人取り残さない生涯学習											
1-(2)-ア	参加への障壁をなくす 取組	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点は同一であった。各事務事業について、セミナー欠席者へ後日動画配信によるフォローアップを行うなど内容等を工夫しながら推進することができている。 特に外国人市民に向けたサービスは、令和6年(2024年)2月につくばセンター地区で開所された「コリドイオ」に国際交流拠点が設けられ、今後のサービスの広がり期待がされる。 評点は昨年度と同一であるものの、生涯学習参加への障壁をなくす事業として着実に進捗している。	9	4	8	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	生涯学習ワンストップ 対応事業	2	a	A
1-(2)-ア				4	9	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	広報力向上事業	1	a	S
1-(2)-ア				4	10	外国語広報誌等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	外国人市民向け 情報発信・講座事業	1	a	S
1-(2)-イ	主体的に活動に参加 できる取組	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点は同一であった。昨年度実績と比較して参加者数等が横ばいとなっている事業がある。 そうした事業では今後の取組として、事業周知の工夫、プログラムの充実を挙げており、今後の更なる事業の充実が期待される。 全体として、自ら生涯学習に取り組む環境整備は着実に進捗している。	8	5	11	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	障害者の 生涯学習関連事業	1	a	S
1-(2)-イ				5	12	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室 (令和6年度からダイバーシティ推進室所管)	男女共同参画啓発事業	2	b	B
1-(2)-イ				5	13	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者スポーツ推進事業	2	a	A
1-(2)-イ				5	14	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	生涯学習関連事業 (障害のある人や支援者対象)	2	b	B

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R5年度 事務事業評価		
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価
地域で学び合う生涯学習											
2-(1)-ア	地域で学びきっかけ作り	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点は同一であった。全ての事業においてB以上の評価となり、AやS評価となった事業も多いため施策の方向性としては着実に進捗している。 課題として事業の認知度を挙げている事業があるが、今後の対応として説明機会の充実や積極的な広報活動を挙げている。 また、今後の取組として市民との講座についての意見交換を挙げている事業もあり、地域で学びきっかけとする学習機会の提供という点で更なる充実が期待できる。	8	6	15	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	つくば人間学講座	2	a	A
2-(1)-ア				6	16	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	文化財展示講座事業	1	a	S
2-(1)-ア				6	17	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	調査・研究支援事業	2	b	B
2-(1)-ア				7	18	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	多文化共生推進事業	2	a	A
2-(1)-ア				7	19	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	スポーツ教室事業	2	a	A
2-(1)-ア				7	20	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課 (令和6年度から地域支援課、つくば市民センター所管)	地域交流センター講座等事業	1	a	S
2-(1)-ア				7	21	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	筑波山地域ジオパーク推進事業	2	a	A

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R5年度 事務事業評価		
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価
2-(1)-イ	地域で学びつづける 仕組み作り	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点下がった。実施状況評価において当初の計画通りの実施ができなかったり、指標評価において新型コロナウイルス感染症流行前の水準まで実績値が回復していない事業があることが要因として挙げられる。 今後の取組として利用者のニーズの検討や意見交換会による事業の改善を挙げている事業があるため、令和6年度の施策の方向性評価の評点が好転するものと期待できる。	6	8	22	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動相談事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	23	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				8	24	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	生涯学習推進課	生涯学習指導者情報提供事業	2	b	B
2-(1)-イ				8	25	学校施設開放（体育館・グラウンドなど）の推進	教育施設課	学校施設開放事業	1	a	S
2-(1)-イ				9	26	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	文化財サポーター事業	3	c	D
2-(1)-イ				9	27	生涯学習情報（OB人材、指導者情報）の整備・活用	企画経営課	つくば市OB人材活動支援事業	3	b	C
2-(1)-イ				9	28	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民協働課 （令和6年度から市民協働課、つくば市民センター所管）	市民活動団体支援事業	2	b	B
2-(1)-イ				10	29	文化協会の支援	文化芸術課	文化団体等育成支援事業	2	a	A
2-(1)-イ				10	30	文化振興財団の支援	文化芸術課	（公財）つくば文化振興財団支援事業	2	b	B
2-(1)-イ				10	31	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	高齢者生きがい活動支援事業	2	b	B

No.	施 策 の 柱	① 方向性ごとの達成状況に対する評価 評価者：生涯学習推進課 評価：各事務事業の総合評価（E～S）を点数化し、平均した点数（0～10）を施策の方向性ごとの評価とする。	施策の方向性評価	頁 （資料2-2）	事業番号 （資料2-2）	事業概要	担 当 課	事務事業名	② R5年度 事務事業評価		
	施策の方向性								実施 状況 評価	指標 評価	総合 評価
「社会力」を持った人材の育成											
2-(2)	実践できる人材の育成	令和4年度と比較して、施策の方向性評価の評点は1点下がった。指標評価において、実績値が目標値に達しなかった事業があることが要因として挙げられる。 今後の取組として他団体での活動体験や市区会連合会及び各地区区会連合会との連携など積極的な活動を挙げている事業があるため、 令和6年度の施策の方向性評価の評点が好転するものと期待できる。	7	11	32	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	「社会力」人材育成事業	2	a	A
2-(2)				11	33	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会事業	2	c	C
2-(2)				11	34	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	地域まちづくり支援事業	2	a	A

令和5年度(2023年度) 第3次生涯学習推進基本計画事務事業進捗状況一覧表								資料2-2										
基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項	
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組		
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	中央図書館	土日の開館時間2時間延長と祝日の特別開館の継続および市庁舎コミュニティ棟における予約本の貸出しを継続し、利用者の利便性向上を図る。また、かとりだい交流館、研究学園小学校学校図書館でのサービスを開始し、サービスポイントの拡充を図る。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、市内57か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションは2週間に1回の頻度で巡回する。	土日の開館時間を2時間延長と祝日の特別開館を継続して実施し、利用者の利便性向上を図った。また、市役所コミュニティ棟に加え、かとりだい交流館での予約本貸出サービスを開始した。研究学園小学校における図書館サービスを開始した。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って市内を計画的に巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを54か所から58か所に増やしサービスの拡充を図った。	4,680千円	4,471千円	2	a	A	利用者数の増加に比べ、貸出冊数が増加していない。利用が少ないステーションがある。 サービスポイントの増加に伴い、配送に要する時間や、担当者の負担が増加している。	1人当たりの貸出冊数を増加させるため、自動車図書館車に積載する資料の見直しをする。 ステーションの見直しを継続的に行うとともに、新規ステーションの開拓をはかる。 積極的に広報活動を行う。 配送車を1台増やし、巡回ルートや配送回数の見直しをする。	特になし		
							並木・広岡・大穂・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟のブックポスト及びオンラインの4交流センターでの図書資料の返却ができる図書返却事業を継続するとともに、新たにかとりだい交流館にブックポストを設置し、更なる利便性向上を図る。	並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター及び市役所コミュニティ棟のブックポスト並びにオンラインの4交流センターでの図書返却事業を継続し、利用者の利便性向上を図った。また、かとりだい交流館に新たにブックポストを設置した。										
										年間開館日数291日 年間開館時間2,743時間 自動車図書館利用人数14,000人 自動車図書館貸出冊数65,000冊 返却窓口への返却冊数170,000冊	年間開館日数294日 年間開館時間2,769時間 自動車図書館利用人数13,777人 自動車図書館貸出冊数47,473冊 返却窓口への返却冊数208,904冊							
						2	1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	地域支援課	市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、バレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。	・地域交流センターの利用者数について、前年度比で6.0%の増加となった。利用者数の増加に繋がった要因としては、登録団体(サークル)の増加や新型コロナウイルス感染症の5類移行等により、市民の自主的な活動が増えたこと等が考えられる。 ・交流センターのWiFi環境整備については、令和5年度で全ての交流センターの設置を完了することができた。	513,526千円	487,176千円	2	a	A	新型コロナウイルス感染症の流行時に、緊急事態宣言の発令など活動自粛の動きがあったことにより、登録団体数が一時的に大きく減少してしまった。 特に高齢者団体において、活動を自粛したまま再開の目途が立たず、解散となってしまったケースが見られた。	新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、交流センター利用者や登録団体数も徐々に回復基調にあるが、交流センター講座をきつかけとした新たなサークル設立などを後押しすることで、さらなる交流センター利用者や登録団体数の増加を図っていく。
						地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 地域交流センターWi-Fi整備10施設	地域交流センター利用者数376,522人 地域交流センター登録団体698団体 地域交流センターWi-Fi整備10施設 ※つくば市民センター分(令和6年2月～3月)2,539人											

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	3	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	民間企業等からの要望や意見を生涯学習推進課の事業に反映させながら、民間企業等での生涯学習講座の実施実績を伸ばしていく。	つくば市出前講座について、民間企業及び研究機関において7回実施することができた。 また、事業周知のため筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地へつくば市出前講座に関するアンケートを実施し、その他学校長会企画会での事業説明も行った。 令和6年度への更新の際には、より幅広い分野に対応するため新規講座の募集を行った。	25千円	0千円	1	a	S	利用されやすい講座の実施回数が全体で高い割合を占めているため、より幅広く活用される工夫が必要。	出前講座事業において、民間企業へのアンケート結果及び実施報告書の内容を踏まえ、更なる講座の新規募集等を検討する。	特になし
			4	1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	動画を活用して生涯学習講座を実施するという点については、定着が見られるため、令和5年度は生涯学習に関する講座等での動画の内容・本数の充実を図っていく。	つくばちびっ子博士において、16本の新作動画を公開しそのうち13本は市または受託業者が制作した(3本は参加機関が作成)。 動画の満足度については、アンケートに回答した児童の内ちびっ子博士が楽しかったと回答した率を記入している	442千円	234千円	1	a	S	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、ちびっ子博士も現地見学可能な施設が増えつつある。動画の満足度を高めつつも現地見学へ興味をもてるような工夫が必要。	今後もちびっ子博士事業で児童や保護者の満足度を把握しながら動画公開を続けていく。	特になし
			5	1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課	平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間休日における学習機会を提供する。	地域交流センター講座において、夜間(17:30～20:00)講座のほか、土日開催の講座など、幅広い世代の方々が受講できるよう企画・実施した。 講座数：7講座(計11回) 講座内容：料理、親子工作、野外体験、歴史探訪、天体観測、親子星空観察	5,622千円	3,780千円	2	b	B	地域交流センターアンケート等においても平日夜間や休日での講座開催を求める声があるが、対応できる講師の確保や、会議室など会場の確保が必要となる。	特に市中心部の交流センターにおいて、平日夜間や土日の講座開催のニーズが高く、講座募集時の申込者数も多いことから、講師派遣業者等も活用しながら対応可能な講師を確保し、講座開講数の増加を図っていく。	特になし
								民間企業等での講座開催回数5回	民間企業等での講座開催数7回								
								新規動画数13本 視聴動画の満足度80%	新規動画数16本 視聴動画の満足度97%								
								夜間休日の講座の開講12回	夜間休日の講座の開講11回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	6	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	令和4年度に引き続き、つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の見せ方のマイナーチェンジや、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施する。また、生涯学習相談をオンラインでも受けるための環境整備にも取り組む。	【生涯学習に関する相談】市内の教育機関、市内研究所、民間子育て関係団体から生涯学習活動に実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【生涯学習オンライン相談に関する調査】自治体による生涯学習に関するオンライン相談についてリサーチを実施した。行政相談そのものをオンライン化するケース等について知見を得た。	0千円	0千円	2	a	A	・新型コロナウイルス感染症の影響が低下している中で、「オンライン」のみで事業を展開することのメリットが低下している。	強く生涯学習について相談したい人だけが相談に至るという形ではなく、気軽に市民から生涯学習に関する相談に対してアドバイスや案内ができる業務運営(広報活動等)に努める。	特になし
								相談数3回 調査研究3回	相談数3回 調査研究3回								
			7	1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば市報における生涯学習の一元的情報発信を実施するために計画を進めていく。 その他、引き続きつくば市ホームページの改修を通した一元的情報発信の促進及び積極的な「つくスマ」アプリの活用を進めていく。	つくば未来塾・家庭教育ボランティア・つくば市出前講座・社会力コーディネーター養成講座・中高生わくわく企画・この指とまれ事業をまとめた特集記事について、広報つくば令和6年5月号に掲載が決定した。 また、生涯学習指導者情報提供事業においては検索性を高めるため各分類ごとの一覧表を掲載するなど改修をおこなった。	0千円	0千円	2	a	A	各事業の周知において、それぞれの関連性を考慮して情報の結びつきを強める工夫が必要。	事業の周知において、生涯学習情報を単体ではなく関連性が強いものを併せて周知することでより効果的な情報発信を図っていく。	特になし
								広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数20回	広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数13回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8	1-(2)-ア	生涯学習ワンストップ対応事業	生涯学習講座における配慮事項を示した指針の作成 生涯学習情報のワンストップ提供	生涯学習推進課	1-(1)-ウ「情報収集・発進事業」及び1-(2)-イ「障害者の生涯学習関連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信についてワンストップ化に引き続き努める。また、生涯学習講座における配慮事項については実際に実施した「障害者の生涯学習事業」で得られた気づきや学びを記録し、ノウハウを蓄積していく。	つくば市生涯学習指導者登録制度について令和4年度の制度見直しを受けたホームページの再改修を行い、教えたい人と教わりたい人向けの情報を同じページで発信すること等わかりやすいホームページ作りに取り組んだ。 障害者の生涯学習については、12月に実施した事業実施後、アンケート及び記録を作成した。今後の障害者の生涯学習活動を考える上での参考とする。	0千円	0千円	2	a	A	生涯学習に関する事業が多岐にわたる中で、わかりやすく興味を持ってもらえるホームページを中心とした情報発信のあり方を検討する必要がある。	令和6年度は事業単独のページだけでなく、ポータルの情報に掲載しているページの改修ができるよう検討する。	特になし
								ホームページ改修回数1回 障害者の生涯学習に関する記録作成1回	ホームページ改修回数1回 障害者の生涯学習に関する記録作成1回								
			9	1-(2)-ア	広報力向上事業	職員向け広報セミナーの実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	職員一人一人の広報力向上を目的として、職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、昨年引き続き対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面型(会場参加)を主な開催形式とするほか、欠席者へは後日動画配信しフォローアップ体制を整え、職員一人一人の参加形態に合わせたセミナーを実施したことで、想定を超える参加者数となった。また、チラシ作成については実践形式の研修を初めて行った。 【研修内容】 第1回 テーマ:ホームページ(参加者:76名) 第2回 テーマ:チラシ(参加者:85名) そのほか、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。	12千円	0千円	1	a	S	市が行う各事業に関する情報が市民にしっかりと伝わるよう、職員一人一人の更なる広報力向上を目指す必要がある。	広報力向上に効果的なセミナーの年間計画や内容について、課内で検討し実施する。	特になし
								セミナー参加者150人	セミナー参加者161人								
			10	1-(2)-ア	外国人市民向け情報発信・講座事業	外国語広報紙等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援(大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催) (外国にルーツを持つ子ども対象:プレスクール・プレクラス、こども日本語勉強会、就学・進学支援を開催)	多言語ホームページの発信については、ホームページの移設により目標値を大幅に上回る発信(更新)回数となった。また、大人向け日本語講座の受講者数・こども日本語勉強会の登録者数も当初の目標を大幅に上回る受講者・登録者となった。	6,462千円	4,081千円	1	a	S	大人向け日本語講座及びこども日本語勉強会はキャンセル待ちが発生するほどニーズは多いが、会場のキャパシティに加え、講師の数に限りがあることから、現状の定員が最大限となっており、講師の育成が急務となっている。	コリドイオに国際交流拠点を設けたことから、多文化共生ルームを最大限に活用することで大人向け日本語講座やこども日本語勉強会の定員を増やすほか、引き続きボランティアや講師の育成を図る。	
								外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数240人 こども日本語勉強会の登録者数30人	外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数283回 大人向け日本語講座の受講者数274人 こども日本語勉強会の登録者数46人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	11	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	令和5年度も「障害者の自発性を取り入れる」という観点をもち、それを令和4年度より深めていくことを目的とし、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座又は体験活動を開催する。	「卓球バレー体験講座」を開催した。3団体17名が参加し、障害の有無、程度、年齢に関わらずプレーできる卓球バレーを楽しんだ。 アンケートでは、「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」の回答の合計が94%となり、障害者にもスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。 参加者数の内訳:参加者17名、サポート6名、見学2名 合計25名	388千円	14千円	1	a	S	事業を量・質ともに拡大しようとする場合、事業の福祉的要素が強くなるため、庁内における連携強化が求められる。	庁内連携を深めながら、事業の推進を図っていく。	特になし
						講座参加者数20名 講座参加者の満足度90%		講座参加者数25名 講座参加者の満足度94%									
			12	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	男女共同参画室	男女共同参画に関するセミナーの開催 仕事と家庭の両立支援をはじめ、再就職支援やキャリアアップ講座など、学習機会の充実を図る。	性の多様性や年金、キャリアアップ、育児休業、健康、防災等の幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い理解と行動変容の促進ができた。セミナー企画は10回(うち1回は中止)、参加者数は226人。	7,671千円	6,672千円	2	b	B	市民ニーズ等の把握を行うとともに、手法や開催場所を工夫するなど、広く市民に参加していただけるよう、多面的な検討を進めていく。	引き続き市民が参加しやすい方法を検討しながら、セミナーの実施を通じて男女共同参画への理解促進など男女共同参画に係る課題に取り組む。	特になし
						男女共同参画セミナー10回		男女共同参画セミナー9回									
			13	1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者が日常的にスポーツ・レクリエーションに取り組むことができるよう、サポート体制を強化するため、障害者のスポーツ支援に必要な知識を得るための講座を開催する。 また、スポーツフェスティバル内で障害者スポーツを体験するコーナーを設置したり、障害者スポーツを体験できる教室を開催するなど、障害者スポーツに親しむ機会を設ける。	障害者がスポーツ施設を利用できる体験講座と障害者スポーツサポーター養成研修を兼ねた講座を2回実施した。 延べ参加者内訳 障害者9人 指導補助10人 つくばスポーツフェスティバル&つくパラ2023や障害者スポーツ体験講座をとおして障害者スポーツに親しむ機会を設けた。	1,275千円	553千円	2	a	A	障害者のスポーツ体験講座(障害者の施設利用導入講座、指導者育成講座を兼ねる)は令和5年度からの新事業となるため事業の性質上、事故等により事業の継続性が損なわれないように細心の注意を払う必要がある。	業務の委託先との事業報告を通じて、障害者のスポーツ体験講座の参加者、指導者からの聞き取りから得られた課題や懸念事項を検証する。	特になし
						講座・教室の数2回 講座・教室の参加延べ人数25人		講座・教室の数2回 講座・教室の参加延べ人数19人									
			14	1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、作品展と舞台発表を実施する。加えて、茨城県庁やつくば市役所庁舎内の巡回展示による、一般市民への広報は引き続き取り組む。 おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 令和5年度の奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門・基礎コースとも各30回、要約筆記・音訳・点訳奉仕員養成講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活に支援を図り、社会参加に寄与する。	チャレンジアートフェスティバルは、新型コロナウイルス感染症の影響から参加を見合わせる団体もあったが、舞台発表、作品展示ともに実施できた。合わせて県庁展や市役所展を開催し、一般市民に対する事業周知を行った。おひさまサンサン生き生きまつりは、4年ぶりに開催することができた。参加者の満足度向上のため、プログラムの充実を図った。奉仕員養成講座は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で参加者数が減っていたが、徐々に参加者数は回復傾向にある。	12,331千円	9,495千円	2	b	B	おひさまサンサン生き生きまつりについては、障害者の参加者数について目標値に達しなかったが、事業の実施規模などを実行委員会の意見を参考に定めていく必要がある。	各事業の新型コロナウイルス感染症対策は必須とすることと合わせて、事業への参加者増加に向け周知の工夫に取組む。おひさまサンサン生き生きまつりについては、プログラムをより充実させ、参加意欲の向上を図っていく。	おひさまサンサン生き生きまつりは高齢者と障害者が参加する事業だが、令和5年度評価指標内の目標値は、高齢者を含まず障害者の参加者数での記載となっている。実績値は障害者参加者数であり、高齢者と障害者の参加者数の合計は841人。
						チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり700人(障害者のみ) 奉仕員養成講座75人		チャレンジアートフェスティバル2,024人 おひさまサンサン生き生きまつり299人(障害者のみ) 奉仕員養成講座57人									

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課					実施状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	15	2-(1)-ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	令和4年度に引き続き、市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を提供していく。 【実施テーマ(予定)】発達障害、農業、美容、天気 参加者数200人 満足度80%	市民と協働して組織する「つくば人間学講座実行委員会」にて講座内容を決定し、以下の4講座を開催した。 ・発達障害のある人への理解と支援(2023/7/29 参加者39名) ・農業×クリエイティブ(2023/9/30 参加者26名) ・化粧品、食産業と生物多様性との関わり(2023/11/18 参加者8名) ・異常気象のお話(2024/1/27 参加者67名) 参加者数140人 満足度83%	375千円	214千円	2	a	A	「学園都市の特徴を活かした学びの機会を手軽に提供する」として平成7年に事業が始まってから時間が経過し、つくば市の環境・住民とも変化が起きており、参加者の新たな層の掘り起こしが進んでいない。	引き続き実行委員会の中で、市民と十分に意見交換を行いながら、市民が興味を持ち、満足してもらえる講座の実施に努める。	特になし
			16	2-(1)-ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	・10月～2月にかけて巡回企画展を、関連事業として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。 ・市域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古文書講座を、難易度に分け、8～9月・1～2月にそれぞれ全4回実施する。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした勾玉作り講座を実施する。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数1,500人	・昨年度の課題に対応して、古文書講座を初級講座(8～9月)・中級講座(1～2月)で実施し、初級講座28名・中級講座27名の参加者があり、市民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供することができた。 ・巡回企画展「発掘!! 圏央道ーつくば市内遺跡出土品展ー」を10月～2月で開催し、企画展1,590人、講演会80人、体験講座23人(市内在住・在学・在勤者)の来場者・参加者を得た。 ・「つくばちびっ子博士」の開催に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした勾玉づくり及び拓本体験を行う「考古学体験教室」を実施し、市内在住・在学の小中学生(保護者含む)15名の参加者を得た。 ・その他にも史跡・文化財を知るイベントを実施し、いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。 企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数2日 巡回企画展参加人数1,590人	4,318千円	4,340千円	1	a	S	特になし	特になし	特になし
			17	2-(1)-ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源および活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 学校図書館ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学・職場体験学習受入れ、学校司書等への研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントを実施する。 参考資料を充実させるとともに、電話やメール等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員が資料情報を提供する。 つくば市域連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク40校 団体貸出冊数15,000冊 社会科見学等の図書館見学受入回数10回 職場体験学習受入人数40人 学校司書等の研修参加人数55人 ファーストブック講座参加人数40人 レファレンス受付件数1,800件	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 学校訪問ブックトーク、団体貸出し、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校司書等の研修、レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。 みどりの南小・中学校開校に伴い、図書室整備のために、中央図書館から司書を派遣し、蔵書整理などの支援を行うなど、学校図書館との連携を強化した。 小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用するための準備を進めた。 つくば市域連携協議会の開催2回 学校訪問ブックトーク37校 団体貸出冊数8,703冊 社会科見学等の図書館見学受入回数6回 職場体験学習受入人数25人 学校司書等の研修参加人数51人 ファーストブック講座参加人数55人 レファレンス受付件数1,446件	1,288千円	1,036千円	2	b	B	図書館が行っている調査・研究支援事業について、学校等における認知度が低い	学校等に対し、図書館が行っている学校図書館支援について説明する機会を設けるなど、積極的に広報活動を行う。	特になし

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びきっかけ作り	18	2-(1)-ア	多文化共生 推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	・国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 ・外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援	つくば市国際交流協会主催の国際理解講座「世界お茶のみ話」は予定通り対面で実行することができた。また、民間事業者が運営する子育て支援施設と連携して実施した交流イベントには日本人親子と外国人親子が参加し、親子交流ができたとともに、外国人の居場所づくりの一環とすることができた。	866千円	772千円	2	a	A	外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れる機会が少ない。	令和6年2月のコリドイオオープンに合わせ、国際交流拠点がオープンしたことに伴い、今後はつくば市国際交流協会に配置された多文化共生コーディネーターにより外国人市民向けのイベント等も実施する予定。	特になし
								国際理解講座開催数40回 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業	国際理解講座開催数40回 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業								
			19	2-(1)-ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	市民のスポーツ活動の促進を図るため、さまざまな種類のスポーツ教室を開催し、スポーツの楽しさや健康維持の手法を学ぶ機会やスポーツを始める機会を提供する。	【開催した教室】 子どものスポーツ体験教室(高学年)、スポーツコンディショニング講座、トレイルラン、ランニング、スプリント、子どものスポーツ体験教室(低学年)、障害者スポーツ体験教室、低学年かけっこ教室、モルック体験会 開催した教室の回数では目標値を上回った。	1,519千円	1,126千円	2	a	A	民間で実施しているスポーツ教室等との差別化と、スポーツを継続することができる教室の選定が必要と考える。	継続が可能だったり、行政でなければ開催が難しいような教室を選定する。	特になし
								教室の開催数6回 教室の参加延べ人数670人	教室の開催数9回 教室の参加延べ人数433人								
			20	2-(1)-ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課	利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。	・年間講座数について、目標値を上回る講座を実施することができた。 ・地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施した。 実施期間：令和5年12月1日～令和6年1月10日 回収状況：配布数1,002件、回収数641件【回収率64%】	5,622千円	3,780千円	1	a	S	特になし	特になし	特になし
								年間講座数102回	年間講座数106回								
			21	2-(1)-ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和5年度も引き続き、ジオパークを活用した生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパークとして教育・学術部会を中心に、生涯学習講座の整理を進める。	令和5年度は、筑波山地域ジオパーク(構成各市及び協議会)として、生涯学習を目的とした講座等の企画(49回)、部会、ジオガイドのスキルアップを目的とした講座、シンポジウムを実施し、筑波山地域の魅力等を学びきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員が講師となって実施する生涯学習講座(出前講座)をつくり、案内及び講座一覧を筑波山地域ジオパーク公式HPで公開した。令和5年度は1件の申し込みがあった。	15,309千円	11,505千円	2	a	A	筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座(出前講座)の開始が12月であったため、今年度の申込件数は1件のみとなったが、来年度以降は実績を積み重ねていく必要がある。	筑波山地域ジオパーク推進協議会公式ホームページ及びSNSの活用等により講座を周知する。実績を積み重ねるとともに、実施結果を踏まえながら、講座の内容をより一層充実させる。	特になし
								市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	市民向け講座等開催数4回 部会開催数10回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	22	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	生涯学習活動の継続を支援する環境として、令和5年度中に新設校であるつくば市研究学園小学校及び香取台小学校の特別教室(例:図工室)の一部を市民に対して開放する事業を開始させる。 また、1-(1)-ウ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談しやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。	【生涯学習に関する相談】市内の教育機関、市内研究所、民間子育て関係団体から生涯学習活動に実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【特別教室開放】令和5年(2023年)10月1日から、つくば市立研究学園小学校の家庭科室・多目的室と、香取台小学校の家庭科室・図工室・音楽室の特別教室を市民に対して開放をスタートした。令和5年度は利用回数は19回でのべ343人に利用された。	0千円	0千円	2	a	A	・民間企業や研究機関等からの生涯学習に関する相談が入ってくるようになるため、ネットワークづくり・関係づくりを強化する必要がある。 ・特別教室開放については、利用者数を増やしていく。	・生涯学習推進課で実施する事業に関係する団体等に積極的な情報周知を行う。 ・特別教室開放については、地域住民の活動を支援できるよう広報活動等を展開する必要がある	特になし
			23	2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。学級の運営について、社会教育指導員が、指導・助言を行い、講演会や講習会を開催する。	家庭教育学級については、動画配信方式も併用しながら事業規模を維持した。また、新たに企業において家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供した。 社会教育講演会については、次のとおり実施した。 講師:蓮池 薫氏 テーマ:夢と絆を求めて～翻弄された運命のなかで～ 参加者:740名 家庭教育セミナーについては、学校に全ての保護者が集まる行事を利用して、家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会とした。	3,322千円	2,418千円	2	a	A	家庭教育学級の動画視聴方式は、隙間時間で家庭教育情報が得られるメリットがある一方で、保護者間の関係性づくりにつながりにくいデメリットがある。	保護者が抱える不安やストレスを解消するため、子供を取り巻く身近な問題を保護者同士が共有し、「対話とつながり」に重点を置いた家庭教育学級を実施する。具体的には、対面方式での実施を軸に保護者同士が直接話し合える場を提供していく。	特になし
			24	2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	令和4年度に実施した、指導者リストの更新や指導力カテゴリの改善等の環境整備を活かし、令和5年度は積極的な情報発信に努め、情報提供数・登録講師数ともに伸ばしていくことを目指す。	各分類ごとに指導者の一覧表を掲載する等ホームページの改修を行うことで、指導者情報の検索性を向上させた。 また、指導者を探する場合と指導者として登録する場合で分かれていたページを統合するなど登録時の利便性も向上させた。 新規登録においては、広報つくば及びSNSでの周知を行った。	96千円	96千円	2	b	B	ホームページにおいて、指導者情報の検索性を上げた結果生涯学習推進課から直接情報を提供する回数は減少が見込まれる。そのため、情報提供数を指標として継続するか検討の必要がある。	ホームページへのアクセス数など周知に関する新しい指標を検討する。	特になし
			25	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに義務教育学校1校を開放する。 昨年度課題となった、利用団体決定のための調整における個人情報交換によるトラブル防止や、追加申請の公平な受付等に留意しつつ事業を運営する。	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、義務教育学校の1施設を開放した。 また、重複申請を行っていると疑われる団体について、利用状況と申請書との整合性の確認を行った。	88千円	95千円	1	a	S	①一部団体の他施設、同曜日、同時時間帯の希望による利用団体決定にむけた調整会議の難航が発生してしまった。 ②利用決定に向けて、調整が見つからない場合は抽選を行う方針をとったが、抽選ありきで調整を図る意思のない団体が多数発生してしまった。	調整会議開催前に、事前希望調査を実施する。その際に1曜日につき1学校のみの希望という制約を設けることで、上記課題①についての課題を解消する。また、事前希望調査を行い、あらかじめ調整について団体に公表することで事前に調整方法等について各団体が考慮したうえでの調整会議出席となることを図る。	特になし
								相談数3回 特別教室開放学校数2校	相談数3回 特別教室開放学校数2校								
								家庭教育学級5,000人 社会教育講演会2回 家庭教育セミナー60回	家庭教育学級4,271人 社会教育講演会1回 家庭教育セミナー63回								
								令和4年度に実施した、指導者リストの更新や指導力カテゴリの改善等の環境整備を活かし、令和5年度は積極的な情報発信に努め、情報提供数・登録講師数ともに伸ばしていくことを目指す。	情報提供数23回 登録講師増加数17人								
								小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 新たに義務教育学校1校を開放する。 昨年度課題となった、利用団体決定のための調整における個人情報交換によるトラブル防止や、追加申請の公平な受付等に留意しつつ事業を運営する。	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、義務教育学校の1施設を開放した。 また、重複申請を行っていると疑われる団体について、利用状況と申請書との整合性の確認を行った。								
								小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率95%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	26	2-(1)-イ	文化財サポーター事業	文化財の解説ボランティアの育成	文化財課	・今年度は新規のボランティア養成講座は休止し、現在のボランティア登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、展示施設や文化財の解説のほか、意見交換、学校支援業務への協力、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施する。	・学校授業や「つくばちびっ子博士」などのイベントにおける展示施設の解説をボランティア登録者へ依頼し、協力を得ることができた。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を1回、意見交換会を1回開催したものの、年度当初の計画どおりに実施することができなかった。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施したほか、9～11月に「常陸小田城親衛隊の会」と共催した、解説イベントを3回実施した。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。	237千円	153千円	3	c	D	ボランティア登録者の意欲を維持・継続するための臨時講座等を、学校解説依頼が多く来る時期の前に実施する必要がある。	ボランティア登録者を対象とした臨時講座を開催して登録者の知見を深めるほか、意見交換会を実施して、様々なご意見の中から有効なご意見等をうかがい、よりよい事業の改善を目指す。	特になし
								意見交換会開催回数4回 研修会開催回数2回	意見交換会開催回数1回 研修会開催回数1回								
			27	2-(1)-イ	つくば市OB人材活動支援事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	企画経営課	V字回復へ弾みをつけるため、昨年度に実施した周知活動の流れを止めることなく、継続した周知活動を図るとともに、より効果的な事業となるよう庁内横断的な連携の方策を検討する。	新型コロナウイルス感染症の影響による活動数の激減からの回復を目指し、活用実績がある利用者へ活用を促すとともに、パンフレット・便覧の配布やホームページでの周知に加え、中断していた市広報紙への掲載を再開した。 それにより、活用実績のある利用者から一定の利用があったことや、活用を新たに希望する利用者が見られ、活動回数を前年度比で大幅に伸ばすことができた。また、市広報紙への掲載することで本事業を広く周知することができた。	9千円	18千円	3	b	C	新型コロナウイルス感染症流行前に活用していた利用者による依頼が絶たれてしまったことや、登録者の高齢化に伴って活動の継続を断念するケース等により、新型コロナウイルス感染症流行前の水準まで活動回数が回復していない。	継続した周知を図るとともに、利用者のニーズや登録者の活動意欲に沿った効果的な活用方法を検討する。	特になし
								登録者の活動回数300回 新規登録数10人	登録者の活動回数74回 新規登録数8人								
			28	2-(1)-イ	市民活動団体支援事業	市民活動センターでの活動相談、アイラブつくばまちづくり補助金事業等市民活動団体の活動支援	市民協働課	市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。 アイラブつくばまちづくり寄付基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民主体の公益的な活動を支援する。	市民活動センターは令和3年度から指定管理者から市直営となったことで、指定管理者では実施できなかった市民活動相談ができなくなったことから、市民協働課との協働事業として各々役割に応じた分野を担当することで、市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。 また、協同労働(労働者協同組合)という新しい働き方の周知を図り、労働者協同組合の設立を支援することができた。	11,264千円	7,838千円	2	b	B	新たな活動支援を行うためには、市民活動団体同士との交流を深める共通の課題を洗い出す必要がある。 市民協働団体がアイラブつくばまちづくり補助金に頼らず、事業の自立に向けた支援をしていく必要がある。 労働者協同組合については、設立を支援するため、相談体制を拡充する必要がある。	今までの相談内容を精査し、市民活動団体が抱える共通の課題を講座等で実施することで、新たな支援策について市民活動団体から直接意見を伺える機会を創出する。 アイラブつくば補助金採択団体の事業自立に向けた支援として、採択団体間の情報共有・連携の強化を図る。 労働者協同組合については、相談体制を充実し、補助金の創設をする。	新たな市民活動拠点として市民センターのオープンに伴い、令和6年度については事業概要「市民活動センターでの活動相談」機能部分を市民センターが担う。
								市民活動センター利用者数7,000人 市民活動センター相談件数200件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数35件	市民活動センター利用者数1,967人 市民活動センター相談件数132件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数32件								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	29	2-(1)-イ	文化団体等 育成支援事業	文化協会の 支援	文化芸術課	市民の文化活動の活性化を目指し、つくば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。 事業実施の際には、新型コロナウイルス感染症対策や、会計処理について指導を行う。	市民ホールや地域交流センター、美術館などのつくば市内を拠点として、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進した。 また、文化芸術に触れる機会を拡充するため、令和4年度から始めたレクチャーコンサート(参加・体験型公演)を引き続き実施することができた。 レクチャーコンサートの開催回数ついて、令和4年度は2回、令和5年度は3回実施した。	1,200千円	1,200千円	2	a	A	会員の高齢化が課題であるため、多くの世代が参加、継続して活動できる企画を考え、実施していく必要がある。	今後も参加・体験型コンサート等の企画を開催し、多くの市民が文化芸術に触れる機会の拡充を図っていく。	特になし
								主催事業の実施17事業	主催事業の実施17事業								
			30	2-(1)-イ	(公財)つくば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	公益財団法人つくば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	ノバホールやつくばカピオなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業を全て実施することができた。 文化芸術公演における入場率について、令和5年度は67%(令和4年度:70.7%)となった。	55,000千円	55,000千円	2	b	B	・ホール公演のみに依存しない企画内容の検討が必要になる。 ・限られた予算の中で、満足度の高い企画を提供していくために、企画の内容、実施方法を検討していく。	・実施する企画内容を精査し、収支バランスを考慮した事業内容について検討していく。 ・従来からの市民参加型事業をはじめ、幅広い世代を対象にバランスのとれた各種事業を展開していく。	特になし
								文化芸術公演事業入場率80%	文化芸術公演事業入場率67%								
			31	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 シルバークラブ育成支援:年間を通じて、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 高齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つくば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 茨城県健康福祉祭いばらきねりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する。	各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、コロナ前の状況に戻りつつある。交流会や社会奉仕活動を実施し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、125の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。市大会の参加者が前年度より4名減少した。 【シルバー人材センター】 新規入会者108名 退会者89名 前年度から19名増加した。 市からは、施設の夜間当番／草刈り／清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	42,395千円	40,976千円	2	b	B	シルバークラブ会員数が減少傾向にある。	若手会員の加入促進や魅力ある活動メニューを広げる取組みに努めることで、シルバークラブ連合会全体の活性化を支援する。	特になし
								シルバークラブ会員数6,418人 単位シルバークラブ数135団体 契約件数4,400件 参加者数610人	シルバークラブ会員数5,755人 単位シルバークラブ数125団体 契約件数2,679件 参加者数508人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点	年度内の実績	事業費予算	事業費決算	進捗状況の点検・評価					特記事項
				No.	事業名	事業概要	担当課	令和5年度 事業計画	令和5年度 事業の成果・達成状況	単位:千円	単位:千円	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組	
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	32	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	令和5年度は社会力講座【実践編】として講座を年間で5回実施する。 「社会力」を発揮して地域で活躍する団体の活動に体験参加することをメインの内容に据え、これから地域で活躍したいと思っている市民等が継続して活動していくきっかけ作りを行っていく。	社会力に関する講座の実施3年度目として、引き続き社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(＝社会力コーディネーター)を講師として招き、「実践編」として参加者同士のワークショップや社会力を活かした団体での活動体験を実施した。また、令和4年度に実施したアンケートに基づき活動体験を除く4回のうち2回を平日夜の開催とした。活動体験においては5団体の協力を得て参加者を受け入れ、他の団体から学ぶことで自分の活動を客観視し今後の活動に活かすことを目的として実施した。	650千円	650千円	2	a	A	参加者がワークショップや活動体験をとおして得た知識や経験を活かし実際に社会力を発揮していくために、引き続きより実践的な内容を実施していく必要がある。	令和6年度も他団体での活動体験を引き続き実施し、参加者自らが活動を広げるきっかけとしていく。	特になし
								体験実習参加者数15名 「社会力」を活かした今後の活動意向80%	体験実習参加者数13名 「社会力」を活かした今後の活動意向89%								
			33	2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。	地区リーダー勉強会については、令和5年度の講演テーマを「令和・アフターコロナの自治会運営と共助コミュニティ活性化」として、近年、加入の低下や担い手不足など様々な課題を抱えている自治会運営に関する内容を市公式Youtubeチャンネルにて配信した。 配信形式で実施したことにより、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。	581千円	462千円	2	c	C	各地域のコミュニティ活動をより活性化するため、地域社会のリーダーである区長へ向けた勉強会(講演会等)の内容を引き続き検討していく。	市区会連合会及び各地区区会連合会と連携して事業を進めていく。	特になし
								人材づくりイベントの参加者数600視聴数	人材づくりイベントの参加者数299視聴数								
			34	2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	【まちづくりに関する見学会・講座の実施】 地域主体のまちづくりを行う笠間市を対象とした見学会、つくば市内のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。	360千円	140千円	2	a	A	専門家の派遣件数が減少傾向にあるため、引き続き情報発信のあり方を検討する必要がある。 また、制度の創設から時間が経過し、市民のニーズが変化している。	市ホームページや市広報紙で制度の周知を行ったうえで、登録グループ数や専門家の派遣件数が増えない場合は、制度の見直しを検討する。	特になし
								都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣8回	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣3回								

令和6年度(2024年度)第3次生涯学習推進基本計画事務事業事業計画一覧表											資料3					
基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指 標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	施設の利便性の向上	1	1-(1)-ア	図書館利便性向上事業	開館時間延長の継続、地域で手軽に図書館サービスを受けられる自動車図書館ステーションと返却ができるサービスポイントの増設等	中央図書館	土日の開館時間を2時間延長と祝日の特別開館を継続して実施し、利用者の利便性向上を図った。また、市役所コミュニティ棟に加え、かとりだ交流館での予約本貸出サービスを開始した。研究学園小学校における図書館サービスを開始した。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って市内を計画的に巡回し、貸出及び返却等のサービスを行った。新規ステーションや滞在時間の検討を行い、ステーションを54か所から58か所に増やしサービスの拡充を図った。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター及び市役所コミュニティ棟のブックポスト並びにオンラインの4交流センターでの図書返却事業を継続し、利用者の利便性向上を図った。また、かとりだ交流館に新たにブックポストを設置した。	土日の開館時間2時間延長と祝日の特別開館の継続および市庁舎コミュニティ棟、かとりだ交流館における予約本の貸出しを継続し、利用者の利便性向上を図る。また、研究学園小学校学校図書館に加え、みどりの南小学校学校図書館での図書館サービスの提供を開始し、サービスポイントを拡充する。 火曜日から土曜日に自動車図書館車3台を使って、市内62か所のステーションで貸出及び返却等のサービスを行う。各ステーションは2週間に1回の頻度で巡回する。自動車図書館車1台の更新を行う。 並木・広岡・大穂・豊里・島名の各交流センター、市役所コミュニティ棟、かとりだ交流館のブックポスト及びオンラインの4交流センター図書室での図書返却事業を継続するとともに、新たにつくば駅周辺にブックポストを設置し、更なる利便性向上を図る。	4,471千円	31,761千円					
			2	1-(1)-ア	市民交流施設利便性向上事業	誰でも気軽に利用できるような施設づくり	地域支援課、つくば市民センター	年間開館日数294日 年間開館時間2,769時間 自動車図書館利用人数13,777人 自動車図書館貸出冊数47,473冊 返却窓口への返却冊数208,904冊	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。そのため令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課】 市民の自主的な活動や交流の場として、様々な団体(サークル)が快適に利用できるよう、地域交流センターの維持管理を行う。 また、茶道、華道、囲碁、料理、語学、ボランティア、短歌、音楽、手芸、絵画、書道、パレエ、ダンス、スポーツ、工芸等多様な団体(サークル)の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。 【つくば市民センター】 従来の市民サークルだけでなく、社会貢献活動団体、市外団体、営利目的団体、少人数団体の利用も認め、広く市民の活動や交流な場所を提供するために、施設の維持管理を行う。 また上記団体の登録を円滑に行い、誰でも気軽に利用できる施設づくりを行う。	【地域支援課】 487,176千円	【地域支援課】 504,138千円 【つくば市民センター】 89,257千円					
								地域交流センター利用者数376,522人 地域交流センター登録団体698団体 地域交流センターWi-Fi整備10施設 ※つくば市民センター分(令和6年2月～3月)2,539人	【地域支援課】 地域交流センター利用者数470,000人 地域交流センター登録団体800団体 【つくば市民センター】 つくば市民センター利用者数20,000人 つくば市民センター登録団体200団体							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	参加機会の拡充	3	1-(1)-イ	民間企業での生涯学習事業	民間企業等での生涯学習講座の実施促進	生涯学習推進課	つくば市出前講座について、民間企業及び研究機関において7回実施することができた。 また、事業周知のため筑波研究学園都市交流協議会及びつくば市内工業団地へつくば市出前講座に関するアンケートを実施し、その他学校長会企画会での事業説明も行った。 令和6年度への更新の際には、より幅広い分野に対応するため新規講座の募集を行った。	民間企業等の意見を反映しながら研究機関、民間企業等での講座実施や新規講座の拡充を図っていく。	0千円	49千円					
								民間企業等での講座開催数7回	民間企業等での講座開催数5回							
			4	1-(1)-イ	オンラインによる生涯学習講座事業	ウェブを活用し、動画配信等による生涯学習講座の実施	生涯学習推進課	つくばびっ子博士において、16本の新作動画を公開しそのうち13本は市または受託業者が制作した(3本は参加機関が作成)。 動画の満足度については、アンケートに回答した児童の内びっ子博士が楽しかったと回答した率を記入している	生涯学習に関する講座等の動画本数は充実してきているため、各動画のさらなる内容の充実や満足度の向上を図っていく。	234千円	410千円					
								新規動画数16本 視聴動画の満足度97%	視聴動画の満足度80%							
			5	1-(1)-イ	地域交流センター活用事業	夜間・休日における学習機会の提供	地域支援課、つくば市民センター	地域交流センター講座において、夜間(17:30～20:00)講座のほか、土日開催の講座など、幅広い世代の方々が受講できるよう企画・実施した。 講座数：7講座(計11回) 講座内容：料理、親子工作、野外体験、歴史探訪、天体観測、親子星空観察	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検・評価を行う。 【地域支援課、つくば市民センター】 平日昼間に就労している社会人や子育て中の方等も含め、より多くの方が参加しやすいよう、夜間や休日に実施する講座を設定することで、夜間休日における学習機会を提供する。	【地域支援課】 3,780千円	【地域支援課】 5,394千円 【つくば市民センター】 4,729千円					
								夜間休日の講座の開講11回	【地域支援課】 夜間休日の講座数12講座 【つくば市民センター】 夜間休日の講座数5講座							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	多様な学びの実現	生涯学習の相談・情報の提供	6	1-(1)-ウ	生涯学習相談事業	オンライン等でも気軽にでき、地域の実情に応じた生涯学習相談の実施	生涯学習推進課	【生涯学習に関する相談】市内の教育機関、市内研究所、民間子育て関係団体から生涯学習活動に実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【生涯学習オンライン相談に関する調査】自治体による生涯学習に関するオンライン相談についてリサーチを実施した。行政相談そのものをオンライン化するケース等について知見を得た。	つくば市ホームページにおける生涯学習情報発信の工夫や、つくば市の広報誌等を活用した生涯学習相談の周知を実施し、相談につなげる。 近年は市内企業や研究機関等から地域貢献の観点で相談があることも多いため、積極的な情報や意見の交換に努める。相談にあたってはオンラインでの対応も実施する。	0千円	0千円					
								相談数3回 調査研究3回	相談数5回							
			7	1-(1)-ウ	情報収集・発信事業	広報戦略課と連携し、生涯学習情報を一元的に収集し発信	生涯学習推進課	つくば未来塾・家庭教育ボランティア・つくば市出前講座・社会力コーディネーター養成講座・中高生わくわく企画・この指とまれ事業をまとめた特集記事について、広報つくば令和6年5月号に掲載が決定した。また、生涯学習指導者情報提供事業においては検索性を高めるため各分類ごとの一覧表を掲載するなど改修をおこなった。	つくば市報、ホームページ等でそれぞれの生涯学習情報の関連性を強めて情報発信を図っていく。アプリケーション、SNS等も積極的に活用していく。	0千円	0千円					
								広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 つくスマ活用回数13回	広報紙を活用した新規情報発信1回 ホームページ改修回数1回 アプリケーション・SNSを活用した発信回数15回							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	参加への障壁をなくす取組	8	1-(2)- ア	生涯学習フ ンストップ 対応事業	生涯学習講座における 配慮事項を示した指針 の作成 生涯学習情報 のフンストップ提供	生涯学習推進課	つくば市生涯学習指導者登録制度について令和4年度の制度見直しを受けたホームページの再改修を行い、教えたい人と教わりたい人向けの情報を同じページで発信すること等わかりやすいホームページ作りに取り組んだ。 障害者の生涯学習については、12月に実施した事業実施後、アンケート及び記録を作成した。今後の障害者の生涯学習活動を考える上での参考とする。	1-(1)-ウ「情報収集・発達時利用」及び1-(2)-イ「障害者の生涯学習関連事業」と連動して、生涯学習に関する情報発信についてフンストップ化に引き続き努め、また、生涯学習講座における配慮事項の指針のあり方を考える。	0千円	0千円					
			9	1-(2)- ア	広報力向上 事業	職員向け広報セミナー の実施 広報事業へのアドバイスの実施	広報戦略課	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、対面型(会場参加)を主な開催形式とするほか、欠席者へは後日動画配信しフォローアップ体制を整え、職員一人の参加形態に合わせたセミナーを実施したことで、想定を超える参加者数となった。また、チラシ作成については実践形式の研修を初めて行った。 第1回 テーマ:ホームページ(参加者:76名) 第2回 テーマ:チラシ(参加者:85名) そのほか、ブランドイメージの統一を図るため、年間を通じて各課が制作する広報物等のデザインチェックや、各政策・事業の動画撮影及び配信の支援を実施した。	市が行う各事業に関する情報が市民にしっかりと伝わるよう、職員一人一人の広報力向上を目的として、引き続き職員向け広報力向上セミナーを年2回以上実施する。開催方法については、対面型と動画配信型を併用する。 また、年間を通じて各課が作成するチラシやポスター等の広報部物のデザインチェックや、動画配信に係る撮影やその支援を随時行う。	0千円	12千円					
			10	1-(2)- ア	外国人市民 向け情報発信・講座事業	外国語広報紙等の外国人市民向け広報の拡充 外国人市民向け講座(日本語講座)の実施	国際都市推進課	多言語ホームページの発信については、ホームページの移設により目標値を大幅に上回る発信(更新)回数となった。また、大人向け日本語講座の受講者数・こども日本語勉強会の登録者数も当初の目標を大幅に上回る受講者・登録者となった。	市が発行する文書や冊子等の翻訳 8か国語の外国語広報紙を発行 市ホームページにおける4言語での情報発信 外国人市民に向けた日本語学習支援 (大人対象:日本語講座をレベル別に昼・夜コースで開催し、対面コースを再開する。) (外国にルーツを持つ子ども対象:こども日本語勉強会、小中学校就学・高校進学ガイダンスを開催)	4,081千円	5,669千円					
						外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数283回 大人向け日本語講座の受講者数274人 こども日本語勉強会の登録者数46人		外国語広報紙発行回数4回 ホームページでの多言語情報発信回数156回 大人向け日本語講座の受講者数330人 こども日本語勉強会の登録者数50人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進	誰一人取り残さない生涯学習	主体的に活動に参加できる取組	11	1-(2)-イ	障害者の生涯学習関連事業	障害者が自ら生涯学習を楽しめる講座の実施と生涯学習に取り組む障害者への支援体制の構築	生涯学習推進課	「卓球バレー体験講座」を開催した。3団体17名が参加し、障害の有無、程度、年齢に関わらずプレーできる卓球/バレーを楽しんだ。 アンケートでは、「楽しかった」、「まあまあ楽しかった」の回答の合計が94%となり、障害者にもスポーツの楽しさを感じてもらうことができた。 参加者数の内訳:参加者17名、サポート6名、見学2名 合計25名	「障害者の自発性を取り入れる」という観点を持ち、市内の障害者教育機関と協働した障害者のための生涯学習講座を開催する。	14千円	156千円					
								講座参加者数25名 講座参加者の満足度94%	講座参加者数20名 講座参加者の満足度80%							
			12	1-(2)-イ	男女共同参画啓発事業	男女共同参画意識の向上を図りながら、能力や行動力を高めるセミナーの開催	ダイバーシティ推進室	性の多様性や年金、キャリアアップ、育児休業、健康、防災等の幅広いテーマを取り上げ、参加者に深い理解と行動変容の促進ができた。セミナー企画は10回(うち1回は中止)、参加者数は226人。	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナーの開催 男女共同参画・ダイバーシティ推進の視点を取り入れたエンパワーメント講座やキャリアアップ講座など、特定のテーマに焦点を当て、各セミナーの内容や目的をより明確にし、参加者が深く理解しやすいセミナーを開催します。参加者がより満足度の高い体験を得ることができるかを確認するため、アンケートを実施し、参加者の満足度を測定します。	6,672千円	7,783千円					
								男女共同参画セミナー9回	男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー8回 男女共同参画・ダイバーシティ推進セミナー参加者満足度(アンケート実施)93%							
			13	1-(2)-イ	障害者スポーツ推進事業	障害者スポーツ人材の育成を目指し、スポーツイベントの実施、人材の育成、体制の構築	スポーツ振興課	障害者がスポーツ施設を利用できる体験講座と障害者スポーツサポーター養成研修を兼ねた講座を2回実施した。 延べ参加者内訳 障害者9人 指導補助10人 つくばスポーツフェスティバル&つくば2023や障害者スポーツ体験講座をとおして障害者スポーツに親しむ機会を設けた。	障害者がスポーツ施設を利用できる体験講座と障害者スポーツサポーター養成研修を兼ねた講座を年2回実施する。 また、つくばスポーツフェスティバル&つくば2023や障害者スポーツ体験講座をとおして障害者スポーツに親しむ機会を設ける。	553千円	631千円					
								講座・教室の数2回 講座・教室の参加延べ人数19人	講座の開催数2回 講座・教室の参加延べ人数20人							
			14	1-(2)-イ	生涯学習関連事業(障害のある人や支援者対象)	チャレンジアートフェスティバル、おひさまサンサン生き生きまつり等の開催、奉仕員養成講座の開催	障害者地域支援室	チャレンジアートフェスティバルは、新型コロナウイルス感染症の影響から参加を見合わせる団体もあったが、舞台発表、作品展示ともに実施できた。合わせて県庁展や市役所展を開催し、一般市民に対する事業周知を行った。おひさまサンサン生き生きまつりは、4年ぶりに開催することができた。参加者の満足度向上のため、プログラムの充実を図った。奉仕員養成講座は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で参加者数が減っていたが、徐々に参加者数は回復傾向にある。	おひさまサンサン生き生きまつりは、障害者と高齢者交流による社会参加を目的として開催予定としている。 奉仕員養成講座は、年間に手話奉仕員養成講座入門コースと基礎コースとも各30回、音訳・点訳・要約筆記奉仕員講座各10回実施する。奉仕員を養成することにより聴覚障害者等に対する日常生活の支援を図り、社会参加に寄与する。	9,495千円	12,668千円					
								チャレンジアートフェスティバル2,024人 おひさまサンサン生き生きまつり299人(障害者のみ) 奉仕員養成講座57人	チャレンジアートフェスティバル2,200人 おひさまサンサン生き生きまつり1,500人 奉仕員養成講座75人							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びがきっかけ作り	15	2-(1)- ア	つくば人間学講座	市民との協働講座(人間学講座)の実施	生涯学習推進課	市民と協働して組織する「つくば人間学講座実行委員会」にて講座内容を決定し、以下の4講座を開催した。 ・発達障害のある人への理解と支援(2023/7/29 参加者39名) ・農業×クリエイティブ(2023/9/30 参加者26名) ・化粧品、食産業と生物多様性との関わり(2023/11/18 参加者8名) ・異常気象のお話(2024/1/27 参加者67名)	市民との協働で組織する実行委員会をとおして、市民に多面的な学びの場を提供する。 【実施テーマ(予定)】子育て、健康、SDGs	214千円	262千円					
			16	2-(1)- ア	文化財展示講座事業	文化財展示施設等での展示、各種文化財・郷土史に関する講座の開設	文化財課	・昨年度の課題に対応して、古文書講座を初級講座(8~9月)・中級講座(1~2月)で実施し、初級講座28名・中級講座27名の参加者があり、市民が古文書や地域の歴史に親しむ機会を提供することができた。 ・巡回企画展「発掘!!圏央道-つくば市内遺跡出土品展-」を10月~2月で開催し、企画展1,590人、講演会80人、体験講座23人(市内在住・在学・在勤者)の来場者・参加者を得た。 ・「つくばちびっ子博士」の開催に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした勾玉づくり及び拓本体験を行う「考古学体験教室」を実施し、市内在住・在学の小中学生(保護者含む)15名の参加者を得た。 ・その他にも史跡・文化財を知るイベントを実施し、いずれもアンケートの満足度等も高く、実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育成することができた。	・10月~2月にかけて巡回企画展を、関連事業として11月に体験講座を、12月に講演会を実施する。 ・地域に伝わる江戸時代の古文書を題材にした古文書講座を、難易度に分け、8~9月・11~12月にそれぞれ全4回実施する。 ・「ちびっ子博士」のイベント開催時期に合わせて、夏休みに市内小中学生を対象とした出土品等の整理調査体験教室を実施するなど、市民が市内の文化財や史跡に親しめる機会を引き続き提供する。	4,340千円	5,314千円					
			17	2-(1)- ア	調査・研究支援事業	筑波大学を始めとするつくば市域における図書館との連携、小・中・義務教育学校で実施するブックトーク等による読書促進	中央図書館	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源及び活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行った。 ・学校訪問ブックトーク、団体貸出し、社会科見学、職場体験学習受入れ、学校司書等の研修・レファレンスについては、目標の達成に至らなかった。 ・みどりの商小・中学校開校に伴い、図書室整備のために、中央図書館から司書を派遣し、蔵書整理などの支援を行うなど、学校図書館との連携を強化した。 ・小中学生の読書推進を目的とし、GIGA端末を活用して電子図書館サービスを利用するための準備を進めた。	つくば市域に所在する各機関の図書館それぞれの情報、資源および活動成果等の交流を促進し、かつ、連携してその活用を図るため、つくば市域図書館連携協議会において協議を行う。 ・学校図書館ブックトーク、団体貸出し(調べ学習の支援・学級文庫支援)、社会科見学・職場体験学習受入れ、学校司書等への研修実施といった学校図書館支援や、ファーストブック講座などのイベントを実施する。 ・参考資料を充実させるとともに、電話やメール等による調査・研究の質問を受け付け、専門職員が資料情報を提供する。	1,036千円	1,301千円					

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかに することができる 生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びがきっかけ作り	18	2-(1)- ア	多文化共生 推進事業	外国人市民との交流事業の開催及び民間団体実施事業の周知協力	国際都市推進課	つくば市国際交流協会主催の国際理解講座「世界お茶のみ話」は予定通り対面で実行することができた。また、民間事業者が運営する子育て支援施設と連携して実施した交流イベントには日本人親子と外国人親子が参加し、親子交流ができたとともに、外国人の居場所づくりの一端とすることができた。	国籍を超えた市民交流を推進するためのイベント等の開催 外国人市民が日本語を話したり、日本文化に触れることができるイベントの開催支援	772千円	833千円					
								国際理解講座開催数40回 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業	国際理解講座開催数40講座 世界お茶のみ話開催数12回 民間団体・事業者等との連携事業数2事業							
			19	2-(1)- ア	スポーツ教室事業	スポーツ教室の充実	スポーツ振興課	【開催した教室】 子どものスポーツ体験教室(高学年)、スポーツコンディショニング講座、トレイルラン、ランニング、スプリント、子どものスポーツ体験教室(低学年)、障害者スポーツ体験教室、低学年がけっこ教室、モルック体験会 開催した教室の回数では目標値を上回った。 教室の開催数9回 教室の参加延べ人数433人	市民のスポーツ活動の促進のため、スポーツ教室を開催しスポーツ手法や楽しさを学ぶ機会を提供する。 教室の開催数6回 教室の参加延べ人数670人	1,126千円	1,601千円					
				20	2-(1)- ア	地域交流センター講座等事業	地域交流センターでの学級・講座の充実	地域支援課、つくば市民センター	・年間講座数について、目標値を上回る講座を実施することができた。 ・地域交流センターを利用している個人や団体等に対し、今後のサービス提供の参考とするためのアンケートを実施した。 実施期間：令和5年12月1日～令和6年1月10日 回収状況：配布数1,002件、回収数641件[回収率64%] また、年間講座数106回	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては地域支援課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【地域支援課、つくば市民センター】 利用者アンケートや講座受講者に対するアンケート結果を踏まえ、市民ニーズに対応した講座を実施する。 【地域支援課】 年間講座数106講座 【つくば市民センター】 年間講座数24講座	【地域支援課】 3,780千円	【地域支援課】 5,394千円 【つくば市民センター】 4,729千円				
			21		2-(1)- ア	筑波山地域ジオパーク推進事業	筑波山地域ジオパークについての講座・体験学習の実施	ジオパーク室	令和5年度は、筑波山地域ジオパーク(構成各市及び協議会)として、生涯学習を目的とした講座等の企画(49回)、部会、ジオガイドのスキルアップを目的とした講座、シンポジウムを実施し、筑波山地域の魅力等を学びがきっかけとなる機会を幅広く創出することができた。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員が講師となって実施する生涯学習講座(出前講座)をつくり、案内及び講座一覧を筑波山地域ジオパーク公式HPで公開した。令和5年度は1件の申し込みがあった。 市民向け講座等開催数4回 部会開催数10回 ジオガイド講座開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	令和6年度も引き続き、昨年度11月にオープンした筑波山地域ジオパークの中核拠点施設である「つくばジオミュージアム」を活かしながら、ジオパークに関する生涯学習講座を実施する。 また、筑波山地域ジオパーク推進協議会教育・学術部会部会員による生涯学習講座(出前講座)について引き続き周知し、講座を開催する。 市民向け講座等開催数5回 部会開催数9回 ジオガイド向け講座等開催数3回 学術シンポジウム開催数1回	11,505千円	16,909千円				

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかすことができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	22	2-(1)-イ	生涯学習活動相談事業	生涯学習活動の継続支援	生涯学習推進課	【生涯学習に関する相談】市内の教育機関、市内研究所、民間子育て関係団体から生涯学習活動に実施に関する手法の相談を受け、実現に向けた手段や制度の紹介等を実施した。 【特別教室開放】令和5年(2023年)10月1日から、つくば市立研究学園小学校の家庭科室・多目的室と、香取台小学校の家庭科室・図工室・音楽室の特別教室を市民に対して開放をスタートした。令和5年度は利用回数は19回でのべ343人に利用された。	生涯学習活動の継続を支援する環境として、令和6年度中に新設校であるつくば市みどりの南小学校の特別教室(例:家庭科室)の一部を市民に対して開放する事業を開始させる。 また、1-(1)-ツ「生涯学習相談事業」、「情報収集・発信事業」と連動させた事業展開を行い、周知活動や市民が相談しやすい環境を創出していくことに引き続き取り組む。	0千円	0千円					
								相談数3回 特別教室開放学校数2校	相談数5回 特別教室学校開放数3校							
			23	2-(1)-イ	家庭教育学級支援事業	家庭教育学級への指導・助言、講演会等の開催	生涯学習推進課	家庭教育学級については、動画配信方式も併用しながら事業規模を維持した。また、新たに企業において家庭教育学級を開催し、働く保護者に学習の機会を提供した。 社会教育講演会については、次のとおり実施した。 講師:蓮池 薫氏 テーマ:夢と絆を求めて～翻弄された運命のなかで～ 参加者:740名 家庭教育セミナーについては、学校に全ての保護者が集まる行事を利用して、家庭教育のヒントとなる話を社会教育指導員より伝える機会とした。	家庭教育学級、家庭教育セミナーを継続して開催する。家庭教育学級の運営について、社会教育指導員が指導、助言を行い、講演会や講習会等を開催する。	2,418千円	4,516千円					
								家庭教育学級4,271人 社会教育講演会1回 家庭教育セミナー63回	家庭教育学級5,000名 家庭教育セミナー60回							
			24	2-(1)-イ	生涯学習指導者情報提供事業	生涯学習情報(OB人材、指導者情報)の整備・活用	生涯学習推進課	各分類ごとに指導者の一覧表を掲載する等ホームページの改修を行うことで、指導者情報の検索性を向上させた。 また、指導者を探す場合と指導者として登録する場合で分かれていたページを統合するなど登録時の利便性も向上させた。 新規登録においては、広報つくば及びSNSでの周知を行った。	令和5年度に改修したホームページを活用し、積極的に情報発信を進めていく。引き続き指導者情報の検索性を上げ、指導者を探している方と指導者が直接やり取りができる環境を整備していく。	96千円	97千円					
								情報提供数23回 登録講師増加数17人	ホームページ閲覧回数10,000回 登録講師増加数20人							
			25	2-(1)-イ	学校施設開放事業	学校施設開放(体育館・グラウンドなど)の推進	教育施設課	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行った。 新たに、義務教育学校の1施設を開放した。 また、重複申請を行っていると思われる団体について、利用状況と申請書との整合性の確認を行った。	小中学校、義務教育学校の学校体育施設の開放を行う。 今年度より、香取台小学校、研究学園小学校、研究学園中学校を新たに開放する。 昨年度課題となった、①一部団体の他施設、同曜日、同時開催の希望による利用団体決定にむけた調整会議運営の難航、②利用決定に向けて、調整がつかない場合は抽選を行う方針をとったが、抽選ありきで調整を図る意思のない団体が多数発生してしまった点について、事前希望調査の実施や、調整に関するルールの周知徹底を行うこと等で改善し、事業を運営する。 また、例年調整会議にて利用が決定し、申請をしながらも、利用実態が見られないという団体について、他団体からの相談が多くあったため、利用実態調査を実施し、継続的な団体の利用を行うよう、働きかける。	95千円	3,335千円					
								小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率100%	小学校施設稼働率90% 中学校施設稼働率95% 義務教育学校施設稼働率95%							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	地域で学び合う生涯学習	地域で学びつづける仕組みづくり	26	2-(1)-イ	文化財サ ポーター事 業	文化財の解 説ポラン ティアの育 成	文化財課	・学校授業や「つくばびっ子博士」などのイベントにおける展示施設の解説をボランティア登録者へ依頼し、協力を得ることができた。 ・ボランティア登録者を対象とした臨時講座を1回、意見交換会を1回開催したもの、年度当初の計画どおりに実施することができなかった。 ・年間を通じて、民間のボランティア団体「常陸小田城親衛隊の会」と連携し、小田城跡での解説や会員への研修等を実施したほか、9～11月に「常陸小田城親衛隊の会」と共催した、解説イベントを3回実施した。市の事業に市民が参加し、文化財への理解と愛着を深める機会とすることができた。	・10～12月に全6回のボランティア養成講座を開講し、登録者を増やす。 ・また、現在のボランティア登録者の知見向上を目指すための臨時講座を開講し、講座修了者からボランティア登録者を募り、展示施設や文化財の解説のほか、意見交換、学校支援業務への協力、イベント時の補助、展示作成時の補助などを実施する。 ・小田城跡のボランティア団体である常陸小田城親衛隊の会についても、知見向上のための定期的に研修会を実施するほか、昨年度好評であった共催の解説イベントも、引き続き実施していく。	153千円	237千円					
			27	2-(1)-イ	つくば市 OB人材活 動支援事業	生涯学習情 報(OB人 材、 指導者情 報)の整備・ 活用	企画経営課	新型コロナウイルス感染症の影響による活動数の激減からの回復を目指し、活用実績がある利用者へ活用を促すとともに、パンフレット・便覧の配布やホームページでの周知に加え、中断していた市広報紙への掲載を再開した。 それにより、活用実績のある利用者から一定の利用があったことや、活用を新たに希望する利用者が見られ、活動回数を前年度比で大幅に伸ばすことができた。また、市広報紙への掲載することで本事業を広く周知することができた。	継続した周知活動を図るとともに、より効果的な事業となるよう検討を進める。	18千円	29千円					
			28	2-(1)-イ	市民活動団 体支援事業	市民活動セ ンターでの 活動相談、 アイラブつ くばまちづ くり補助金 事業等市民 活動団体の 活動支援	市民協働課、 つくば市民 センター	市民活動センターは令和3年度から指定管理者から市直営となったことで、指定管理者では実施できなかった市民活動相談ができなくなったことから、市民協働課との協働事業として各々役割に応じた分野を担当することで、市民活動団体支援のための様々な業務に取り組むことができた。 アイラブつくばまちづくり寄附基金を有効活用し、市民活動団体等が自主的に企画し提案した事業に補助金を交付するとともに、担当部署の協力により事業の自立に向けた支援を行うことができた。 また、協同労働(労働者協同組合)という新しい働き方の周知を図り、労働者協同組合の設立を支援することができた。	※令和6年2月に、吾妻交流センターと市民活動センターの機能を併せた施設として、「つくば市民センター」が新設された。令和6年度計画においては市民協働課及びつくば市民センターがそれぞれ目標値を設定する。 評価は関係部署が協議の上、統一した点検、評価を行う。 【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり寄附基金を活用し、個性豊かで活力あるまちづくりの実現を目指すため、市民全体の公益的な活動を支援する。 労働者協同組合の設立を支援する。 【つくば市民センター】 市民活動団体等の取組を応援し、相談を受けるとともに、市民団体の新たな活動を支援する。	【市民協働課】 7,838千円	【市民協働課】 11,074千円 【つくば市民センター】 4,729千円					
								市民活動センター利用者数1,967人 市民活動センター相談件数132件 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数32件	【市民協働課】 アイラブつくばまちづくり補助金採択事業数35件 【つくば市民センター】 市民センター相談件数80件							

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかに かすことができる生涯学習の推進	地域で学びつづける仕組みづくり	地域で学び合う生涯学習	29	2-(1)-イ	文化団体等育成支援事業	文化協会の支援	文化芸術課	市民ホールや地域交流センター、美術館などのつづば市内を拠点として、予定していた全ての事業を実施し、文化芸術活動を推進した。 また、文化芸術に触れる機会を拡充するため、令和4年度から始めたレクチャーコンサート(参加・体験型公演)を引き続き実施することができた。 レクチャーコンサートの開催回数について、令和4年度は2回、令和5年度は3回実施した。	市民の文化活動の活性化を目指し、つづば市文化協会に対する事業費補助として補助金を交付し、主体的な活動を促進するよう支援する。事業実施の際には、会計処理等について指導を行う。	1,200千円	1,200千円					
							主催事業の実施17事業	主催事業の実施18事業								
			30	2-(1)-イ	(公財)つづば文化振興財団支援事業	文化振興財団の支援	文化芸術課	ノバホールやつづばカピオなどを会場として公演事業を実施したほか、美術館での展覧会、小中学生を対象としたアウトリーチ、文化芸術支援なども並行して展開し、計画された事業を全て実施することができた。 文化芸術公演における入場率について、令和5年度は67%(令和4年度:70.7%)となった。	公益財団法人つづば文化振興財団への指導・助言のほか、財政的支援として行政補完型運営補助金の交付を行う。 また、同財団と協定を締結し、共同主催により市内の文化施設等で音楽・演劇・芸能・美術等の幅広いジャンルの文化芸術振興事業を実施する。	55,000千円	55,000千円					
							文化芸術公演事業入場率67%	文化芸術公演事業入場率80%								
			31	2-(1)-イ	高齢者生きがい活動支援事業	高齢者の社会活動支援	高齢福祉課	各種イベントやシルバークラブ活動への支援 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、コロナ前の状況に戻りつつある。交流会や社会奉仕活動を実施し、高齢者の健康づくりや生きがいづくり、社会参加の促進に寄与した。 また、125の単位シルバークラブを含むシルバークラブ連合会に補助金を交付することで、その活動を支援した。 いばらきねりんスポーツ大会は5月に地区予選会、6月に市大会を実施した。市大会の参加者が前年度より4名減少した。 【シルバー人材センター】 新規入会者108名 退会者89名 前年度から19名増加した。 市からは、施設の夜間当番／草刈り／清掃等を依頼している。 補助金を交付することにより、シルバー人材センターの円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進等に寄与できた。	・シルバークラブ大会:役員功労者表彰、感謝状贈呈、講演会等を実施 ・シルバークラブ育成支援:年間を通して、シルバークラブ連合会の支援を社会福祉協議会に委託し行う。 ・高齢者労働能力活用事業費補助事業:補助金を交付し、公益社団法人つづば市シルバー人材センターの円滑な運営を支援する。 ・ねりんスポーツ大会:茨城県健康福祉祭いばらきねりんスポーツ大会の予選会として市大会を開催する)種目:グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、ベタソウ、輪投げ)	40,976千円	43,664千円					
							シルバークラブ会員数5,755人 単位シルバークラブ数125団体 契約件数2,679件 参加者数508人	シルバークラブ会員数6,418人 単位シルバークラブ数135団体 契約件数3,300件 参加者数550人								

基本方針	施策の柱	施策の方向性	事業番号	生涯学習基本計画の展開(個別事業内容)				評価の観点		事業費予算		進捗状況の点検・評価				
				No.	事業名	事業概要	担当課	(参考)令和5年度 事業の成果・ 達成状況	令和6年度 事業計画	令和5年度決算 (単位:千円)	令和6年度予算 (単位:千円)	実施 状況	指標	総合	課題	今後の取組
学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進	「社会力」を持った人材の育成	実践できる人材の育成	32	2-(2)	「社会力」人材育成事業	「社会力」を持った人材を育成するために、連続講座など「社会力」を育成する講座を実施	生涯学習推進課	社会力に関する講座の実施3年度目として、引き続き社会力をいかして活躍するロールモデルとしての「社会力コーディネーター」の存在にスポットを当て、市内外における先進事例を実際に運営する人物(＝社会力コーディネーター)を講師として招き、「実践編」として参加者同士のワークショップや社会力を活かした団体での活動体験を実施した。また、令和4年度に実施したアンケートに基づき活動体験を除く4回のうち2回を平日夜の開催とした。活動体験においては5団体の協力を得て参加者を受け入れ、他の団体から学ぶことで自分の活動を客観視し今後の活動に活かすことを目的として実施した。	令和6年度は社会力講座【実践編】スキルアップ版として参加者が自身の活動や所属団体の魅力を発信できることを目指す。他の団体で学ぶことで参加者自身の活動を客観視し、今後の活動に活かすきっかけとする。	650千円	649千円					
								体験実習参加者数13名 「社会力」を活かした今後の活動意向89%	体験実習参加者数15名 「社会力」を活かした今後の活動意向90%							
			33	2-(2)	地区リーダー勉強会事業	地区リーダー勉強会の開催	市民協働課	地区リーダー勉強会については、令和5年度の講演テーマを「令和・アフターコロナの自治会運営と共助コミュニティ活性化」として、近年、加入の低下や担い手不足など様々な課題を抱えている自治会運営に関する内容を市公式Youtubeチャンネルにて配信した。配信形式で実施したことにより、より多くの区長等に参加(視聴)していただくことができた。	地域のリーダーである区長の担い手不足など、区会における近年の課題をテーマにした勉強会(講演会等)を開催して、その解決策を検討していく。8月又は9月に開催を計画している。	462千円	666千円					
								人材づくりイベントの参加者数299視聴数	人材づくりイベントの参加者数600視聴数							
			34	2-(2)	地域まちづくり支援事業	まちづくりに関する講座の実施・専門家の派遣	都市計画課	【まちづくりに関する見学会・講座の実施】 地域主体のまちづくりを行う笠間市を対象とした見学会、つくば市内のまちづくりについて学ぶ都市計画の講座を実施し、多くの方々に学びの機会を提供することができた。 【専門家の派遣】 地域まちづくり推進団体からあった申請すべてに対し適切に専門家を派遣することができた。	【都市計画講座の実施】 市民向けに、まちづくりへの関心と理解を深めることを目的として、都市計画の制度やつくば市の現状を紹介し、現地見学会を行う講座を開催する。 【まちづくり見学会の実施】 地域まちづくりグループ及び推進団体を対象として、今後のまちづくりの参考となるよう先進地を訪問し、現地見学会を行う講座を開催する。 【専門家の派遣】 地域住民などで構成される地域まちづくりグループや地域まちづくり推進団体等が活動を行う上で、組織の運営に関すること、まちの課題や将来像に関すること等について指導や助言等を求めてきた際に、地域まちづくり専門家の派遣を行う。	140千円	380千円					
								都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣3回	都市計画講座1回 まちづくり見学会1回 専門家の派遣8回							

事業概要

令和8年(2026年)3月に第3次つくば市生涯学習推進基本計画(以下「計画」)が満了することによる第4次計画の策定

2年度をかけて策定業務を実施

【現行】第3次計画 (～2026.3月)

基本理念

「つながる 広がる つくばの生涯学習」

基本方針

- 1 誰もが自分らしく生きるための生涯学習の推進
- 2 学びの力をいかにすることができる生涯学習の推進

令和6年度業務(予定)

- ・アンケートの実施(層化無作為抽出) 3,000人
- ・特に意見を拾いたい対象に向けたwebアンケート
- ・ワークショップ等の市民参画手法 4回
- ・計画骨子案作成 → 第3次計画P32-36にあたる「基本的考え方」の整理

令和7年度業務(予定)

- ・骨子案に基づいた計画の具体的検討

例

- ・計画に位置付ける具体的施策の検討
- ・PDCAサイクルの検討
- ・パブリックコメントの実施
- ・つくば市への答申

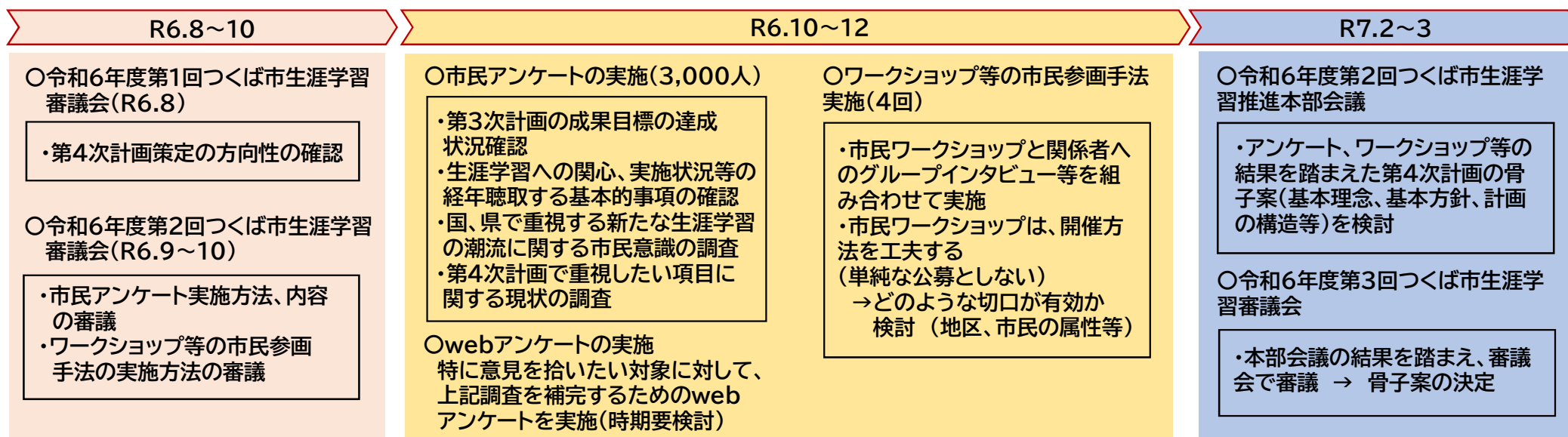
第4次計画 (2026.4月～)

【策定の方向性】

- ・生涯学習の成果をいかして社会課題等の解決に取り組む人材(＝社会力を持った人材)を育成する第3次計画の理念を継承し、発展させる
- ・つくば市未来構想やつくば市教育大綱の理念の実現
- ・個別計画としてのオリジナリティを発揮
- ・計画進捗のPDCAサイクルの在り方を位置づけ

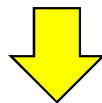


【令和6年度のスケジュール予定の概要】 ※計画構成と生涯学習審議会に関するスケジュールのイメージについては資料5を参照



【第4次計画策定の方向性】

- つくば市生涯学習推進基本計画は法定計画ではなく、自治体の独自性のある計画立案をすることが可能。
- 第3次計画は、総花的な傾向があり、本部会議や審議会の議論も散逸しがちであったという反省がある。

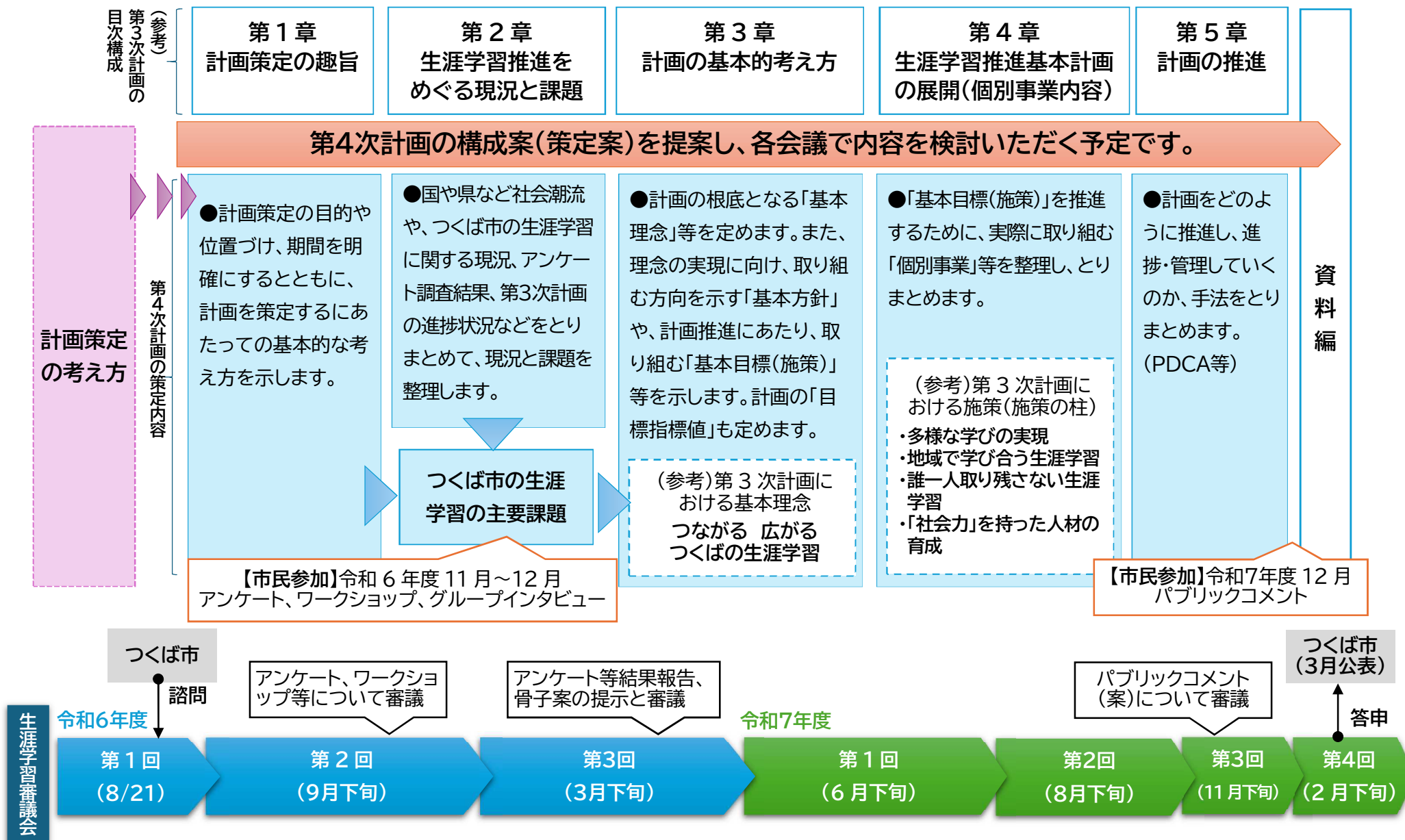


○第4次計画では生涯学習が広範な概念であるがゆえに、あえて力点をどこかに置き、「この点をこれから5年間は重視する」という計画としたい。特に、第3次計画の基本理念に掲げた、「様々なつながりをもとに、生涯学習の成果を生かして地域や社会の課題に挑戦することで、地域、そしてつくば市をさらによりよいものにする」ための「学びの力をいかすことができる生涯学習の推進」を重視したい(イメージ図は資料6参照)。



資料 5

■つくば市生涯学習推進基本計画の構成と策定スケジュールのイメージ



第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画策定の重点となるポイント

第 3 次つくば市生涯学習推進基本計画 施策の体系

つくば市未来構想 つながりをつなぐ力を未来につくる

基本理念

つながる 広がる つくばの生涯学習

教育大綱

多様で豊かな個性が
花開く環境づくり

教育大綱

『善き生の実現能力』と
『社会力』を育てる

基本方針

誰もが自分らしく生きるための
生涯学習の推進学びの力をいかすことができる
生涯学習の推進

施策の柱・方向性

多様な学びの実現

施設の利便性の向上

参加機会の拡充

生涯学習の相談・情報の提供

誰一人取り残さない生涯学習

参加への障壁をなくす取組

主体的に活動に参加できる取組

地域で学び合う生涯学習

地域で学ぶきっかけ作り

地域で学びつづける仕組み作り

「社会力」を持った人材の育成

実践できる人材の育成

生涯学習を楽しむ環境があることを前提として、生涯学習の成果をいかして地域や社会の課題に取り組む側面を第 4 次で強化する。その取り組みは、身近なもの・大きな社会課題に取り組むもの、いずれも等しく広がり、等しく評価する計画としたい。

会 議 録

会議の名称		令和 6 年度第 2 回つくば市生涯学習審議会		
開催日時		令和 6 年(2024 年) 9 月 30 日 (月) 開会午前 10 時 閉会正午		
開催場所		つくば市役所 2 階 203 会議室		
事務局 (担当課)		教育局生涯学習推進課		
出席者	委員	武田 直樹委員 (会長)、小森谷 さやか委員 (副会長)、石川 由美子委員、石塚 一夫委員、黒崎 博委員、後藤 真紀委員、鈴木 朱里委員、田中 秀夫委員、田中 依子委員、中嶋 修委員、長橋 進也委員、福井 正人委員、溝上 智恵子委員、山崎 誠治委員		
	その他	森田 充教育長		
	事務局	吉沼 正美教育局長、山口 健次参事、澤頭 由紀子生涯学習推進課長、瓜阪 恵理名課長補佐、渡辺 幹高係長、大久保 竣介主事、小宅 剛主事		
公開・非公開の別		■公開 □非公開 □一部公開	傍聴者数	0 名
非公開の場合はその理由				
議題		(仮称)第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画策定について (1) 令和 6 年度第 1 回審議会のまとめと計画の構成イメージについて (2) 市民アンケート等の実施について (3) 市民参加 (市民ワークショップ) の実施について		
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議事			
	(仮称)第 4 次つくば市生涯学習推進基本計画策定について (1) 令和 6 年度第 1 回審議会のまとめと計画の構成イメージについて			

	(2) 市民アンケート等の実施について
	(3) 市民参加（市民ワークショップ）の実施について
4	その他
5	閉会

1 開会	
事務局（瓜阪）	ただ今から、令和6年度第2回つくば市生涯学習審議会を開会いたします。つくば市教育局生涯学習推進課の瓜阪と申します。本日の司会を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
2 挨拶	
事務局（瓜阪）	はじめに、教育局長の吉沼から皆様に挨拶申し上げます。 吉沼局長、よろしくお願いします。
事務局（吉沼）	皆様おはようございます。ただ今御紹介いただきました、教育局長の吉沼と申します。武田会長、小森谷副会長はじめ、委員の皆様にはお忙しい中、第2回目の生涯学習審議会に御出席をいただきましてありがとうございます。まずは御礼申し上げます。 前回、初めて委員としてお引き受けをいただいた最初の審議会を8月に開催させていただいたわけですが、沢山の議論をいただき、とても活発に御発言をいただいたと思っております。そのことに感謝申し上げ、この場をお借りしてお礼を申し上げます。 さて、本日の審議会でございますが、第1回目の審議会議事の中で最後に取り扱いをさせていただきました、「（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画」について、引き続き御意見を賜りたいと思っております。1回目に皆様からいただいた意見を参考に、本日の資料を作らせていただいておりますので、参考にさせていただきながら御議論いただければ大変ありがたいと思っております。これから年内にかけまして、つくば市が計画策定のための市民意見の聴取の一環として実施します「市民アンケート」と、「市民ワークショップ」の内容を議事の主なものとして今回取り上げさせていただきます。委員の皆様には、この取組が計画策定の良い材料となりますよう、御意見をいただければと思います。どうぞよろしく

	お願いいたします。簡単でございますが、会議冒頭のあいさつに代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
3 議事 事務局（瓜阪）	続きまして、次第の3 議事に進みます。 議事の進行につきましては、つくば市生涯学習審議会条例第6条第2項に「会長は会議の議長となる」と定められていますので、武田会長に議事を進めていただきます。 なお、本日の出席委員は14名で、委員の過半数が出席しておりますことを申し上げます。また、本会議はつくば市附属機関の会議及び懇談会等の公開に関する条例に基づき公開いたします。 それでは武田会長お願いいたします。 （1）令和6年度第1回審議会のまとめと計画の構成イメージについて
武田会長	会長の武田です。それでは早速議事に入りたいと思います。 議事3 （1）令和6年度第1回審議会のまとめと計画の構成イメージについて、事務局の方から御説明お願いいたします。
事務局（渡辺）	<事務局説明>
武田会長	ありがとうございました。それではただ今の件につきまして意見、質問等ございますでしょうか。
長橋委員	つくば市PTA連絡協議会の長橋と申します。子どもの生涯学習の範囲について学校教育は原則含まずとありますが、学校現場では部活動の地域移行が進んでおりまして、さらにここにも出てきているコミュニティ・スクールも進んでいるところで、学校の中での部活動や、体験をしたことを、そのまま大人になっても続けていって

	生涯学習になっているという人もかなりいるのではないかと思います。また、大人になって、スポーツや芸術文化など色々と活動している方が、学校の子ども達に教えたいという思いもやはりあるのかなと思います。そういった中で、部活動の地域移行を利用して、学校の子ども達とつながるということが、今後子どもの生涯学習を育てる上で重要となってくるかと思うのですけれども、その部活動の地域移行に関して何かアクションであるとかそういったものを起こしている、もしくはこれからやるという予定はございますでしょうか。
事務局（渡辺）	部活動の地域移行については生涯学習推進課で地域移行に関する事務そのものを所管していないので、現状や今後のロードマップを今詳細に説明することは難しいのですが、地域移行を進めるといわれる学校教育、学校現場そのものから地域に部活動というものが出ていく、学校と地域の円が部活動の面で重なっていくものだと思いますので、この審議会の意見交換の中で、テーマとしてこういったものは生涯学習の一環の施策として考えていく、より良いものになるように議論していきたい、という意見があれば、庁内で連携しながら、第4次計画の策定において1つのトピックとして考えていくことは可能ではないかと思います。
田中（秀）委員	継続した議論ということで、前回の審議会の最後に申し上げましたが、後輩の様子を見ていて、やはり定年後の人がどうやって社会に復帰していくか、それをどう捉えるかというところで、資料1の5ページに「誰一人取り残さない生涯学習」という記載がありますので、「参加への障壁をなくす取組」という形で、計画の中に急に入れることは難しいのですけれども、今まであまり注目していなかった年齢層の生涯教育への参加というところに少し力を入れるよ

事務局（渡辺）	う、再度頭の中に入れて進めていってもらいたいと思います。 ありがとうございます。まず意識して進めると発言をさせていただいた上で、資料3のワークショップのところにも出てきますが、前回会議や経年で田中委員からおっしゃっていただいている思いである、リタイア後の高齢者、特に男性を意識した生涯学習に関する施策の部分について、今年度からワークショップの中で高齢者の生涯学習をどう考えるかというところをテーマとして設けるなど、取り組み始めておりますので、こういったものも踏まえるとともに、審議会の中でも継続して皆様に審議いただきながら計画の全体像と細かい部分を決めていきたいと思っています。
石塚委員	シルバークラブの石塚です。田中委員と少し関連するかもしれませんが、シルバークラブですので高齢者関係の団体となります。 資料に「つながり」の重要性ということで、場に出向き、多様な人との関わりを持ってつながる、というふうなことが書いてありますが、まず、つながる前提としての場を見ると、例えば、高齢者がその場に集まる場合、一般的に地区公民館あるいは地域交流センター、または各地区の運動公園や一般的な公園だと思います。私もシルバークラブの会長としてあちこちの公民館に行きますけれども、古い建物が多いものですから、入るのに階段がある公民館が多いです。例えば地域交流センターですと、2階で色々やっていて、私は俳句の会に所属していますが、会では私よりも年配の人が多く、上手になってきてこれからだという人が2階に上がれず退会していきます。そういったこともあるので、誰一人取り残さないではなく、現在は取り残されているような感じのところが多いです。また、運動公園の管理の話なのでこの審議会で議論すべきこととは関係

	がないかもしれませんが、運動公園で、私達はグランドゴルフをやっているのですけれども、芝の管理が非常に悪いものですから、去年あたりは60～70台ぐらいのスコアで優勝や入賞していたものが、先月は90～100台と余計に打っています。余計に運動できると言えばそれまでですが、やはり面白みが全くなくなっています。そういうことで、つながりを持つ場の前段階をしっかりとしたいと思っています。
武田会長	そういったハード面についてはいかがでしょうか。
事務局（渡辺）	御意見ありがとうございます。居場所づくりというのは、前回も青少年という切り口で中嶋委員から御意見いただいたところで、大事なポイントであろうと考えております。 ただし、ハードの管理やバリアフリーに関することなどは、庁内でも他に施設の長寿命化の計画や、福祉系の計画がありますので、整合性をきちんと見ながら第4次計画でも定めていきながら、各回の審議の場で出てきた意見等についてはもちろん関係各課に情報共有を行うなど、そういった手元で出来ることはやりながら考えていきたいと思っています。
武田会長	そうすると、この第4次計画の議論の中にそういったハード的なところも含めて話し合いを持っても良いという形ですか。
事務局（渡辺）	この計画の中に、他の計画と同様のことが書いてあるよりは、きちんと市全体の計画での考え方と照らし合わせ、これは別の計画で議論するから大丈夫ですよ、といった部分もどうしても出てきてしまうのではないかと思います。第3次計画では、同じことが本計画と他計画で並び、その中で指標は違うように設定されており、同じことを少しだけ説明を変えながら計画が進行しているところもあるので、そこはよく精査をして今回の計画を策定していけたら

福井委員	良いと担当者として考えています。 少しずれるかもしれません。前から少し気になっていたのは、いわゆる「つながり」であるとか、社会的弱者という観点からみると、子ども、高齢者、障害者、若者・働き世代はよくわかるのですが、大きな概念として抜けているのが、子育て中のお母さん達のフォローというか、生涯学習という観点で、それも非常に重要なテーマではないかと個人的にずっと思っています。社会といった観点から捉えるとリハビリというところで、社会とのつながりについてすごく不安を感じているといったことを経験的によく聞くので、子育て支援の部署のウエイトが高いかもしれないですが、生涯学習という観点から何かそういうフォローやアプローチが出来ないかなということを少し素朴に思ったところです。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。確かに第3次計画を見ると、子育て世代の方々に関する施策として位置づけているものはあまりないのですが、まさに第4次の計画の中で重要視していくべきトピックとして位置づけることも、今後、議論の流れの中ではあるかと思います。実際、生涯学習推進課でも子育て世代に携わるような社会教育的な事業などもありますので、そういったところと、あとは勿論つくば市にもこども部というところがあって、そこでも計画を持って様々な事業を展開していますので、そことの調整や兼ね合い、あとはどういったものを位置づけていくかというところを議論していくことが出来るのではないかと思います。
鈴木委員	鈴木です。市民ワークショップについてですが、こちらは基本的に大人向けのワークショップの内容になっているかと思います。今回子どもにもアンケートを取りますので、例えば子ども向けのワークショップのような形があっても良いかなと思いました。つ

事務局（渡辺）	くば市報の何月号か忘れましたが、並木小の6年生を対象にテーマを設けた討論について、確か取り上げていた記事があったと思います。小学校だけではなく、中学校や高校でも良いと思いますが、色々な学校や地域がバラバラなところで、子ども達は今一体どういったことを求めているのかとか、そういったワークショップみたいな形もあっても良いのかなと感じました。 御意見ありがとうございます。この後の議事の中でも出てくるところではありますが、回数については、出来れば3回とっております。おっしゃっていただいたところの趣旨は受け止めております。ただし、今回実施する児童生徒向けのアンケートの結果もありますし、例えば今まさにトピックとして出てきているコミュニティ・スクールなどの観点で市内の様々な取組として、既に子ども達と地域、学校で話し合われていることもあるので、そういう情報を集めてみるとか、そういったところを意識して子どもの生涯学習をどう考えていくか、ということを皆様に情報提供させていただきながら、検討させていただきたいと思います。
黒崎委員	市民委員の黒崎です。質問というより提案なのですが、5ページの計画の構成イメージをみると、第4次つくば市生涯学習推進基本計画では、現行の第3次を踏襲し発展させたものになってくるかと思います。発展として、第3次になかったもので表彰制度みたいなものが加わると良いのではないかと思います。生涯学習をやっている中で、自分の能力を高め、同じ生涯学習をしている人達がつながり、社会力を持った人材が育成されていく。その中で優れた成果とか成績を上げた市民を表彰するような制度があるとすごく刺激になるのではないかなと思っています。現在つくば市にはSDGsアワードというのがあって、SDGsに関するプロジェクトに携わ

	る個人やグループを表彰するという制度があります。2022 年から始まっていたかと思いますが、去年は私も参加させていただきました。これのすごく良いところは入賞しなかったすべてのプロジェクトを閲覧することが出来るのですね。なので、これを見させていただくと僕自身も刺激になって、また来年頑張ろうという気持ちになってくるので、生涯学習アワードではないですが、何かそういう表彰制度があると、ますます生涯学習のマインドが伝播していくのではないかなと期待しているところです。以上です。
事務局（渡辺）	現計画の中にもあります通り、やはり地域で学び続けるためには大事なことは、という観点があると思いますので、参考にさせていただきます。勿論こういう個別の話を、今後審議会の中でも議論していくことになると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
後藤委員	3 ページの上から 6 行目のワークショップにおいてのところ、「障害者については各ステージに内包し実施予定」というものを具体的に教えていただきたいです。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。詳細は議事の 3 つ目、資料 3 で御説明をさせていただこうと思いますが、予定している全 3 回のワークショップの中で、第 3 回目がまさに前回の審議会で皆様に御意見をいただいた個別のテーマに取り組んでいこうと考えております。障害者については特出しでテーマを設けるというよりは、子どもや青少年、働き盛り世代、そこに先ほど出た子育て世代と言うのも入ってくるかと思いますが、さらに高齢者というライフステージの中で、それぞれ障害者が子どもの頃、大人になって、高齢者になってという目線で生涯学習としてこういうことが欲しいのではないかと、いうことを議論出来るような設定でワークショップをやっていき

後藤委員	いという意味合いで内包という言葉を使わせていただいております。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。お送りいただいた資料の令和6年度の計画一覧表については次第にはありませんが、本日は議事として無いのでしょうか。
事務局（渡辺）	今回の議事では予定はしておりませんので、終わった後よろしければ個別にお話を聞かせていただければと思います。
後藤委員	はい。わかりました。障害者のライフステージとおっしゃられましたが、障害者といっても種別がいっぱいあります。知的障害者と精神障害者、身体障害者、あと聾者と盲者がよく一緒にされるのですけれども、聾者と盲者は全然違います。この障害別の支援の仕方も全く異なるので、その辺を考えてワークショップを開いていただけるのかなというのが少し心配だったのと、あと現在の第3次計画の中の障害者が関わる事務事業全体を見ても全部の障害者のことを網羅していないような計画になっているので、その辺は個別で御相談させていただきたいと思います。
中嶋委員	中嶋です。今日の資料、特に第1回審議のまとめの2～3ページを見せてもらいましたが、さすが事務局、あれだけ皆が色々言ったものを項目別にしっかりまとめられるものだなと、なるほどこうだったのだな、ということがよくわかって、このまとめの素晴らしさに感心しました。それが一点目です。 私もこの審議会に出ていますが、前回も発言したように、最後のところのつながりや広がりを作っていくのが生涯学習のねらいであるということが、前回の会議の中でわかりまして、今までは生涯学習という言葉だけで、そういうところまで意識していなかったものですから、そういうものが大事だということがわかりましたの

事務局（渡辺）	で、少し考え方を変えながら見ていかなくては、と思っているところ。なので、そこで一つ思うことは、そのつながり、広がりというところが生涯学習の一つの終着点なのだと思いますが、そうすると、生涯学習はイコール地域コミュニティなのかなという繋がりが自分の頭の中でしています。ただ、頭の中では何か上手く生涯学習と繋がっていかないというか、別の内容ではないのですが、そんなことを少し思っています。その辺り、最後はどういうふうにまとめて第4次計画を作っていくのか、ということを今思っているところでございます。そのためのアプローチとしては、何人の方から出たように、やはり3ページにある個別テーマや分野からのアプローチ、ここには青少年の学びの場所、障害者、高齢者の文化教育と3つ書いていただきましたが、その他、先ほどの退職後の地域への受け込みをどうしていったら良いかというのは大きな内容で、母親のことも、中学校部活動の地域移行の問題もそうです。そういう内容別にもう少し、学びとしてはこういう内容がある、場所がある、方法があるとか、というような内容を入れていかないと、最後のゴールだけですと形がわからないというか実がないと言ったら少しおかしいですが、そういうものになってきて、皆が理想郷にたどり着くかというとなかなかそうではないので、もう少し具体的に内容別、分野別に、こういうものを入れていこう、場所を整えていこう、方法を考えて行こうと審議していくのが良いのではないかなという意見でございます。以上です。 御意見ありがとうございます。生涯学習が地域コミュニティと同じではないかというお話をいただいた中で、重なる部分があると思います。生涯学習を進めていくことで地域コミュニティが元気になる、新しいコミュニティが生まれるというような流れがあると思っ
---------	---

溝上委員	ています。ただし、コミュニティを作ることそのものを目的とせず、コミュニティはあくまでも生涯学習を発展させていくための一つのツールと言いますか、やってきた結果生まれてくるものだと思うので、そういったことを意識しながら最終的には自分が学ぶ、周りが学ぶということに関して、言葉が上手くまとまりませんが、何かポジティブなものを示していけるようにしたいと思っております。 具体的に分野別というお話については、この後の議論の中でも少し具体論を市民の皆様と、あとは生涯学習審議会委員の皆様にも参加いただきながらワークショップを開催したいと思っています。今年度からワークショップの場で個別の議論をしながら、前回お示しさせていただいた、いわゆる策定フローの中にあります通り、来年度の1回目、なるべく早い段階から、まずは大きい理念、方向性を固めた上で個別をどうしようというところをしっかりと審議会で議論していただけるよう今後進めていきたいと思っております。 一つ一つは今皆様方に貴重な御意見として、色々おっしゃっていただいた通りだと思いますが、今回つくば市の生涯学習審議会で議論するにあたり二つ方法があると思います。大きな枠をここで決めて、その大きな枠というか理念を各課・各部におろして、その枠の中で様々な事業分野に関する次期計画の施策を考える際に、この観点から考えてねというやり方と、他方は個別に色々積み上げてつくば市の生涯学習はこう目指すのだというやり方があると思います。私は、今回つくば市は大きな傘を作って、個別の部や課の施策を作る際にはこの方針でちゃんと具体的な施策を作ってねというための議論を今していると思っているのですが、そこが共有できていないと、私も含めて、皆さんやはり個別の施策に興味が行きがちですので、その辺りは一度確認させていただいてよろしいでしょう
------	--

武田会長 事務局（澤頭）	か。 事務局からいかがですか。 生涯学習推進課長の澤頭です。溝上委員ありがとうございます。 確かにこの審議会を進めていく上で、最初にどういった方向で論点を始めるかというのは非常に大事だと思いますので、一旦ここで整理をさせていただきたいと思います。 当課といたしましては、溝上委員におっしゃっていただきましたように、大きな枠組みをまず決めさせていただきまして、それに基づいて各課へ、例えば障害者の計画、市民部の交流センターの計画ですとか、そういった個別計画は担当課に任せるといった方向で進めさせていただけたらと思います。ですので、この審議会では大枠を決めるにあたっての御意見を頂戴できればと思っておりますので、遅くなりましたが、ここで申し伝えたいと思います。よろしくお願いいたします。
武田会長	重複するところもありますので、続いて議事(2)市民アンケート等の実施について、事務局の方から御説明お願いいたします。
事務局（渡辺）	（２）市民アンケート等の実施について ＜事務局説明＞
武田会長 田中（秀）委員	ありがとうございました。意見や質問等ございますでしょうか。 アンケート調査自体は詳細になって、わかりやすくなっているのですがけれども、アンケートの結果から、具体的な姿が出てきにくいのではないかというふうに思います。生涯教育という部分で、各年齢の人達が何を要求して、どう参加していくか、という姿です。人数を集めて、こういった形で色々な人から意見を聞くのだけれど

石川委員	も、まとめると、どういう結果として、それが今後どういうふう に生かしていくかという姿が出てきにくいと思います。 例えば、最後のあたりに、全員の答えだけではなくて、先程の、 主婦の方の年齢層の意見ですとか、それから定年に近い人、あるい は定年後の人達が何を問題にして、どういうふうな解決を期待して いるのかというものを、もう一枚ペーパーをつけていただく。年齢 層、あるいは性別の項目を作って、今どの位でどういうふうに、ど の年齢でどこに所属するかっていうことを明らかにしてもらうな ど、もう少し対象を絞り、結果がわかって、それをどういうふうに 反映させていくかという形にしたらよいと考えます。18 歳以上の人 を集めて、それを取って出てきた結果が、どういうふうにまとめら れるかっていうと、具体的な姿として出てこないのではないかとい うふうに思うのです。そこで、具体的に、今までのアンケートの中 であったことや、なかったこと、あるいは自分が本当に今困ってい ること、どう参加したいのかっていうことを各年齢の人達が、何を 本当に社会に要求しているのか、市に要求しているのかっていうこ とがわかるような形にさせていただく。ただ、通り一遍のアンケート にならないような工夫が必要になるのではないかと思います。以上 です。 関連して、1 回目からそうなのですけれども、先程から色々話を 伺って、話されていることはよく理解しているつもりなのですけれ ども、さて何をピンポイントで言っていったら良いのだろう、何を 提案するのが良いのだろうと本当に考えました。 こういうアンケートもこういうふうに出ています。ですが、私も 地元で近所の人達に会えないから、なんて始まった活動なものです から、このアンケートを見たときに、実態のことをちゃんとわかっ
------	--

事務局（渡辺）	てくれているのかしらと思いました。何がやりたいのか、それで、今後どんなふうに、こういう自分で学びたいことを続けていきたいのかというのが、実態として、中心の方と周辺の方と、それぞれ何か少しずれているような気がするのですね。ワークショップのこともありましたけれども、私が活動しているところでは縁遠いなと思いました。自分の心をさらけ出しながら、まずそこの一歩ができないなと。もっともっと地元のことをよくわかった上で、求めているものは何だろうかというところを探って、色々地域には役をお持ちの方が沢山いますよね。区長さん、民生委員の方とか。そういう方も手伝ってもらいながら、もっと具体的、自分の心にすぐ響くような、そういうものも必要ではないかなと非常に思います。 ちょっと取り留めないのですけれども、何かこう漠然とした雲に覆われているところで話をしているような感じがして、何かこう歯がゆいのは私だけかなと思いながらずっとうかがっていました。是非もっと声が通るようなアンケートを望みたいと思います。 ありがとうございます。御意見について参考にさせていただきます。アンケートとは何のために実施するのかというところになってくるのですが、基本的には統計になります。全体として、市の生涯学習がどうであるか、年齢、地区というところで整理をして、最終的には統計の結果として、皆様に基本的に数値的な部分をお示しして、その数字も踏まえ、皆様に議論をしていただく、ある意味材料になるといいですか、計画を策定するための基礎・地盤として考えてやっていきたいと思います。すごく極端な例を言いますと、この会議の場ですごく子どもが大事だと言っているけれども、アンケートで聞いてみたら、いやそうではなくて高齢者の方がもっと大事でしょうというのがものすごく高く出たら、それで良いのかと思うき
---------	--

長橋委員	っかけにもなる、そういった考えるにあたっての地盤としてのアンケートであるというところは前提としてあります。 今回、ワークショップというものを計画策定のために位置づけたのはまさに田中委員や石川委員におっしゃっていただいたところに少しアプローチしたいと思って入れている取組でありまして、逆にワークショップは個別の思いなど、アンケートでは取れない声を取りにいきたいというところなので、そこは若干役割分担をしていると思っていただければと思います。ただし、田中委員からおっしゃっていただいたような、例えば最後に何となくつくば市の生涯学習について思うことは何ですかと書いてある部分を少し補強させていただいて、このアンケートでも2ページ目に自身の属性をなるべく書いてもらう設計にしていますので、例えばその御自身の属性に基づいて、生涯学習としてどういうことで困っているかとか、どういうことを思っているかというふうに聞いていくような、書き方、表現の仕方は検討できるかもしれないと思いましたので、御意見を参考にブラッシュアップさせていただきたいと思います。 ぜひ石川委員にはこの後のワークショップの部分、当日現場においていただき、御意見をいただければと思います。あとは、予定としてワークショップの先に、今年度の最後か来年度の初めに行おうと思っている部分で、霧が晴れるように頑張らせていただきます。個別の部分についてお話をしていただけるように準備をしていきたいと思っています。 関連して、私もこの資料をいただいたときに、このアンケートが何の役に立つのだろうと少し感じまして。第3次計画の時にもこのアンケートをとっているということですので、それが3次計画にどのように取り入れられたのかということをお伺いしたいです。多
------	--

事務局（渡辺）	分それがわかると、今回のアンケートもこういった形で活用されるかがわかるのかなと思ったのですが、もしお答えいただけるようであればお願いします。 5年前、実際の計画を作った場にはいなかったのですが、前回の結果を見ながらというところになるのですが、具体的にこの施策の柱にこれが生かされる、という所までは出来てなくて、アンケートの統計として見てみると、例えば前回は「社会力について大事だと思いますか」ということを聞かせていただき、比較的そういったことは必要だと思う、良いと思うといった割合を踏まえ、施策の方向性に社会力を位置づけていこうかというようなことですか、あとは市に力を入れて欲しいことを見てみると、学習や文化、趣味、スポーツ、いわゆる情報を市民に知らせていくことが大事だとおっしゃっていただいている数字があるのですけれども、今回の施策の柱、方向性の中で情報発信の事業というのが比較的多く位置づけられていますので、類推するにそういったところから参考にしたのであろうと思います。まさにこういう数字の部分から、施策の具体的な言葉にしていく時に何を選んでいこうとか、そういったところに参考にさせていただくものになるかと思っています。あまり具体的でなく恐縮なのですが、今後の議論をするにあたり、そういう考え方やワーディングで良いのかというところに、なるべく自信を持って話ができる根拠となるようなアンケートにしたいというふうに思っています。
田中（依）委員	先程このアンケートは統計とおっしゃられたことと、ワークショップの方向性、意味合いの違いも聞かせていただいたのですけれども、アンケートを見ていて、今の時代は学びと言っても本当に多様性だと思いました。私もつくば市に来て 20 数年経ちましたが、生

	涯学習ということでは、色々と今までも取り組んでこられたことがあって、先日も「ゆくり」というものに興味があったので、人間学講座に参加させていただきました。すごく参考になりましたし、また、実際に私達のようにフォローしていく側の世代と子育て中だった中の、本当に悩みに直面されている方など色々な年代の方が来られておりました。本当に入口が入りやすいというか、そういうものもあったので、人間学講座や春と秋の交流センターでの講座とか、つくば市として色々と取り組んできたことについて、新しく引っ越して来られた方など色々な方に対し、どこまで知っていて、どこまでそれが活用できているだとか、今までにあったものに対しての活用の仕方とか、勿論全体のこともですけど、そういう観点が少し入っても良いのではないかなと思いました。また、私自身もこの間学ばせてもらって、実際何人かの方には情報発信をさせてもらったりもしました。
事務局（渡辺）	御意見ありがとうございます。まさにこの1年間のあなたの学びについて伺いますというような部分がございます。生涯学習という概念が非常に広いので、市の行った講座など、そういったものを全て羅列することはなかなか難しいと思うのですが、市の生涯学習に関する事業の認知度・利用度など、そういったことを少し意識して、御意見として承り、ブラッシュアップしたいと思います。
小森谷委員	今皆さんの意見をお伺いして、例えば、アンケートはアンケートで取るとして、田中委員がおっしゃったような属性や性別を含めた困りごと感、課題感を抽出するためには、アンケートを取った後の情報提供、例えば層別に20代、30代の子育て中の方がどんなことを要望しているかみたいなのところを、結果として私達が見れて、そこまできちんと分析してくれば良いのかなと思いました。一応最

	後に自由に御意見くださいという欄があつて、これでは多分少ないだろうから、少し強化しますというお答えもありましたけれども、そこはもっと書きやすいように変えていただければ、少しは結果として私達が受け取れるところもあるのかなというふうに思います。改めて属性のところを見てみたのですけれども、これでは子育て中であるとか定年退職しているといったことがわからないのですよね。ただ、これは第1次計画からずっとこの項目で取っているという継続性で見ると、なかなかいじれない項目になってしまうのでしょうか。例えば、(3)あなたの職業というところで、子育て中の主婦の方がどこに入るのかなと考えた時に、5番の専業主婦(主夫)ではないですよね。そうすると、会社員かパートタイマーかもしれないけども、そこに子育てというところがない。まずは、ここを変更できるのか確認をしたいのですけれども、いかがでしょうか。
事務局(渡辺)	ありがとうございます。検討させていただきます。私個人からすると、出来ることだろうとは思っております。最近、性別についてもそういう聞き方になってきておりますが、勿論答えない人は答えなくて良い。追加することで、過去との経年が出来なくなるということではないです。例えば、属性の項目を変えてしまうのではなく、追加で聞いてみるといったアプローチは出来るのではないかと思いますので、小森谷委員に最初におっしゃっていただいた層別で、いわゆるクロス分析と言われるようなものをかけたときに、今日いただいた御意見に対して、少し説明ができるようなやり方を考えてみたいと思います。
小森谷委員	出来るのであればお願いします。その他に組み込むのかはわからないのですけれども、子育て中の主婦であるとか、定年退職した人がただの高齢者ではないというところをどう拾うのか、今アイディ

事務局（渡辺）	アはありませんが、少しその辺を拾えるような形にして、層別に分析できれば、ニーズが拾いやすくなるのかなというふうに思いました。 少し気になったのが、やはり性別で、3番の無回答というところがこういう表現で良いのかなというのも思っておりまして。無回答というのが最近は一般的なのでしょうか。 ありがとうございます。性別については、つくば市のダイバーシティ推進室等が推奨しているやり方がありますので、よく確認させていただきたいと思います。私の記憶では、答えたくないという意思表示を取るだとか。基本的な考え方がありますので、確認させていただきます。
鈴木委員	逆質問になってしまい恐縮ですが、子育て中というを確認するのにどういう聞き方が良いのでしょうか。何歳から何歳までの子どもがいるなどままと一んの鈴木委員もいらっしゃるので、聞いてみたいというところでございます。 子育て中でも、何歳から何歳までのお子さんを育てているという定義みたいなものが注釈であったりすると、わかりやすいと思います。大学生は子育て中なのかとか、それとも高校を卒業して大学に行かずに就職したらもうそこは違うのかとか、青年、成人のところで区切りをつけるのかとか、色々パターンはあるとは思いますが、それでも。それか、お子さんがいる方はお子さんの年齢を答えてもらうとかはどうでしょうか。
福井委員	少し細かいのですが、御参考までに聞いていただければと思います。先ほど、大枠の中で考えていくということであるとか、それを受けられてというふうに言われた時に、自分なりの解釈なのですが、つくば市で生涯学習が向かっていくというところ

	で、大きなものは、書いてある通りウェルビーイングではないのかなと思います。その中で、アンケートでウェルビーイングを付け加えられたというのは本当に素晴らしいなというふうに思います。当然と言われれば当然かもしれないですけども。確かに、自分達のリハビリの方でもこれは非常に重視されているのですが、その中で自分達もアンケートを取った時に、やはり勘違いされるのですよね。御存じかと思うのですけれども、ウェルビーイングは、お名前は忘れたのですが、慶應義塾大学の先生が提唱されたところで、夏の暑い時に帰ってきて風呂上がり一杯飲む、それは先生がおっしゃるにはウェルビーイングではない、それはハピネスで一時的な満足ということです。先生がおっしゃるウェルビーイングっていうのは、先ほど資料1で書かれている通り、連続性、継続性を持ったというふうなところが、ウェルビーイングの本当の定義ということです。 それを踏まえて、細かいのですけれども、アンケートの7ページですが、これはウェルビーイングの通りなのですね。確かに先生も、一つのウェルビーイングを支える要因として、自己実現と他者貢献というのを一つのキーワードと挙げられていて、1番、2番、3番でこれを網羅されていると思います。ただ、1番、2番は良いのですが、3番ですね。「近所づきあいなど、人や地域と関わることに」というところですが、「関わること」に幸せを感じますかというところの表現が少し気にはなっていて。関係性というところも、その先生も挙げられていて、関係性のいわゆる広がりであるとか、深さというところが、ウェルビーイングというふうなことです。ですので、関わることでの、深さとか広がりというところに幸せを感じますかっていうふうな表現をするのか、もう一つは、ウェルビーイン
--	---

事務局（渡辺）	グ（幸せ）とは並列で書いてあるのですが、アンケートを取った時もやはり勘違いされますので、他のところで※で色々と注釈を書かれているように、ウェルビーイングの注釈をつけられるのはどうかというところです。以上です。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。実はこのウェルビーイングの間と書いてある点は、今回の説明用に入れていたので、このままでいくとウェルビーイングという言葉が出てこないのですが、そういうところを踏まえて、ウェルビーイング（幸せ）とは、という注釈を入れることであったり、あと今御指摘いただように、3番目が関わることという点でなく、もう少しウェルビーイングの概念に沿った、それが深まっていくこと、広がることに幸せを感じますかといった書き方に変える等であったり、少し検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。
溝上委員	今のウェルビーイングについて、福井委員にお伺いしたいのですが、ウェルビーイングは確かに幸福感ですが、日本語で「知識を得たり技能が磨かれることに幸せを感じますか」と問われると、いや幸せでは……と思ってしまいます。充実感とか、嬉しいと思う、楽しいと思うといった日本語だったら、「はい」、「感じる」って付けると思うのですね。ウェルビーイングについて尋ねる時はこういう「幸せを感じますか」というワーディングなのでしょうか。
福井委員	言われてみれば、おっしゃる通りですね。確かにウェルビーイング、幸福感自体が主観的なところなので、やはり「充実」や「充実感」とか、そういうふうなところなのかなと思ったりもします。
溝上委員	「幸せを感じるか」と言うと、多分感じない、というほうに答えがぶれて寄ってしまう可能性があると思うので、今回回答は結構ですけれども、事務局でワーディングを検討していただきたいと思い

事務局（渡辺）	ます。 ありがとうございます。検討させていただきます。非常に勉強になりました。
田中（秀）委員	アンケートはあまりやったことはないのだけれども、やらされた側から見ると、やはり一方的に相手の意見を聞いて、一方的に自分は思うかっていうことに対して、人間というのは、自分はこう思うということがいつもあるのですよね。 おそらく、アンケートをつけていくと、くたびれてしまうと思うのですが、アンケートを書いた後に、ところで自分は何なのだろうかという、こういう具体的なことではないけど、こういう不安を持っているとか、自分はこういうことなのだと色々書いたけども、結局、自分が今何をしたいのかというような、簡単なそういうような一つのまとめを、能動的に書きたくなるのですよ。アンケートは受動的ですから。何度もくどいようですけれども、それを、最後のところではけ口として、色々な御意見ありませんかというところに、より具体的な性別、年齢など、そういう形で大まかなこういう人達の枠を設けて、そこのところで、何か言いたいことを能動的に書ければ良いと思います。アンケートは聞かれるだけで、案外面白くないのですよね。やらせるという感じで。だから受動的になっているところで、最後に具体的に性別だとか年齢層だとか分けて聞く。統計的というのは具体的なようだけれども、何だかわからないものなのですよね。ですので、具体的なものがイメージされた時に、今度は、市の職員がどう行動したらそれに応えられるかという、そういうような問題を問いかねられないと、失礼だけれども、結果的に通り一遍のアンケートとそれに対する対応しか出来ないと思います。ですので、書いた人が、後でどこかでところでこれは何を書いたのだろ

	うか、何を言われたのか、自分は何をやりたいのかというようなこと の意見がより具体的に書けるよう、枠を増やしてもらっただけでも 違うのかなと思います。私はアンケートの専門家ではなく、バイオ テクノロジーの専門家ですから、統計のことはわかりませんが、い ずれにしても、自分が受動的にアンケートを書く、という形はいつ も面白くないですね。だからその時に、能動的に自分はこうしたい のだっていうようなものの、チャンスを手よく与えて欲しいというこ とです。以上です。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。先ほどの回答と同じようになってしま うのですが、最後の部分で、少し具体的に自分の置かれている、最 初の2ページ目に属性を書いていただくので、そこも踏まえて、こ こまで答えてきてどうだったかというようなことを含めて色々と書 いていただけるように検討します。枚数の都合等もあるので、よく 考えたいとは思いますが、10 ページではないと駄目というわけでは なく、一枚紙が増えてもそこは対応できるかと思います。
溝上委員	溝上です。アンケート調査をかじった人間として申し上げさせて いただきますと、この種のアンケートは大体 15 分から 20 分以内 に回答できないと、回収率が低くなるので通常はA 3 にすると、6 ペ ージから 8 ページどまりと言われているのです。今、既に最初の 表紙を抜いても 9 ページまで行っているのです、これ以上増えると多 分恐ろしく回収率が低くなる可能性がありますので、そこら辺は十 分検討していただければと思います。勿論自由回答の欄ですと、そ れを書きたい人は書けば良い話ですから、そこが多くなっても全体 に影響することは少ないとは思いますが、というのが一点目です。 もうあと二つぐらいあるのですけれども、つくば市さんの味方を するわけではございませんが、アンケート調査をとって生涯学習の

	計画を立てるというのは、日本の自治体でも珍しいところなのですね。大体はこういう審議会での議論をまとめて発表してしまうのですけれども、つくば市は計画を立てる時に必ず市民アンケートをとって、結果を計画にも掲載し、次の計画にもいかしているというところが特徴的なので、アンケートの項目とか選択肢は今後検討の余地がありますが、ぜひ経年的に変化している部分を追っかけながら、つくば市の特徴としてアンケートはやっていただきたい、というのが二点目です。 三点目は、細かいところでいくつかあります。まず3ページ目、指標の間1、「時間がない」という答えがあった人に、さらに深掘りする、とても良い設定になっているとは思いますが、その選択肢について、大体時間がないという人は、時間の都合と場所の都合と方法の都合を選択肢として立てなければいけないのに、選択肢の3番で子育てに必要な学習内容、4番目に仕事に必要な学習内容とあるので、「いや内容でなく時間がないと言っているでしょう」、と言いたくなります。内容に関する選択肢が先に来るのはおよそ意味がないと思いますので、時間の都合、場所の都合それから方法みたいなところの選択肢が最初に来ないと、意味がない深掘りになるのではないかなと私は思います。 続いて、4ページ目の間の1－3、つくば市は公民館を全部地域交流センターに変えているはずですが、いかがでしょうか。元々いらっしゃる方、皆さんは、地域交流センターは公民館のことだとすぐわかるのでしょうか。中には、公民館と意識されている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。といった時には、地域交流センター（公民館を含む）みたいな、もう少し丁寧なワーディングにしてあげることが、必要なのではないかと思います。問4－3にも同じ
--	--

小森谷委員	言葉が出てきますので御検討いただければと思います。 あと最後に、基本的に言いたいことはぜひワークショップに出て言ってください、ということがわかるようなコメントをどこかに少し、最後でも構いませんけども入れてはいかがですか。アンケートで言いにくいことがあったら、ぜひワークショップに参加してくださいというふうな、アンケートとワークショップの２段構えになっていることがわかるような文言を付け加えていただけるとよろしいのではないかなと思いました。以上です。 ７ページのコミュニティ・スクールは今回新しく追加した項目という理解で良いですか。であるならば、やはりもう少し考えたいのですけれども、７番でその言葉を知っていますか、ということをお願いしますね。コミュニティ・スクールはこういうものですよっていう説明をした後に、追加の８番で、参加したいと思いますかといったことを聞きますね。ここで、参加したいが難しいとかあるのですけれども、コミュニティ・スクールの委員というのは参加したい人が参加できるわけではなく、学校で委員に指名されなくては出来ないものなので、そういうことを聞くよりも、コミュニティ・スクールがどうやったら上手くいくのかといった、各学校、地域ごとに悩みは別にあって、それぞれ特色があると思いますので、一律に言えず、全市的に当てはまらないこともあるかもしれないけれども、コミュニティ・スクールがどうやったら、もっと地域に開かれた学校づくりへ、その地域の住民が学校に入って、子ども達と一緒に活動する、学ぶ場を提供するっていう場を作っていけるのかとか、そういう問いにした方が良いのではないかなと思うのが一点と、あと追加の８で、１、２、３、６を選んだ方は、ページ９の問９へお進みくださいと、社会力の話に繋げてしまっているのも謎でして、まず、ここ
-------	---

事務局（渡辺）	をつなげた意味からお伺いして良いですか。 ありがとうございます。まず後の方の御意見ですけれども、これは基本的に表現が良くなかったなと反省しておりますが、全員問9に進んでもらいます。よく見ると、4・5は上の段を答えて、そうでない人は次に進んでくださいと小難しく書いてあるので、そこは修正いたします。改めて見ると、確かに、だからこそという感じがするなと思ったので、そこは工夫の範疇かと思います。 コミュニティ・スクールについては、もう少し、コミュニティ・スクールの現状や市民の意識に対して聞きたいことが、どういったことがあるかというところで少し検討をしたいと思います。配布時期も踏まえると、一度皆様に御相談してというのは出来ないのですが、なるべく組み入れるようにしたいと思います。逆に、一つ良い指摘をいただいたなと思ったのが、コミュニティ・スクールの委員ではないと地域学校協働活動ができないかという、そうではなく、委員の人は旗振り役、中心になってやる人で、そうでない一般の方もできます。私も小学生の子どもの父ですけれども、学校のいわゆる年2回ぐらいある校内美化活動みたいなものも、地域と学校が一緒になっている、ある意味で地域学校協働活動だと思っていますので、そこがこのアンケートの作りのストーリーとして誤認されやすそうだなというのを受け取りました。
小森谷委員	そうですね、誤認していました。
事務局（渡辺）	申し訳ございません。そこは少しわかりやすくないか、ということを考えてみたいと思います。ありがとうございます。
武田会長	ありがとうございました。時間も差し迫ってきていますので、もう一つ、市民ワークショップに進ませていただければと思います。最後まとめてまた時間を取りますので、議題（3）市民参加（市民

	ワークショップ) の実施について、説明をお願いいたします。
事務局（渡辺）	（３）市民参加（市民ワークショップ）の実施について <事務局説明>
武田会長	はい。ありがとうございました。それでは、御質問、御意見等ございましたらよろしくをお願いいたします。
小森谷委員	人数についてですけれども、20 名前後、全部通しで全 3 回出て欲しいということなのですが、ここの委員だけでも 16 人いるので、なるべく参加出来る方は参加した方が良いと思うのですが、そう考えると 20 人は少くないかというところがあります。20 人というのは何か限界なのでしょうか。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。経営陣の人数等々からというところもあります。ぜひ委員の皆様には、毎回全員出ていただければ嬉しいと思いつつ、100 とかそういった話ではありませんが、なるべく多くの方が参加できるよう考えさせていただきます。
小森谷委員	御検討ください。
溝上委員	既にワークショップ等々に関する御意見をいただいた委員もいらっしゃる中すみませんが、率直に言って、11 月、12 月土曜日 3 時間午前中全部潰されて、ワークショップに出てみたいと思う市民の方がどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。生涯学習を勉強したい、という非常に前向きな人は出ていらっしゃると思いますが、自分の生涯学習を、つくば市に反映して欲しい、意見を言いたいと思う方が、一体どれぐらいいらっしゃるのか。ワークショップではなく、他に市民の意見を聞く会を、計画を立てる時に設けるというのでしたら、私はこのワークショップに反対はしませんが、基本的に

	市民の意見、質的な部分はここで吸い上げようと思うということであれば、例えば障害持っている方が土曜日に、3回も午前中潰されて、おまけに障害に関わる生涯学習ではなく、他のテーマ等々について皆で議論しましょうと言われた時に、一回目は出ても、二回目は良いかというふうになるのではないかと思います。それは私の偏った意見だったら良いのですけれども。むしろ、そういう関係の方と日々接していらっしゃる方が、やっていますっておっしゃるのでしたら今の意見は撤回します。以上です。
鈴木委員	子育て世代になりますが、やはり土曜日は習い事とかがありますので、正直全3回参加するとなると少し厳しいなっていうふうに思っていたところがあります。
事務局（渡辺）	御意見ありがとうございます。
武田会長	もう日程については決まっているものなのでしょうか。
事務局（渡辺）	日程は場所を含めて押さえているというところと、あとは、勿論計画策定の進捗のスピードがあるので、考え直すのであれば、この建て付け自体をもう1回考え直すということなのかというふうには思います。申し訳ありませんが、例えば年明けて1月、2月もこういった個別でやっていきましょう、というところになると正直少し厳しいものがあるかと思います。例えば、考え方としてあるのは、3回をそれぞれ自由参加にして、連続性のあるテーマで議論を深めていくというより、今回こういうことをやりますという形で1回、1回、関係がありそうな方にもお声掛けをしながら、開催するやり方に考えを改めてみるというところかと思っております。
溝上委員	今ここでこうしてくださいというのは、すぐお答え難いと思いますが、一回完結型も想定してプランニングしていただければと思います。以上です。

武田会長	個人的にですが、3回連続は難しくても、例えば2回に圧縮できるかどうか、そういった辺りも改めて御検討いただければというふうに思います。もしかしたら、色々なやり方があるのかなという気がしますがそれでも。
事務局（渡辺）	ありがとうございます。例えば、今日のやり方をなるべくいかすのであれば、例えば前半の2回はこれでやって、最後の1回は個別の話だから自由参加にするなど、難しいところですがけれども、基本的に単発でも良いけど、続けて出たい人は受け入れる、という言い方をするなど、考え方はいくつかあるかと思います。
長橋委員	長橋です。これはどのような形で募集をかけるのでしょうか。市民全体に対して、参加する人いませんか、と声をかけることを想定していच्छゃいますか。
事務局（渡辺）	想定としては、先程溝上先生がおっしゃったような本当に熱心な方もいるだろうというところで、勿論公募をさせていただきます。 ただし、沢山いるかという点については、幅が広いのでとっつきづらいテーマであるというのは自認しているところでもありますので、公募してぜひ出たいという人を拾い上げつつ、20名で足りるのかという話もありましたけれども、さらにプラスで審議会委員の皆様であったり、なるべくユニバーサルといいますか、幅広い属性の方においでいただきたいという観点で、代表としておいでいただいている団体の方にお声掛けをいただいたり、外国人という観点であれば、市に国際交流協会だったり、国際交流のセクションがごございますので、そういったところにお声掛けをしながら、全体としての規模を盛り上げる形にしていきたいなというふうには思っております。
長橋委員	公募も重要だと思うのですがけれども、なかなかこういうところに

田中（依）委員	いきなり来て話そうというのも、勇気が出ないというか、個人ではそういう方もいらっしゃると思うので、ぜひ団体に、意見を挙げてくださいというような形で声掛けしていただいた方が、より人が集まるのではないかなと思いました。以上です。 1回目に社会力レクチャーということで、講義形式で20分聞くということですが、そういうところの意見を言いたいっていうこともあると思いますが、やはりそこに参加することで自分も何かためになると言いますか、こういう何か取っかかりがあるということの魅力というのがあるかと思います。人が来て、本当に学生も含めて色々な年代層の方の御意見がいっぱい聞けるような形が本当は理想だと思いますので、そんなふうを考えていけたらなと思いました。
中嶋委員	私も同じで、やはり3回続きと言うのではなくて、この場、日の設定があるので、1回目の審議会まとめにもある、個別テーマや分野からのアプローチと言うように、1回目は若者、2回目は働いている層、3回目は仕事を終えた層とか、そういう人達を対象にして、今後市で第4次計画を立てるので、参考になる討議をしたいのでお集まりください、と別々に設定した方が良いというふうに考えます。
小森谷委員	せっかくここで議論として、若者はどうか、退職したらどうなのか、子育て中はどうなのかというようなところが話にあがったので、そういうテーマ別の方が参加しやすいかなと思いました。改めてこのテーマを見ると、自身の学びの理想の姿について考えようとか、学びの理想の姿を叶えるために必要となることを考えようみたいなところが、確かに厳しいですね。これで何かをしようと思ってくれる方はなかなかいらっしゃらないと思います。溝上先生がおつ

事務局（渡辺）	しゃったように短い期間に3日間も取られるというのもそうですし、少しテーマの在り方自身を抜本的に考え直すというのは有りなのでしょうか。 11月号の広報掲載を考えており、時間との勝負かなと思っております。そこを意識して今示している材料を、先ほど出たような考え方で上手く組み替えることで、対応はできるのではないかなと御意見を聞いていて思ったところです。例えば、今までは自分のこと、社会のこと、個別とやっていたのを、今回は個別のテーマごとに分けて、それを1回の中で自分のこと、みんなのことというアプローチに変えれば、成り立つのではないかと思いました。本日いただいた御意見を踏まえて検討いたします。
黒崎委員	つくば市で「SDGs TRY」という同じようなワークショップが行われているみたいなのですけれども、頻繁に参加しませんかというメールが来ているのは、もしかして出席者があまりいないのかなと少し思ったりしていました。それも、やはり社会力をつけて、自分の理想の実現力をつけようみたいな、結構熱い、訴求度があるテーマなのですね。僕も参加してみたいなと思ったのですが、やはり連続性があって土曜日が入っているということで、一日参加できない日があると、全体として参加できないかなというふうに感じてしまいました。その「SDGs TRY」というワークショップの申し込み率というのは現在どのくらいあるものなのでしょうか。それがわかれば、この3回というのも見通せるのではないかと思います。
事務局（渡辺）	申し訳ございません。別部署でやっているものですので、確認をさせていただきます。そういう取組があるというのは認識していたのですが、建て付けを含めて、現状を勉強させていただきます。あ

福井委員	りがとうございます。 今回の審議とは関係がございませんが、少し関連して、前回いただいた流れの中で 2025 年度にパブリックコメントをされるとあったと思います。つくば市は知らないのですが、以前兵庫県で審議委員をした時も、やはりパブコメをしたのですが、本当ひどい時は一桁で、本当に素朴な疑問として、これはパブリックコメントになっていないのではないかというふうに毎回思っていました。パブコメってやはり多くても十数件なのですよ。そういうところは非常に疑問としてありますので、やはり時期であるとか、計画案が出てこなければ出来ないと思うのですが、一年ぐらいありますので、出来るだけパブコメが上がりやすいように検討していただくとか、リサーチしていただくなど工夫していただきたいというのが、リクエストです。
事務局（渡辺）	現況含めて勉強しながら、取り組ませていただきます。
鈴木委員	少しずれてしまうかもしれないのですが、今少し時間があるようでしたら、現状コミュニティ・スクールが一体どのような感じで進んでいるのかをお聞きしたいと思います。 小学生の子どもがおりますが、一応今年から学校の方がコミュニティ・スクールになったのですが、実際保護者にはコミュニティ・スクールがどんなものかとか、そういった説明とかが一切ない感じなので、もしつくば市全体で今こういうふうなところまで進んでいるのかというところについて、もし教えていただければお願いします。
事務局（山口）	生涯学習推進課参事の山口と申します。コミュニティ・スクールは令和 4 年度から導入して、順次導入しているところでございますが、保護者への周知などについては、導入をし始めた時に各学校の

	方で、学園単位でこういったことをやっていますというような感じのものをA4一枚程度のものとして、データでホームページに公開してくださいですか、こういったことを話し合ってきましたっていうことを一年間で3回～4回行った会議の内容を一枚に集約してお知らせをしており、そこがまずスタートとなっております。まだまだ周知の部分については、足りていない部分も多いかなというところもあります。学校と地域が一緒になって活動する事案が増えてくると、だんだんにホームページ等でこういった形で、学校と地域で一緒に活動しています、というお知らせも増えてくるのかなというふうには考えておりますので、今後そういったことにも努めていきたいと思っております。
鈴木委員	ありがとうございます。現段階だとどの学校が一番進んで、コミュニティ・スクールが活発になっている感じですか。
事務局（山口）	それぞれの学園の特色を出しながらやっているところで、まだ導入したての学園については、何をどういうふうに進めていったら良いのかという部分がまだ定まっていないうなところもあり、本課の方でも、事前に打ち合わせなどにも行かせていただいて、話をしながら進めているところになっております。 取組の中でどこがというと、先端としてモデル校になって進めていただいていた吾妻学園では、キャリア教育に関しての活動などを継続的に計画されているというところもございます。他には、例えば春日学園ですと、学校の近くに交流センターもございますので、一緒になった活動として、学園祭とかそういったものに何か結びつけることが出来ないかとか、話し合ったりしているものが、徐々に形となってきているようなところがございます。
長橋委員	今の件なのですが、私は豊里学園のコミュニティ・スクール協議

	会の委員になっておりまして、まさに情報発信というところはコミュニティ・スクールを推進していく上での議論の中心になっています。我々が話し合っている内容をどう学校の保護者、子ども達や地域の方々に伝えていくかというところも議論の中心になっていて、皆さんになかなか伝えられないのも心苦しいなと思いながら、活動しているような状況です。 一つ、私達から出てきた意見としては、保護者の方・地域の方にとって学校の敷居をもっと下げられないかということです。これは豊里学園の取組なのですけれども、皆さんに気軽に学校に入ってきていただいて、学校の情報や状況を、自ら感じ取っていただきたいなというふうに思っています。やはり学校の方からの発信というのは限界があって、ホームページで発信するにしても見ていただけないというのがありますし、先ほどA4でまとめてという話もあって、それも少し関わらせていただいたのですが、硬い文章になってしまって、何を言っているのかわからないというのがありましたので、ぜひ、私達豊里学園としては、保護者の方、地域の方に学校にいらっしゃっていただいて、色々なものを感じ取っていききたいというふうに思っているところです。他の学園の状況についてはわかりませんが、私達のところはそういった状況ということをお伝えします。以上です。
武田会長	情報共有ありがとうございました。他いかがでしょうか。 それでは、以上をもちまして本日予定されておりました議事について、審議終了とさせていただきます。皆様、進行の御協力ありがとうございました。では進行を、事務局にお返しいたします。
事務局（澤頭）	委員の皆様、本日は大変貴重な御意見を多方面からいただきましてありがとうございます。本日、アンケートとワークショップの様

	々な御意見いただいたかと思ひます。アンケートは時間も労力もコストもかかります。何度も出せるものでもございせんし、ワークショップも、ただ市民の方に集まっていたくってということでは意味を成さないものになって参ります。本日いただきました御意見を踏まえまして、我々事務局といたしましても、策定する第4次計画では、どこを目指すのか、そして何を把握したいのか、様々なことを少し整理し、精査させていただきたいと思ひます。引き続き委員の皆様にはよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。
4 その他 事務局（瓜阪）	最後に、次回の開催時期についてですが、本日議事といたしました市民アンケートや市民ワークショップを委員の皆様からいただいた意見を踏まえまして検討・精査実施の上、令和7年3月に開催予定です。最後に委員の皆様から何か御発言はございますでしょうか。 ＜質問なし＞
5 閉会 事務局（瓜阪）	それでは以上をもちまして、令和6年度第2回生涯学習審議会を閉会いたします。なお、本会議の会議録については、事務局で作成の上、委員の皆様を確認の依頼をさせていただく予定でございますので、どうぞよろしくお願ひいたします。 それでは本日は長時間にわたりどうもありがとうございました。 以上

令和6年度第2回つくば市生涯学習審議会 次 第

日時 令和6年（2024年）9月30日（月）

午前10時00分から正午まで

会場 つくば市役所 203 会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 議 事

（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画策定について

（1）令和6年度第1回審議会のまとめと計画の構成イメージについて

（2）市民アンケート等の実施について

（3）市民参加（市民ワークショップ）の実施について

4 その他

5 閉 会

【配布資料】

資料1 令和6年度第1回審議会のまとめと計画の構成イメージ

資料2－1 （仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画に係るアンケート調査実施概要

資料2－2 市民アンケート調査票案

資料2－3 児童生徒対象WEBアンケート調査内容案

資料3 （仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画策定に係る市民参加実施概要

参考資料1 委員名簿

参考資料2 つくば市生涯学習審議会条例

令和6年度第1回審議会のまとめと計画の構成イメージ

目 次

第1回審議会のまとめ	2
令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会 議論のポイント	2
計画策定に係る基本的考え方（案）	4
計画の構成イメージ	5
計画の構成イメージ	5

令和6年度第1回審議会のまとめ

令和6年度第1回つくば市生涯学習審議会 議論のポイント

第1回審議会における主な御意見について以下のとおり整理を行いました。

【意見】

○「つながり」の重要性

- ・つながりをつくるための環境づくりや企画が必要である。
- ・個人だけでなく団体という面でもつながることが重要である。個人、地域、団体同士がつながるためにどうするか。
- ・「生涯学習」は教養を高めるものだけでなく、場に出向き、多様な人と関わり、「つながる」ことも大きな目的。



【対応】第4次計画においても「つながり」を一つの観点として、計画策定を進めます。

- ◆第3次計画の理念である「つながる 広がる つくばの生涯学習」を継承し、第4次計画でも「つながり」を重要視し、さらに発展させる計画づくりを進める
- ◆第3次計画の基本方針「学びの力をいかすことができる生涯学習の推進」について、より「つながりを広げていかす」ことにフォーカスを当て、計画づくりを進める
- ◆また、本計画で示す「学び」の定義を、自らの知識や技能を高めるものに加え、学びを伝えることにより伝えられた側が学び、自身もさらに学んでいく、さらに、学びを通して人と人のつながりが生まれ、広がっていくこと（学びの好循環）も含めて位置づける。なお、後述する子どもの生涯学習においては、多様な体験やふれあい等を含めて位置づける。

【意見】

○子どもの生涯学習

- ・子どもの頃から、生涯学習の大切さや考え方を理解し、マインドをもってもらう取組が必要である。
- ・地域と学校という観点では、コミュニティ・スクール（CS）という観点も重要である。



【対応】策定プロセスにおいて、「子どもの生涯学習」を意識してアンケートや市民参加を実施します。

- ◆児童生徒を対象としたアンケートを実施し、子どもの学びに対する意識と地域の関わりを把握
- ◆市民アンケートにおいて、CSや地域学校協働活動についての設問を取り入れ、実際に活動に参加する立場である市民の意識を把握
- ◆「子ども・青少年」の視点を取り入れたワークショップを実施

【意見】

○個別テーマや分野からのアプローチ

- ・計画立案にあたり、個別のテーマや分野（青少年の学びの場所、障害者、高齢者の文化教育など）からアプローチし、議論していくことも必要である。



【対応】策定プロセスにおいて、市民参加による議論の場を設定します。

- ◆策定プロセスとして、ワークショップにおいてライフステージ別によるテーマ（子ども・青少年、若者・働き世代、高齢者を想定し、障害者については各ステージに内包し実施予定）を設定し、議論を深める場を設ける（※審議会委員に参加いただくことも想定して準備検討）

【意見】

○第4次計画の中で議論する範囲について

- ・以下の概念について第4次計画で議論する範囲に関する市の考えを示してほしい。
- ・学校教育について、計画の中で論じるのかどうか（児童生徒の生涯学習）。
- ・地域という言葉に対して、地理的な地域を重視して区会といったテーマを中心的に議論したいのか、コミュニティという言葉で表現されるもう少し広い領域をカバーして議論するのか。



【対応】本計画においては以下のように整理します。

- ◆本計画の中での「子ども（児童生徒）の生涯学習」については、学校教育については原則含まず、学校外での学びを範囲とするものとして整理
- ◆本計画の中での「地域」は、地理的な地域、区会等といった地縁のつながりに限定せず、「コミュニティ」という観点で捉え、共通の目的や興味によって結びついた人と人のつながりも含める。

計画策定に係る基本的考え方（案）

計画の策定においては、以下のような考え方にに基づき、計画づくりを推進します。

◆計画の連続性と発展性をもった、上位関連計画と整合を図る計画づくり

- 生涯学習の成果をいかして、つながり、社会課題等の解決に取り組む人材（社会力を持った人材）を育成する第3次計画の理念を継承しながら、つくば市の「ウェルビーイング（幸せ）」に向けて、よりその「つながり」が広がり・発展していく計画づくりを推進する
- 国・県の計画や方針等を参酌し新たな視点を盛り込むとともに、市の最上位計画「つくば市未来構想・つくば市戦略プラン」と、教育全般の指針「つくば市教育大綱」等との整合を図る

◆個別計画としてのオリジナリティを発揮する計画づくり

- つくば市の生涯学習に係る基礎データを整理・分析するとともに、市民アンケートや市民ワークショップ等の結果を分析し、市民ニーズや現在のつくば市の課題等を明確化する
- 市民が共有できる基本理念と、計画の実現性を担保する個別施策・事業を位置づける
- 総花的ではなく、オリジナリティを持った計画づくりを目指すため、計画期間の5年間で重点的に取り組む事項を明確化するとともに、その実現方策を検討する
- 「生涯学習の成果をいかして地域や社会の課題に取り組む」視点を強化するとともに、身近なものから大きな社会課題に取り組むものまで、取組が等しく評価される環境づくりを推進する
- 子どもの頃から生涯にわたり、持続可能で能動的に「学び」続けることへの意欲を育む環境づくりに資する計画づくりを推進する

◆市民参画を強化する計画づくり

- 市民ワークショップを実施し、個人の視点で理想の「学び」の姿を深め、共有するとともに、つくば市での理想の「学び」の姿を共有する機会を設ける

◆効果的な進行管理の実現と進捗状況の評価・検証に基づく計画づくり

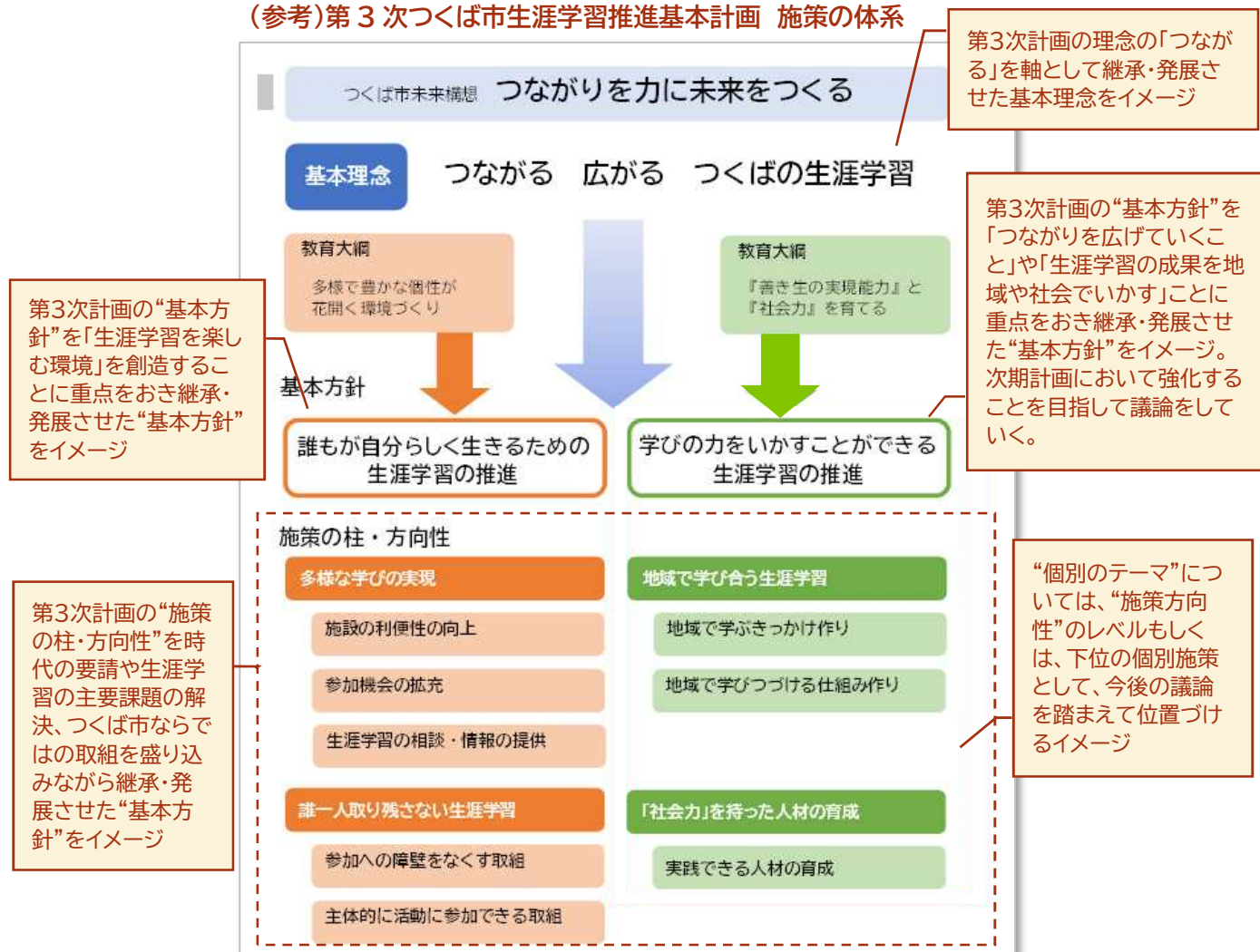
- 計画の達成状況及び進捗状況进行评估・検証し、計画推進上の課題を明確化する計画づくりを推進する
- PDCAの在り方を位置付け、効果的な進行管理ができる計画づくりを推進する

計画の構成イメージ

計画の構成イメージ

- 計画は、“**基本理念**” “**基本方針**” “**施策の柱（基本目標）**” “**施策の方向性**” によって構成します。
- “**基本理念**” は「つくば市未来構想－まちづくりの理念」を受けるとともに、現計画の“基本理念”を「つながる」を軸として継承・発展させたものをイメージしています。
- “**基本方針**” は「つくば市教育大綱」を受けるとともに、現計画の“基本方針”を継承・発展させたものをイメージしています。
- “**施策の柱（基本目標）**” 及び “**施策の方向性**” は計画の継続性を踏まえつつ、時代の要請や、つくば市を取り巻く生涯学習の新たな課題への取組、つくば市ならではの新たな取組が盛り込まれるよう、現計画を継承・発展させたものをイメージしています。

(参考)第3次つくば市生涯学習推進基本計画 施策の体系



※具体的な内容については、ワークショップや第3回審議会以降において審議予定です。

(仮称)第4次つくば市生涯学習推進基本計画に係るアンケート調査実施概要

1. アンケート調査の目的

「(仮称)第4次つくば市生涯学習推進基本計画」の策定にあたり、現計画の評価のために必要な事項の経年変化を測り、市民の生涯学習活動への取組状況や今後の学習意向などを把握するとともに、地域に関する考えや、本市の生涯学習に対する市民意識と今後の生涯学習施策の方向性についての御意見を伺い、計画策定の基礎資料とするため、市内在住の18歳以上の市民3,000人を無作為抽出し、アンケート調査を実施するものです。

また、併せて、本市の未来をつくる若い世代の生涯にわたる学びに対する意識や、地域との関わりの状況を把握するために、児童生徒を対象とするアンケートを実施します。

◆アンケートの種類と実施概要

①市民アンケート

対 象	：18歳以上の市民 3,000人（層化無作為抽出）
実施期間	：令和6年11月（2週間程度）予定 （仮）11月1日（月）～18日（日）
調査方法	：郵送・WEB調査（選択式）
スケジュール	：郵送分印刷・WEB設計 10月中下旬
	調査実施 11月～
	集計解析 12月～
	まとめ 1月～

②児童生徒対象アンケート

対 象	：小学5年生の全児童 約2,600人 中学2年生の全生徒 約2,200人
実施期間	：令和6年11月下旬～12月上旬予定
調査方法	：WEB調査
スケジュール	：WEB設計 10月中下旬
	調査実施 11月下旬～12月上旬
	集計解析 12月中旬～
	まとめ 12月下旬～

3. アンケートの構成案について

①市民アンケート（10P 程度を想定）

アンケートの内容については、現計画の評価のために必要な項目と経年で傾向を把握する設問を基礎として、そこに次期計画に新たに盛り込むべき方向性を踏まえた設問を設定します。

【現計画策定時アンケートの主な項目】 1. 回答者の属性について 2. 回答者の日頃の生活のことについて 3. 回答者自身の学習について 4. この1年間の回答者の学習について （＋生涯学習の施策について）	⇒	【今回の主な調査項目】 1. 回答者の属性について 2. 過去1年間の学習について 3. これからの学びについて 4. 日頃の生活や地域のことについて 5. つくば市の生涯学習について ※大項目は前回から大きく変えず、項目の順番及び表現や内容を精査。
【経年比較により傾向をみる設問】 ○生涯学習への関心（指標利用） ○★学習成果の社会貢献意向（指標利用） ○★実際の学習活動の状況（指標利用） ○市に重点的に取り組んでほしい施策 ○★「社会力」の考え方について	⇒	【今回強化した設問】 ★学習成果の社会貢献意向 ○「社会貢献の意向がない方」への行動阻害要因を掘り下げる設問 ★実際の学習活動の状況 ○「現在していない」方で「時間がないから」を理由とした人への行動阻害要因を掘り下げる設問 ○実際に成果をいかしているかの設問 ★「社会力」の考え方について ○社会力についての設問の修正（認知度を図るもの、または市民目線で社会力が浸透しているかについて問うもの） ※次期計画では社会力の考えを継続しながら、成果をいかすことを強化。

＋

【新たな社会潮流に関する設問（案）】 ○ウェルビーイング（幸福度）について ⇒（生涯学習の視点で）幸せを感じる要因（感じる・感じない4段階） ・知識を得たり技能が磨かれることに幸せを感じますか ・誰かの役に立つことに幸せを感じますか ・近所づきあいなど人や地域と関わることで幸せを感じますか ○コミュニティ・スクール、地域学校協働活動の設問 ⇒CSの認知度、地域学校協働活動への参加意向について ○リカレント教育など（選択肢として追加） ※次期計画に新たに盛り込むべき方向性・社会的潮流としておさえてく設問を追加。

②児童生徒対象アンケート

児童生徒の生涯にわたる学びに対する意識や、地域との関わりの状況を把握するための設問を検討します。

計 13 問

●回答者自身について
○性別 ○学年 ○差し支えなければ学校名を教えてください。(おおよそ地域の把握)
●授業の時間以外の学びについて
○あなたは現在、学校の授業・部活動以外で学んでいること、取り組んでいることはありますか。 ⇒【限定】それはどのようなことですか。 ○学校の授業以外でこれから学んでみたいこと、取り組んでみたいことはありますか。 ⇒【限定】その分野を気軽に学んだりすることができる機会があったら参加したいですか。 ⇒【限定】取り組みたいことが「ない・わからない」と回答した方、その理由はなんですか。 ○つくば市は、大人になっても自分が学びたいことが学べるまちだと思いますか。 ※子どもの視点での学びについての把握。
●地域のことについて
○地域の人たちとよくあいさつしたり、話をしたりしますか。 ○地域の行事やボランティアに参加したことはありますか。 ○地域の人から何かを教わったり、一緒に取り組んだことはありますか。(学校の授業、課外授業での体験なども含みます。※塾や習い事は除く。) ○地域の人からこれから教わってみたいことや、地域でやってみたいことはありますか。 ※児童生徒の地域への親しみや、地域との交流経験の把握など。

市民意識調査への御協力をお願い

つくば市の生涯学習について
御意見をお聞かせください

このたび、つくば市では、「学び」を通じて市民の皆様一人ひとりが幸せな人生を送り、また成果をいかして、人と人がつながり、地域を豊かにするため、生涯学習施策の一層の充実を図るべく、(仮称)「第4次つくば市生涯学習推進基本計画」の策定に取り組んでいます。

計画策定にあたり、市民の皆様の生涯学習の現状、生涯学習に対する考えや御要望等を把握し、計画策定や施策の推進に役立てることを目的としてアンケート調査を実施することとなりました。

なお、回答をお願いする方は、地区ごとに人数を割り振り、無作為に3,000名を選ばせていただきました。回答は、無記名で、結果は統計的に処理いたしますので、回答した方が特定されたり、回答内容が漏れたりすることはありません。

皆様の回答は、つくば市の今後の生涯学習の充実のための重要なデータとなります。調査の趣旨を御理解の上、御協力くださいますようお願いいたします。

令和6年11月 つくば市

◆生涯学習とは◆

家庭、学校、職場、地域、TVマスメディア等で行われる全ての学習活動をさし、教養的なものだけでなく、スポーツ・芸術・文化・ボランティア・レクリエーション・趣味等も含まれます。

御記入にあたってのお願い

- 1 御回答は、調査票の宛名の御本人がお答えください。御本人が記入することが難しい場合は、御家族や身近な支援者の方などが代わり御本人の意見を聞きながら記入ください。
- 2 本調査は紙の調査票(本調査票)での御回答とインターネットでの御回答が可能です。
- 3 インターネットでお回答くださる方は、パソコン、タブレット、スマートフォンで下記のURLまたは、右の二次元コードからアクセスをお願いします。
(所要時間およそ10～15分程度)
アクセス用URL: <https://>
- 4 インターネットでお回答くださる方は、紙の調査票の返送は不要です。
(どちらかで御回答をお願いします)
- 5 御記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒にて、**11月18日(月)**までに、郵便ポストに投函くださいますようお願いいたします。(記名や切手は不要です。)
インターネットでお回答いただく場合も、**11月18日(月)**までに御回答をお願いします。
- 6 この調査に関する御不明点や御質問などのお問合せは、下記までお願いします。

【問合せ先】つくば市教育局生涯学習推進課 電話:029-883-1111(内線4520)

あなた御自身のことについてお伺いします

○記入は、黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。

○御回答は、あてはまる番号を選択または文字や数字を記入してください。一つだけ選ぶ質問と複数選ぶ質問があります。「その他」を選んだ場合は、具体的な内容を御記入ください。

(1) 性 別

1. 男性	2. 女性	3. 無回答
-------	-------	--------

(2) 年 齢

1. 10 歳代	3. 30 歳代	5. 50 歳代	7. 70 歳代
2. 20 歳代	4. 40 歳代	6. 60 歳代	8. 80 歳以上

(3) あなたの職業

1. 自営業主・自由業（商店や会社の経営等）	5. 専業主婦（主夫）
2. 農林水産業	6. 学生
3. 会社員・公務員	7. 無職
4. アルバイト・パートタイマー	8. その他（ ）

(4) あなたは「つくば市」に在住して何年になりますか。

1. 1 年未満	3. 10 年未満	5. 20 年以上（他から転入してきた）
2. 4 年未満	4. 20 年未満	6. 20 年以上（生まれてからずっと住んでいる）

(5) あなたが居住している中学校区はどちらですか。

1. 秀峰筑波（筑波東）	8. 谷田部東	15. 高崎	※中学校区がわからない場合は、下記に地名（行政区名）を記入してください。 地名
2. 秀峰筑波（筑波西）	9. 桜	16. みどりの	
3. 大穂	10. 竹園東	17. 学園の森	
4. 豊里	11. 吾妻	18. 研究学園	
5. 谷田部	12. 並木	19. みどりの南	
6. 手代木	13. 春日		
7. 高山	14. 荃崎		

この1年間のあなたの「学び」についてお伺いします

★指標 問1 あなたはこの1年間に何かを学んだり、身につけたり、技能を高めたりしたことがありますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

(講座・教室に参加したり、展示会、演奏会、講演会などに行ったりするだけでなく、先生やコーチにいたり、自宅で本を読んだり、テレビやラジオ、動画を見たり聞いたりして学んだことを含みます。)

1. ある

2. ない

① 「2. ない」方のみ。学習しなかった理由は何ですか。
○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. そういふことは好きではない | 7. 近くに学習する場所がない |
| 2. 何をどのように学習してよいかわからない | 8. 学習できる場所がわからない |
| 3. 一緒に学ぶ仲間がいない | 9. 家族や職場などの周囲の理解が得られない |
| 4. 病気や心身等の不調のため | 10. 特に理由はない |
| 5. 費用が高いため | 11. その他 () |
| 6. 時間がない | |

※「6 時間がない」以外を選んだ方はP.4の問2へお進みください。

追加② 「6. 時間がない」を選んだ方のみ。どうしたら学習をしようと思えますか。○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. いつでも学習できる方法があったら | 6. 簡単にできる学習方法があったら |
| 2. どこでも学習できる方法があったら | 7. 興味がある学習内容があったら |
| 3. 子育て等に必要な学習内容があったら | 8. 詳しい情報があったら |
| 4. 仕事等に必要な学習内容があったら | 9. その他 () |
| 5. 親子で一緒に学習できる方法があったら | |

傾向として概ね「時間がない」が多い
ため、行動阻害要因を掘り下げる設問

※P.4の問2へお進みください。

問1-1 あなたが学んだことはどのようなことですか。3つ選び最も力を入れたものの順に□に番号を記入してください。

1位

2位

3位

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1. 仕事に役立つ学習や資格取得・リカレント教育※
(コンピュータなどの技能習得も含む) | 11. 人権問題 |
| 2. 健康の維持・増進や医療 | 12. 男女共同参画・ジェンダー問題 |
| 3. 消費・食生活など家庭生活の在り方 | 13. 文化財の理解・保護や活用 |
| 4. 子どものしつけや教育の在り方 | 14. 芸術・芸能 |
| 5. カウンセリングなど心の悩みを解決すること | 15. スポーツ・レクリエーション活動 |
| 6. 生活設計や金融教育 | 16. 自治会・区会などの地域活動 |
| 7. 高齢者や障がい者などの福祉問題 | 17. 子ども会やスポーツ少年団などの
青少年の育成活動 |
| 8. 防災 | 18. ボランティア活動 |
| 9. ゴミ処理・リサイクル・自然保護などの環境問題 | 19. 外国籍の人たちとの交流 |
| 10. 外国語・文学・歴史・哲学・法律・科学などの
知識・教養の向上や自己啓発 | 20. 自然体験や生活体験など |
| | 21. その他 () |

※リカレント教育とは、社会人になってから自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを得るための学びのことです。

問1-2 あなたはそれをどのような方法で学びましたか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. 自宅での学習活動（書籍など） | 6. 職場の研修 |
| 2. インターネットによる情報収集 | 7. 学校の公開講座や教室 |
| 3. オンライン講座（YouTube やアプリなど） | 8. 市が行う講座や講習会 |
| 4. ラジオ・テレビの講座 | 9. サークルなど仲間同士の学習会 |
| 5. 個人的に先生に習う | 10. その他（ ） |

問1-3 あなたはそれをどこで学びましたか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1. 小・中学校、高等学校 | 8. 子育て総合支援センター、広場、クラブなどの地域子育て支援拠点 |
| 2. 大学（専門学校を含む） | 9. 職業訓練所・各種試験場・研究所 |
| 3. 地域交流センター | 10. カルチャーセンターなどの民間施設 |
| 4. 図書館 | 11. 地域の集会所 |
| 5. 体育館・運動公園などのスポーツ施設 | 12. 講師・指導者宅 |
| 6. 市民ホール、児童館、老人福祉センター、保健センター、市役所などの公共施設 | 13. 自宅または知人宅 |
| 7. 商工会・農協 | 14. その他（ ） |

追加問1-4 あなたは、その学びの成果をどのようにいかしていますか。あるいはいかせると思いますか。○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 仕事や就職の上でいかしている（いかせる） | 5. 自分の人生を豊かにしている（豊かにできる） |
| 2. 地域や社会での活動にいかしている（いかせる） | 6. いかしていない（いかせない） |
| 3. 家庭・日常の生活にいかしている（いかせる） | 7. その他（ ） |
| 4. 健康の維持・増進に役立っている（役立てられる） | |

実際にいかしているか（国 生涯学習に関する世論調査より）

問2 あなたは、「学び」に関する情報として、今どのようなことを知りたいですか。主なものを3つまで選んで、その番号に○をつけてください。（1つや2つでもかまいません）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. どんな催しものや講座があるか | 6. 学習について相談できる人や場所 |
| 2. 利用できる施設の内容や方法 | 7. 学習にかかる費用や期間 |
| 3. 一緒に活動する仲間やグループ | 8. 学習の成果をいかせる場所や機会 |
| 4. 学習を行うために必要な指導者 | 9. 特にない |
| 5. 学習に必要な資料や本 | 10. その他（ ） |

問3 あなたは、市が行う講座や講習会の情報をどのようにして知ることが多いですか。主なものを3つまで選んでその番号に○をつけてください。（1つや2つでもかまいません）

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1. 新聞・雑誌・ミニコミ紙 | 7. 市 Facebook・X 等の SNS・つくスマ |
| 2. ポスター・チラシ・パンフレット | 8. インターネット（パソコン・携帯等） |
| 3. 自治会の回覧 | 9. 友人・知人を通じて |
| 4. 市役所や地域交流センター等の公共施設 | 10. 学校・職場 |
| 5. 広報つくば | 11. 特に情報は得ていない |
| 6. 市ホームページ | 12. その他（ ） |

問4-4 あなたはそれを何のために学びたいと思いますか。主なものを1つだけ選んで、その番号に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 趣味・教養を深めるため | 7. 展示会、発表会、試合などに役立てるため |
| 2. 健康の維持や体力づくりのため | 8. 友人を作るため |
| 3. 生きがいづくりのため | 9. 老後を豊かに過ごすため |
| 4. 日常生活に必要な知識・技術を身につけるため | 10. 講師や指導者として他人に指導するため |
| 5. 職業生活や就職・転職に役立てるため | 11. その他（ ） |
| 6. ボランティア活動など、地域づくりに役立てるため | |

★指標 問4-5 あなたは御自身の学習成果をつくば市のまちづくりに役立てたいと思いますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

追加①「2. いいえ」の方のみ。役立てたいと思わない理由はなんですか。
○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 自己の楽しみや自主学習が目的だから
2. 一緒に取り組む仲間がいないから
3. 自身の知識・技術が未熟だと思うから
4. 役立てるために必要な情報が手に入らないから
5. きっかけや機会、場がないから
6. まちづくりには必要ないと思うから
7. その他（ ）

※P.7の問5へお進みください。

行動阻害要因の掘り下げ

問4-6 あなたは学習の成果を地域や社会でどのような形でいかしたいと思いますか。○はいくつつけてもかまいません。あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1. 学校での学習支援 | 8. 介護支援活動 |
| 2. 学校での部活動等の支援 | 9. 子育て支援活動 |
| 3. 地域美化活動 | 10. 講座などの講師 |
| 4. 交通安全活動 | 11. 知識・技能等の伝達、伝承 |
| 5. 防災・防犯活動 | 12. 学習やスポーツ、文化活動などの実践や指導 |
| 6. ボランティア活動や地域活動等の実践や指導 | 13. 個人の資格等を活用し、職業を通しての社会貢献 |
| 7. 民生委員児童委員、保護司、人権擁護委員等としての活動 | 14. 民間団体（企業含む）への指導・支援 |
| | 15. その他（ ） |

あなたの日頃の生活や、地域のことについてお伺いします

問5 あなたは普段の生活で下記のようなことについて、どのように感じていますか。下記の質問について、4つの中から1つ選んで、その番号に○をつけてください。

①御自身のことについて

ウェルビーイング（幸せ）の問

1	知識を得たり技能が磨かれることに幸せを感じますか	感じる	1	2	3	4	感じない
2	誰かの役に立つことに幸せを感じますか	感じる	1	2	3	4	感じない
3	近所づきあいなど人や地域と関わることに幸せを感じますか	感じる	1	2	3	4	感じない

②地域のことについて

4	地域で解決したり、改善しなければならない問題は	多い	1	2	3	4	少ない
5	地域の行事や活動への参加は	多い	1	2	3	4	少ない
6	地域のリーダーとして活動している人は	多い	1	2	3	4	少ない

問6 あなたは、日頃、地域団体・クラブ・サークルなどに入って活動していますか。どちらかあてはまる番号に○をつけてください。（ただし、学校のクラブは除きます。）

1. はい

2. いいえ

①どのようなグループですか。
（いくつ○をつけてもかまいません。）

1. 趣味のグループ・サークル
2. シルバークラブ・グループ・サークル
3. 女性団体・グループ・サークル
4. 社会的な奉仕活動をする団体・グループ・サークル
5. スポーツの団体・グループ・サークル
6. 青少年の育成団体・グループ・サークル
7. PTA・おやじの会等の学校に関わる活動組織
8. その他（ ）

②なぜ入っていないのですか。
（いくつ○をつけてもかまいません。）

1. 近くに適切な活動がない
2. 誘われたことがない
3. 忙しくて入れない
4. どんな活動があるか知らない
5. 病気や心身等の不調のため
6. そういうことを考えたことがない
7. そういうことが好きではない
8. その他（ ）

*lp

追加問7 学校と地域が連携して学校運営を行う「コミュニティ・スクール^{※1}」の取組を知っていますか。1つを選んで○をつけてください。

1. 言葉も取組内容も知っている 2. 言葉のみ知っている 3. 知らない

※1 「コミュニティ・スクール」とは

学校運営協議会（保護者や地域住民などが委員）を設置している学校のことです。学校と保護者や地域の方々とともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みのことです。

令和5年度までに9学園で導入しており、令和7年度までにすべての学園で導入予定です。

コミュニティ・スクールの認知度

追加問8 学校と地域が連携・協働して、登下校の見守りやあいさつ運動、地域資源をいかした体験活動や校外学習のボランティア、職場体験の手伝いなど、様々な活動（地域学校協働活動※2）に取り組んでいます。あなたのお住まいの地域で、このような活動がある場合、参加したいと思いますか。1つを選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 参加したい | 4. 参加したいが難しい |
| 2. 大人になったら、または今後参加したい | 5. 参加したいとは思わない |
| 3. 活動内容によっては参加したい | 6. わからない |

追加① 「4. 参加したいが難しい」、「5. 参加したいとは思わない」方のみ。

その理由は何ですか。○はいくつつけてもかまいません。

あてはまる番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. どんな活動があるか知らない | 7. 家族や職場などの周囲の理解が得られない |
| 2. 活動への参加方法がわからない | 8. そういうことは好きではない |
| 3.一緒に活動してくれる仲間がいない | 9. 特に理由はない |
| 4. 地域や学校と関わりがない | 10. その他（ ） |
| 5. 病気や心身等の不調のため | |
| 6. 時間がない・忙しい | |

※P.9の問9へお進みください。

※「1」「2」「3」「6」を選んだ方はP.9の問9へおすすみください。

※2 「地域学校協働活動」とは

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等が参画して、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるとともに、「地域とともにある学校づくり」を進めるために、地域と学校がパートナーとなり、相互に連携・協働して行う様々な活動のことです。

地域学校協働活動の参加意向と
行動阻害要因を掘り下げる設問

つくば市の生涯学習についてお伺いします

追加問9 つくば市では、生涯学習や社会教育の充実により、市民一人ひとりの「社会力※3」を高めるよう取り組んでいます。あなたは「社会力」という考え方を知っていますか（見聞きしたことがありますか）。1つを選んで○をつけてください。

1. 言葉も考え方も知っている 2. 言葉のみ知っている 3. 知らない

または

つくば市「社会力」の認知度

追加問9 つくば市では、生涯学習や社会教育の充実により、市民一人ひとりの「社会力※3」を高めるよう取り組んでいます。あなたのお住まいの地域は、「社会力」がいかされた地域になっていると思いますか。1つを選んで○をつけてください。

1. なっている 3. どちらかと言えばなっていない 5. わからない
2. どちらかと言えばなっている 4. なっていない

市民目線でのつくば市「社会力」の浸透度

問10 あなたは、市民の「社会力」を高めるために、どのようなことをしたらよいと思いますか。提案やアイデアなどを、ご自由にお書きください。

※3 「社会力」とは

これまで、色々な場所や機会に学んで身につけた知識や技能などを、自分の人生を豊かにするだけでなく、他の人の人生を豊かにするために、お互いを役立て、そうすることで住みよい地域や社会を作ろうとする意識やそれを実行する力のことです。

問 11 あなたが、下記の選択項目で、今後つくば市に力をいれて欲しいと思う取組はどれですか。
力をいれて欲しい順に3つ選んで□に番号を記入してください。

1 位

2 位

3 位

◆学習機会の提供

1. 仕事にいかせる学習の機会をつくる
2. 子育てにいかせる学習の機会をつくる
3. 市民と外国人の交流の機会をつくる
4. 自然環境の保全への理解と関心を深める機会をつくる
5. 科学技術について市民の理解と関心を深める機会をつくる
6. 地域のことを学習できる機会をつくる
7. 防災のことを学習できる機会をつくる
8. 地域交流センターなどの公共施設で行う講座・講習会を開催・充実する
9. 市内の大学・研究機関との連携を進める

◆地域文化の保存・継承

10. 文化財の保存・保護を進める
11. 地域の祭り・伝統行事の継承を進める

◆人材の育成

12. 個人の学習成果や技能を活かせる場や機会をつくる
13. 資格や免許が取得できる講習会を開催・充実する
14. 指導者やボランティアの育成・支援を進める

◆情報提供や公共施設の利用

15. 学習や文化・趣味・スポーツなど多くの情報を市民に知らせる
16. 公共施設をより手軽に利用できるようにする

◆その他

17. その他（ ）

最後に、社会教育、生涯学習のあり方やアイデアなどについて御意見や御要望がありましたら、お聞かせください。

質問は以上です。お忙しいところ御協力ありがとうございました。

お手数ですが、同封の返送用封筒に入れ封をし、11月18日(月)までにポストに投函してください。
(インターネット回答の方も、11月18日(月)までに入力をお願いします。)
調査結果は市ホームページなどに公表を予定しております。

児童生徒対象WEBアンケート調査内容案

資料2-3

↓ SAは1つのみ選択可 MAは複数選択可 FAはフリーアンサー(記述式)の意味

[illegible]

資料2-3

[illegible]

（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画策定に係る 市民参加実施概要

1. 市民参加の目的等

1) 目的

◇当市民参加は、（仮称）第4次つくば市生涯学習推進基本計画（以下「第4次計画」）の策定にあたって、市の生涯学習推進に係る現状や課題、今後の方向性に向けた市民の意向を聴取し、計画策定の基礎資料とするために行うものです。

◇市民参加の手法については、テーマに関心がある人が集まり、話し合いを通じて多様な視点を共有したり、共同作業を通じて創造的なアイデアを考えたりすることができる「市民ワークショップ」で実施します。

2) テーマについて

◇昨今においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える「ウェルビーイング（Well-being）」の考え方が重視されています。

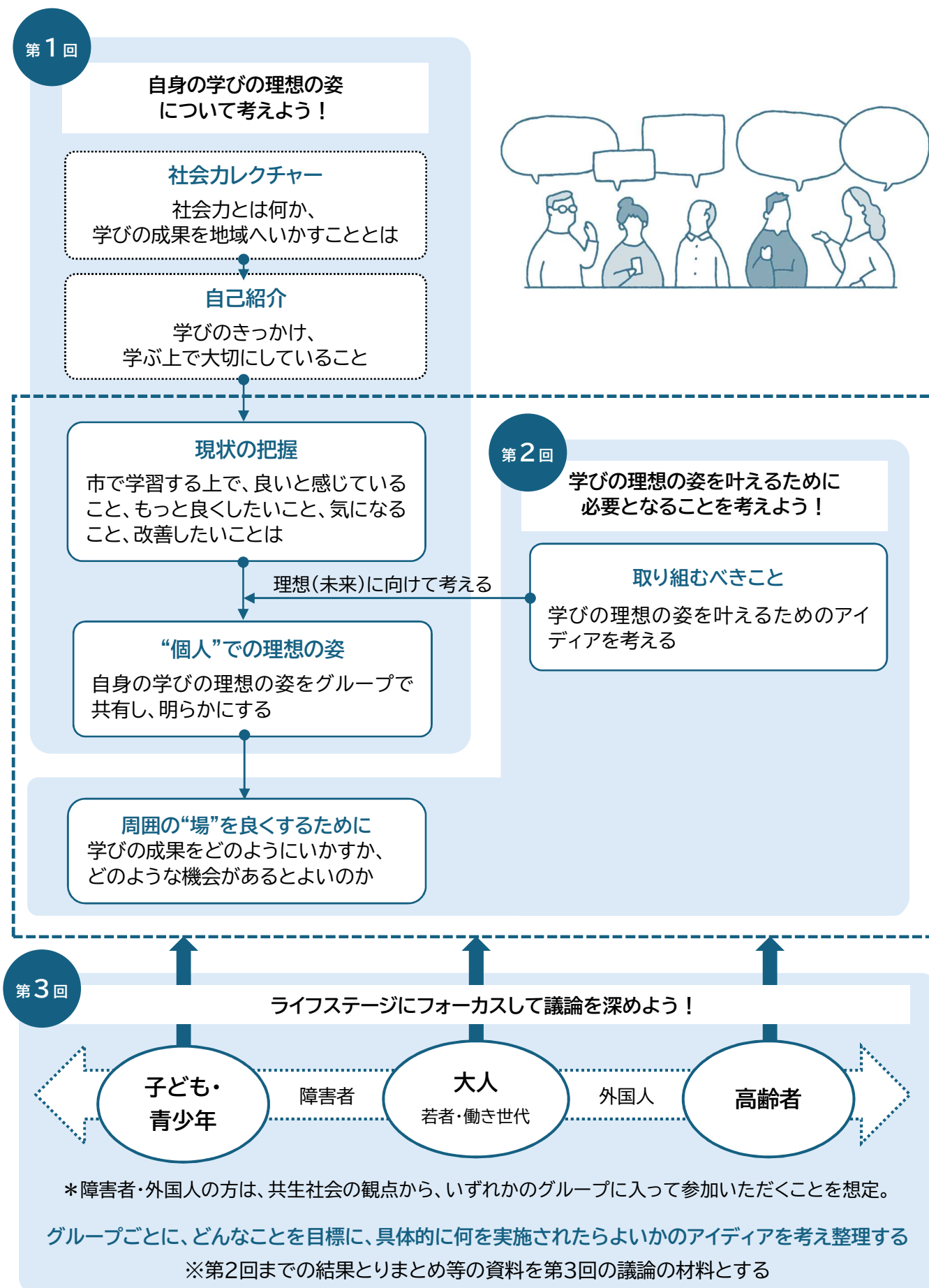
◇第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（令和4年8月）において、ウェルビーイングを考える上では、個人の主観的な側面だけではなく、他者との良好な関係性の構築といった社会的環境が持続的に良い状態になるよう、個人の周囲の環境を支えていくアプローチが必要とされています。

◇今回実施する市民ワークショップでは、このウェルビーイングの実現を目指すため、全体テーマを「“学び”を通して人生を幸せに！ “学び”の成果をいかして地域※を豊かに！」とし、市民一人ひとりの学びの目的や大切にしたいことなど、“学びへの想い”を共有しながら、つくば市での理想の学びの姿や、学びの成果を地域や社会の課題にいかすことなどについて、全3回の開催を通じて具体的に考えてもらうこととします。

※本ワークショップでの「地域」とは、地理的な地域、区会といった地縁団体に限らずに、人と人とのつながりによって生まれる関係として広く捉えます。



◇全3回の進め方（考え方）フロー図



2. 市民ワークショップの概要

1) 全3回に関する内容

<市民ワークショップの全体テーマ> “学び”を通して人生を幸せに！ “学び”の成果をいかして地域を豊かに！				
<ワークショップの狙い・成果> ・ウェルビーイングの実現に向けては、①“<u>個人</u>”の幸せ+②<u>周囲の“場”</u>が良い状態であることが重要です。 ・市民ワークショップでは、まず①“<u>個人</u>”の幸せに着眼し、自身が生涯に渡り学び続けていく上での理想の姿を明らかにしてもらいます。(→第1回) ・そのうえで、理想の姿を叶えるためのアイデアを考えてもらい、さらに、②<u>周囲の“場”</u>が良い状態にするために、学びの成果を「地域」や「社会」にどのようにいかしていくのかを考えてもらいます。(→第2回) ・最後に、これらの実現に向けて取組を推進していくために、各論（ライフステージ別）に応じて、議論を深め理想の姿と取組を整理します。(→第3回)				
人数など	計 20 名程度（1 グループ 7 名程度× 3 グループ） 想定する対象者： 大学生、社会人（20～60 代）、高齢者、生涯学習指導者、障害者、外国人（※日本語の話せる）、生涯学習にかかわる団体の関係者（生涯学習審議会委員も想定） など			
日程		日	時	場所
	第1回	11月30日（土）	9時～12時	つくば市役所 203 会議室
	第2回	12月7日（土）	9時30分～12時30分	コリドイオ 会議室
	第3回	12月21日（土）	9時30分～12時30分	コリドイオ 会議室

3) 各回の内容

■第1回 (11月30日 (土))

第1回テーマ 「自身の学びの理想の姿について考えよう！」

◇プログラム

No	時間 (所要時間)	活動の狙い	活動の内容	場の設定
1	9:00 10分	オープニング	・開会 ・あいさつ	
2	9:10 20分		・開催主旨等説明 (本日の目的・流れの確認)	
3	9:30 30分	社会力について知る	・社会力レクチャー (講演 20分・質疑応答 10分)	講義形式で聞く
4	10:00 15分	話しやすくする	・自己紹介 「わたしの学びのきっかけ、学ぶ上で大切にしていきたいことは？」	グループで※ ¹
5	10:15 35分	現状・課題を共有する	・グループ討議1 「市で学習する上で、良いと感じていること、もっと良くしたいこと、気になること、改善したいことは何？」 －個人で考える (5分) －意見交換 (15分) －みんなの意見を分類・整理 (15分) ※ ²	
6	10:50 10分	休憩		
7	11:00 35分	理想の姿を共有する	・グループ討議2 「自身の学びの理想の姿とは？」 －個人で考える (5分) －意見交換 (15分) －意見交換を踏まえて、各自の理想を深掘り (15分)	
8	11:35 15分	全員で共有	・発表 －1グループ 5分×3グループ	
9	11:50 5分	皆で共有	・総評	
10	11:55 5分	クロージング	・次回に向けての案内 (宿題→課題解決のアイデアを考える) ・閉会	

※¹ グループ分けは、年齢・性別・居住地・所属等を考慮して3グループを設定

※² 討議におけるみんなの意見を分類・整理するための切り口 (例)

機会：企画・イベント、講座、学び方などに関して意見交換

人：組織づくりや人づくりなどに関して意見交換

場・情報：施設や設備等、情報発信に関して意見交換

■第2回（12月7日（土））

第2回テーマ 「学びの理想の姿を叶えるために必要となることを考えよう！」

◇プログラム

	時間（所要時間）		活動の狙い	活動の内容	場の設定	
1	9：30	10分	オープニング	・開会 ・あいさつ		
2	9：40	20分		・開催主旨等説明 （振り返り、本日の目的・流れの確認）		
3	10:00	45分	理想の姿に向けてアイデアを考える	・グループ討議1 「学びの理想の姿を叶えるためのアイデアを考えよう！※2」 －前回の振り返り（10分） －個人で考える（5分） －意見交換（15分） －みんなの意見を分類・整理（15分）※3	グループで※1	
4	10：45	10分	休憩(他のグループの内容を見て良い時間にもする)			
5	10：55	40分	個人の理想の姿を実現した先を考える	・グループ討議2 「学びの成果を地域や社会にどうい かす？」 －個人で考える（5分） －意見交換（15分） －みんなの意見を分類・整理（15分） －個人発表に向けてシートの記入（5分）		
6	11：35	10分	休憩(発表準備)			
7	11：45	35分	皆で共有	・発表 －理想の姿を実現するために取り組むべきこと（グループの代表が発表）（15分） －自分らしい学びの理想の姿と学びの成果のいかしかた（グループごとに1人ずつ発表）（20分※1分/人×20人）		
8	12：20	5分	皆で共有	・総評		
9	12：25	5分	クロージング	・次回に向けての案内 ・閉会		

※1 第1回と同じグループとする。場合によってはメンバーの変更も検討。

※2 自身の学びの理想の姿に限らず、つくば市全体としての学びの理想も含めたアイデアを出してもらう。

※3 グループ討議1のアイデアを考えてもらう上での視点

時間：すぐにできること／数年以内にやること／目指していくべきこと

主体：市民ができること／企業等民間ができること／地域ができること／市（行政）ができること

■第3回（12月21日（土））

第3回テーマ 「ライフステージにフォーカスして議論を深めよう！」

◇プログラム

	時間（所要時間）		活動の狙い	活動の内容	場の設定
1	9：30	10分	オープニング	・開会 ・あいさつ	
2	9：40	20分		・開催主旨等説明 （振り返り、本日の目的・流れの確認）	
3	10：00	45分		・グループ討議1 「ライフステージごとに目指すべき姿を考えよう！」 －前々回・前回の振り返り・自己紹介（10分） －個人で考える（5分） －意見交換（15分）※2 －みんなの意見を分類・整理（15分）	グループで※1
4	10：45	10分	休憩		
5	10：55	40分		・グループ討議2 「目指すべき姿を実現するために、取り組むべきことは何？」 －個人で考える（5分） －意見交換（20分） －みんなの意見を分類・整理（15分）	
6	11：35	10分	休憩		
7	11：45	15分	全員で共有	・発表 －1グループ5分×3グループ	
8	12：20	5分		・総評	
9	12：25	5分		・とりまとめ・計画に関するご案内 ・閉会	

※1 事前に出席者に希望をとり、グループを「子ども・青少年」「大人（若者・働き世代）」「高齢者」のライフステージごとに分けることを想定。なお、障害者・外国人の方は、共生社会の観点から、上記3グループのいずれかに入って参加いただくことを想定。

※2 第2回までの結果のとりまとめ（分類等を行う）等の資料を第3回の議論の材料とする。